



TITLE:

京都大学胸部疾患研究所年報(昭和 63 年度)

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学胸部疾患研究所年報(昭和 63 年度). 京都大学胸部疾患研究所
紀要 1989, 22(1/2)

ISSUE DATE:

1989-10-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/51625>

RIGHT:

京 都 大 学

胸部疾患研究所年報

昭 和 6 3 年 度

(1 9 8 9 年 3 月)

京都大学胸部疾患研究所

京 都 大 学

胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 63 年 度

(1988 年)

京都大学胸部疾患研究所職員

(平成元年3月30日現在)

所 長 教 授 大 島 駿 作

環境生態学部門

(人間環境学分野)

教授：糸川嘉則（客員）

(環境呼吸器病学分野)

教授：大島駿作，助教授：門 政男，助手：北市正則，講師(非常勤)：日置辰一郎，中島道郎，佐藤篤彦，杉本幾久雄，今井弘行，中山昌彦，技官：今井保代・技能補佐員：谷岡文子，奥田敦子，今村美貴

(老化生物学分野)

教授：竹田俊男，助教授：細川昌則，講師：樋口京一，講師(非常勤)：馬場満男，里内 清，岩倉洋一郎，技官：松下隆壽，小岸久美子，岩井昭一，技能補佐員：門田一美，医員：内木定延

生態防御学部門

(感染・炎症学分野)

教授：久世文幸，助教授：川合 満，講師：網谷良一，講師(非常勤)：今井節朗，中井 準，岩田猛邦，辻野博之，中西通泰，田中健一，技官：本間トキエ，技能補佐員：片岡和美，石坪真理子

(免疫学分野)

教授：桂 義元，助教授：細野正道，助手：鐸田武志，勅使河原計介，講師(非常勤)：徳永 徹，湊 長博，佐渡敏彦，高沖宗夫，技官：高沖悠子，技能補佐員：中川澄江，(研修医)：松田 修

(臨床免疫学分野)

教授：泉 孝英，助教授：平田健雄

生態調節再建学部門

(臨床生理学分野)

教授：久野健志，助教授：大井元晴，講師(非常勤)：仲田 祐，山田久和，太田和夫，山林 一，中川正清，加藤幹夫，技能補佐員：服部央子，石田嘉子，

(胸部外科学分野)

教授：人見滋樹，助教授：和田洋巳，講師(非常勤)：吉栖正之，秋山文彌，香川輝正，草川 實，小林君美，

事務補佐員：陶器淳恵，間渕美栄子，技能補佐員：石橋浩一，寺本奈尾美

（補助臓器学分野）

助教授：田村康一，助手：藤本真慈

細胞調節学部

（分子病理学分野）

教授：鈴木康弘，助教授：喜納辰夫，医員：藤田葉子

（細胞生物学分野）

教授：永田和宏，助教授：大川欣一，助手：平芳一法，講師（非常勤）：矢原一郎，有賀寛芳，菅井尚則，技官：島田道子，事務補佐員：坪田晴子

（腫瘍学分野）

教授：高橋正治，助教授：倉澤卓也

（附属感染免疫動物実験施設）

施設長（兼）教授：竹田俊男，助教授：前田道之，技官：安岡倉一，大字雪雄，近藤照子

臨床部門共通講師（非常勤）：阿部光幸，伊藤春海，小野公二，胸部外科学・臨床生理学共通講師（非常勤）：玉井 直

（事務部）

事務部長：馬場傳次，管理課長：北尾幸一，庶務掛長：塩見弘之，同主任：生駒時秀，同事務官：池下和美，水原貞子，同技官：藤木清文，事務補佐員：能田直子，相田 薫，經理掛長：西田芳信，同主任：野元頼子，山田政廣，同事務官：中久保隆雄，天野浩明，山腰俊昭，事務補佐員：中瀬安子，施設掛長：谷 泰雄，同技官：人見博和，松浦 康，小西喜一郎，業務課長：池田忠夫，医事掛長：畠中秀雄，同主任：西田善吾，同事務官：野田芳子，殿崎雅弘，泉森嘉宏，東部浩志，竹内孝子，事務補佐員：中村房枝，集治昌代，大谷小百合，徳田里江，収入掛長：橋本修身，関 保子，田村長生，事務補佐員：多田真由美

（電子顕微鏡室）

技官：増田 稔

（附属病院）

病院長（兼）教授：久世文幸

（第一内科診療科）

科長（兼）教授：久世文幸，外来医長（兼）助教授：倉澤卓也，病棟医長（兼）講師：網谷良一，助手：村山尚子，田中栄作，鈴木克洋，医員：松井保憲，（研修医）：三宅淳史，千葉 秀，有田真知子，中谷光一

（第二内科診療科）

科長（兼）教授：大島駿作，外来医長（兼）助教授：門 政男，病棟医長講師：松井祐佐公，医員：長井苑子，楠目 馨，西村浩一，安井一清

（外科診療科）

科長（兼）教授：人見滋樹，外来医長（兼）助教授：和田洋巳，病棟医長講師：青木 稔，助手：千原幸司，神頭 徹，水野 浩，医員：小林 淳，美崎幸平，

（理学呼吸器科診療科）

科長（兼）教授：久野健志，外来医長助教授：佐藤公彦，病棟医長（兼）助教授：大井元晴，講師：三嶋理晃，助手：陳 和夫，医員：中村吉法，島田一恵，（研修医）：平井豊博，宮原 亮

（検査部）

検査部長助教授：木野稔也，技師長：木津 啓，技官：前田清子，春名和代，黒住眞史，山根すま子，技術補佐員：富田由美子，植村知子，上田多恵子，技能補佐員：林 すみ子，東 杏枝，大宮初美

（放射線部）

放射線部長（兼）教授：高橋正治，技師長：濱川純一，同主任：藏岡信良，技官：大坂泰夫，灘井智代子，曾我部康之，田中龍藏，平井 要，村上雅之，技能補佐員：小林 忍，北 玲子

（手術部）

手術部長（兼）教授：人見滋樹

(麻酔部)

麻酔部長(兼) 助教授：和田洋巳

(材料部)

材料部長(兼) 助教授：川合 満

(輸血部)

輸血部長(兼) 教授：泉 孝英

(薬剤部)

薬剤部長：井狩 節，同主任：澤岡平和，技官：藤原壽子，川田昌子，川勝一雄，薬剤師：中島英一，奥村秀夫，事務補佐員：蘆田明子

(看護部)

看護部長：平野照子，看護婦長：松田比佐子，山本喜美，丘 恵子，和多田すみ子，西森三保子，副看護婦長：齋藤千鶴子，末田恵子，榊 喜久子，看護婦：松本敏枝，阿部喜代子，小林梅野，寺戸美枝子，岩佐純子，大山峯子，小林富貴子，福田千恵子，柴田佐代子，荻田孝子，山中祥子，濱村初子，北川繁子，都築千香，川中マスコ，浅田靖子，廣瀬文代，山西順子，田中澄枝，永井圭子，水上絹子，松原千里，玄 眞利子，能勢和代，田中悦子，今西美千乃，若村智子，蒲田志寿恵，三宅重子，山道美津子，若松栄子，高瀬みさを，山口恵子，稲田ひろ子，小林裕子，五箇直美，梅田正子，永利明美，濃野ヒロ子，田尻春代，高橋わさ子，准看護婦：渡部幸子，鈴木早苗，米澤カヨ子，湯浅里恵，松田初枝，村西直美，稲垣美智子，内藤敏子，坂東フサエ，看護助手：内木カネ子，片桐久江，原田芳香，能井美千代，森 朝子，技術補佐員：山本裕子，佐保昭子，秋里 梢，早川泉水，曾我部京子，技能補佐員：安部川百枝，松本不二

教 官 人 事

腫瘍学分野 高 橋 正 治 教 授

昭和64年1月1日付で当研究所細胞調節学部門，腫瘍学分野の主任教授として高橋正治教授が就任された。高橋教授は東京都出身で，当年54歳。昭和37年3月に本学医学部を卒業され，大学院医学研究科博士課程を経て，天理よろず相談所病院医員（放射線科），京都大学医学部助手（放射線科学），愛媛大学医学部助手（放射線医学）を歴任された後，昭和49年11月より1年7ヶ月間米国スタンフォード大学医学部に留学して放射線生物学について研究された。帰国後，愛媛大学医学部助教授として勤務された後，昭和54年7月より京都大学医学部放射線医学講座の助教授として勤務されていたものである。

同教授の研究テーマは主として「悪性腫瘍に対する温熱療法」に関するもので，「局所進行性癌に対する術中照射と増感剤，加温併用療法に関する研究」によって昭和54年度日本医師会医学研究助成賞を受賞されたほか，国内のみならず欧米各地の学会のシンポジウムに演者として出席され，1984年には「Thermoradiotherapy of refractory malignant tumors: an experience with microwave and capacitive hyperthermia」に対して Medical Instrument Award を AAMI より贈られている。当研究所では胸部疾患の研究を行う上で，画像診断や放射線治療が極めて重要であるにもかかわらず，放射線医学を専門的に研究する教授を欠いていたが，今回，高橋教授の就任により，当研究所に一つの新しい研究機能が加わったものと考え，その研究の御発展を期待したい。

（大島 駿作）

臨床免疫学分野 泉 孝 英 教 授

昭和64年1月1日付で当研究所，生体防御学部門，臨床免疫学分野に泉孝英教授が就任された。泉孝英教授は

大阪府出身で当年53歳，昭和35年3月に本学医学部を卒業され，当研究所内科学第2部門に入局後，大学院医学研究科博士課程を経て，昭和40年7月に当研究所助手に就任，昭和40年9月に「ツベルクリン感受性伝達因子に関する研究」によって医学博士の学位を授与された．昭和42年9月より1年間，米国ロックフェラー大学に留学し，さらに昭和46年8月より1年間スウェーデン国カロリンスカ研究所に留学され，昭和50年10月本研究所講師，昭和55年8月助教授に昇任，今回教授に昇任されたものである．

同教授の主な研究テーマは，サルコイドーシス，慢性ペリリウム肺，肺線維症発症機序と病態の研究で，昭和57年4月「慢性ペリリウム肺に関する研究」で日本胸部疾患学会熊谷賞を受賞されており，国外においてもアメリカ胸部医学会，世界サルコイドーシス学会にも参加されているだけでなく，調査・研究も数多く行われており，同教授のこの方面における研究は国際的にも高く評価されている．結核症が減少した現在，免疫学を中心とした呼吸器病学の新しい重要な課題の専門家として泉教授に新しい研究分野の開発を成し遂げていただけるものと期待している．

(大島 駿作)

分子病理学分野 鈴木 康 弘 教 授

昭和64年1月1日付で当研究所細胞調節学部門，分子病理学分野の主任教授に就任された．鈴木教授は滋賀県出身で，年齢は50歳．昭和39年3月に本学医学部を卒業され，本学医学部附属病院にて実地修練終了後，大学院医学研究科博士課程を経て，当研究所病理学部門において研究に従事されるようになった．昭和46年9月よりカナダ国トロント大学医学部に1年間留学された後，当研究所病理学部門の助手に任命され，昭和58年7月1日付で助教授に昇任され，今回教授に昇任されたものである．

同教授の研究は，呼吸器の周生期医学の研究に関連して，肺硝子膜症の病態生理学的研究に始まり，その後，肺のサーファクタントの生化学的ならびに形態学的研究を積み重ね，特に最近「肺のサーファクタントの15Kアポ蛋白に対するモノクロナール抗体」の作成に成功したことから，これを基盤として，今後の分子病理学的研究の発展が期待されている．

(大島 駿作)

環境呼吸器病学分野 門 政 男 助教授

広島県の出身，45歳，昭和45年本学医学部を卒業後，本学医学部附属病院にて研修．昭和47年4月より福井赤十字病院に勤務した後，昭和48年10月，当研究所内科学第2部門に入局．昭和49年4月より同年9月まで高知市民病院に赴任し，昭和49年10月，当研究所内科学第2部門医員，昭和50年10月同助手，昭和59年5月当附属病院第2内科講師を歴任した後，昭和64年1月1日付で環境生態学部門，環境呼吸器病学分野の助教授に任命された．専門は呼吸器内科学，とくに気管支学を中心に多くの業績がある．医学博士．

(大島 駿作)

環境呼吸器学分野 松 井 祐佐公 講 師

静岡県の出身，44歳．昭和46年9月本学医学部を卒業，昭和47年4月より当研究所附属病院において臨床研修を行い，昭和48年4月より大学院医学研究科博士課程に進み，昭和52年3月単位取得退学，昭和52年4月より当研究所附属病院第2内科医員，昭和54年2月に同助手に任命され，昭和64年1月1日付で当研究所附属病院第2内科講師に昇任した．

専門は呼吸器内科学で，とくに肺腫瘍の診断と治療を中心とした研究を行っている．医学博士．

(大島 駿作)

臨床免疫学分野 平 田 健 雄 助教授

島根県の出身，41歳．昭和48年本学医学部の卒業．昭和48年本学医学部附属病院および当研究所附属病院で研

修。昭和50年12月当研究所内科学第2部門に医員として入局。昭和55年8月、同助手に任命され、昭和58年7月、米国 NIH (Crystal 教授) に留学し、昭和60年7月に帰国した後、再び当研究所に勤務を続け、昭和64年1月1日付で生体防御学部門、臨床免疫学分野の助教授に昇任した。

専門は呼吸器内科学で、とくに免疫グロブリン産生機構や慢性気道感染症の病態に関する研究業績がある。医学博士 (大島 駿作)

腫瘍学分野 倉澤卓也 助教授

昭和63年4月研究所改組と共に新しく誕生した胸部疾患研究所腫瘍学分野の助教授として平成元年1月倉澤卓也氏が就任した。同氏は昭和47年9月京都大学医学部を卒業後、結核胸部疾患研究所附属病院で2年間研修医勤務の後4年近く天理よろづ相談所病院呼吸器内科医員として臨床研修を積み、昭和53年6月結核胸部疾患研究所内科学第一部門の助手に任命された。次いで昭和60年3月同内科学第一部門の講師に昇任し、この間幅広く呼吸器疾患領域の臨床研究に従事して来た。ことに気管・気管支系検査の手技を生かした診断にかんする分野で、肺癌、気管・気管支結核症などの検討を積み重ねて来た。また、ここ数年来、悪性腫瘍の中で特に治療術式の確立が急務である肺癌の化学療法の研究に主力を注いでおり、多施設共同研究の成果を目指している。今迄の研究から得たより広い視野を持った今後の活躍を期待したい。(久世 文幸)

感染・炎症学分野 網谷良一 講師

昭和63年4月研究所改組と共に、結核胸部疾患研究所内科学第一部門助手網谷良一氏が平成元年1月胸部疾患研究所感染・炎症学分野講師に昇任した。網谷良一氏は昭和50年3月京都大学医学部を卒業、結核胸部疾患研究所附属病院で2年間研修医としての勤務を終て、次いで天理よろづ相談所病院呼吸器内科医員として7年間勤務の後、昭和59年7月結核胸部疾患研究所内科学第一部門に就任し、天理病院勤務中より同氏の研究課題であった慢性気道感染症の臨床的研究を継続し、数年来気道の感染防御能解明の一環として、気道上皮の線毛細胞の超微形態、線毛運動機能の解析を中心として研究成果を挙げつつある。昭和62年度、英国プロンプトン病院・心肺研究所への半年間の出張期間中開始された共同研究を現在も続けている。今後の発展を期待したい。(久世 文幸)

老化生物学分野 細川昌則 助教授

老化生物学分野の助教授に昇任した細川君は1976年京都大学医学部を卒業、本研究所第一内科および検査部の研修医、医員を経て1979年病理学部門の助手となった。1984年1月より米国フィラデルフィアの Wistar 研究所の V. J. Cristofalo 教授のもとに留学、細胞生物学的手法を用いる in vitro aging の研究に従事、1986年1月帰国した。本研究所においては SAM の開発初期より SAM の研究に参加、その系統樹立、維持、そして SAM 研究チームの育成に努力した。とくに実験小動物の老化バイオマーカーの客観的評価法として“Grading Score System”を完成させると共に、老化病態の1つである老年性白内障を高頻度に発症する系統の分離に成功し、現在その発症機序の究明にあたっている。今後、老化研究を真に“science”として発展させるため「老化生物学」の発展が不可欠と考えるが、老化生物学分野の存在もその意味で大きい。細川君がこの研究チームの“かなめ”としてのみならず、広く内外の老化研究の先駆としての活躍を期待する。(竹内 俊男)

老化生物学分野 樋口京一 講師

老化生物学分野の講師に昇任した樋口君は京都大学農学部修士課程を修了後1980年4月より医学研究科博士

課程に進学, 本研究所病理学部門にて SAM にみる老化アミロイド症について主として病態生化学的研究を行い, 新しい老化アミロイド蛋白 AS_{SAM} とその前駆物質 apo-A-II の画期的な発見となった. 1986年2月より NIH の分子病部門の Dr. B. H. B. Brewer, Jr. のもとに留学, 血清リポ蛋白の分子遺伝学的研究に従事, 1988年1月帰国した. 現在老化アミロイド症発症機序をめざし分子遺伝学あるいは発生工学的手法を用いて新たな挑戦を始めており, 遺伝子レベルでの本症発症機序の解明に大きな突破口を開くものと期待される. また近い将来これらの研究は, 現在全く謎につつまれている老化基本機構の分子レベルでの研究に発展するものと思われる. 持ち前のねばり強さと若さで, この前人未踏の課題に敢然と立ち向うことを期待し, 健闘を祈る. (竹内 俊男)

分子病理学分野 喜 納 辰 夫 助教授

喜納辰夫君は1974年に静岡大学理学部を卒業後, 京都大学大学院理学研究科に入学し, 村松繁先生の下で免疫学を専攻した. 1978年に胸部研細菌血清学部門助手となり, 主にヘルパー系T細胞の機能に関する研究を行ってきた. 数年前から胸腺中におけるT細胞分化の機構を解明する仕事に従事し, その中心的役割りを担ってきた. 1987年4月講師に昇任し, 同年6月から1989年6月まで米国スタンフォード大学へ留学し, Dr. Weissman の下で研鑽を積んだ. スタンフォード大学においても, 引き続きT細胞分化の機構に関する研究を進めるため, 胸腺ストローマ細胞に対するモノクローナル抗体を作る多くのハイブリドーマを樹立してきた. 今後これらの抗体を利用してT系列細胞とストローマ細胞の相互作用を分子レベルで解明する仕事にとりかかる. 今後は助教授として本研究所の発展に大きく寄与してくれるものと期待している. (桂 義元)

免疫学分野 勅使河原 計 介 助 手

勅使河原計介君は1977年に京都大学医学部を卒業後, 内科で研修を終えた後1980年に医学部免疫学研究施設の大学院に入学した. 大学院在学中は淀井淳司先生と共に, 成人T細胞白血病細胞が産生する IL-2 レセプター発現を増強するリンホカインである ATL-derived factor (ADF) を発見した. 1985年から, IL-2 および IL-2 レセプターの研究で世界的に有名なダートマス大学の Dr. K. A. Smith の研究室に留学した. 2年半の滞在中は, IL-2 のレセプターの構造の研究に従事し, 高親和性 IL-2 レセプターを構成するコンポーネントの1つである β 鎖 (p 75) を発見し, その構造と機能を解明した. 1989年2月より当研究室に着任した. IL-2 と IL-2 レセプターシステムを1つのモデルとして, T 細胞の分化増殖の機構及び白血病発症の機構を解明する仕事と共に, 後進の育成にも寄与してくれるものと期待している. (桂 義元)

補助臓器学分野 田 村 康 一 助教授

1971年に京大医学部卒業, 当研究所胸部外科に入局, 肺外科を国立療養所宇多野病院 (生島宏彦博士) にて, 心臓血管外科を市立静岡病院 (秋山文弥博士) にて修め, 1981年当研究所胸部外科助手, 1987年1月1日同講師に昇任, 今回, 1989年1月1日付けで補助臓器学分野の助教授に昇任された. 研究は一貫して人工臓器, 特に人工血管の開発を中心に研鑽している. 博士論文は Experimental Application of Polyvinyl Alcohol Silica for Small Artificial Vessels (BIOMAT., MED. DEV., ART. ORG 1986) 今後は後輩を指導し, 胸部疾患全般にわたる補助臓器の研究を推進し, 胸部外科分野, 医用高分子研究センター等との学際研究を展開してくれるものと期待する. (人見 滋樹)

胸部外科分野 青 木 稔 講 師

1976年京大医学部卒業, 当研究所胸部外科に入局, 長尾病院 (山本博昭博士) に2年間勤務後, 大学院博士課

程にて学ぶ。博士論文は Peroxidase activity in rat tracheal epithelium and gland (Experimental and Molecular Pathology 1986)。1983年から京都桂病院呼吸器センターにて胸部外科を専攻し1985年4月1日付けで胸部外科助手に着任し肺移植の研究を開始した。1989年1月1日付けで講師に昇格された。西ドイツハノーバー大学に肺移植の臨床的研究のため1989年8月より約1年の予定で留学する。バランス感覚に富み、温かく誠実な人柄で、外科チームの要となっている。

(人見 滋樹)

胸部外科分野 水 野 浩 助 手

1979年京大医学部を卒業、当研究所胸部外科にて研修の後、1980年9月より天理病院胸部外科(北野司久博士)、1981年1月より国立療養所宇多野病院(生島宏彦博士)、1987年11月より高槻日赤(加藤幹夫博士)にて胸部外科を修練した。一方、京大医高研(清水慶彦教授)で人工肺の研究を進めてきた。今回、1989年2月1日より当胸部外科の助手に着任した。斬新な着想の持ち主で研究面でも臨床面でも、今後の飛躍が期待される。コンピューターに強いのも当教室にとって有難いことである。

(人見 滋樹)

細胞生物学部門 平 芳 一 法 助 手

昭和55年甲南大学理学部生物学科を卒業後、同大学院修士課程に進み、その間、中村運教授のもとで分子生物学的訓練を受けた。昭和58年京都大学医学研究科に入学、ウイルス研究所畑中正一教授の研究室に入り、また大学院の最後の一年間は当研究所、細菌血清学部門桂義元教授の研究室で、西川伸一助教授とともに仕事をしている。ウイルス研時代は、HTLV-1のクローニングを行ない、胸部研時代にはウィットロック・ウィット培養により、試験管内でB細胞を分化させるシステムを確立した。特に後者は、細胞生物学的な志向性の上になって、彼本来のバックグラウンドである分子生物学的な方法がうまく取り入れられている。昭和62年4月1日付けで、細胞生物学部門の助手に採用されたが、現在は新しい熱ショック蛋白質の cDNA クローニングをめざして仕事を展開中である。

性格きわめて明るく、多数の後輩、大学院生の面倒をよく見、雑用にも少しも嫌な顔をせずてきぱきとこなしてくれる。我がグループの大黒柱的存在である。我々のグループの分子生物的研究環境のセットアップはすべて平芳君の努力に負うものである。が、彼も仕事はこれから。まず研究にのみ専念してもらえ環境を作らねばと自戒している。

(永田 和宏)

学 術 集 会 記 録

昭和63年度 京大胸部研学術講演会抄録

教授就任講演：放射線抵抗がんの治療

腫瘍学分野 高 橋 正 治

通常行われている外部照射法では治療効果を期待できないがんを放射線抵抗性がんと呼んでいる。このような症例に対する治療対策をテーマに、放射線増感剤や温熱療法の併用、術中照射法について研究してきた。

放射線増感剤は、古くは BUdR (BrdU) や 5-FU などのハロゲン化ピリミジンのように、放射線の最大のターゲットである DNA, DNA 合成に対する放射線障害を相乗的に増強する物質と、現在なお研究中である低酸素性細胞増感剤とがある。前者はとくに、BUdR と 5-FU を少量ずつ併用することによって、より大きな増感効果

が得られることを作用機序, pharmacokinetics, 実験腫瘍に対する増感率 (SER) から証明したのち, 約60例の上顎癌, 舌癌に応用した. その結果, 著明な一次的治療効果を得たが, 3年を経ると再発する症例がときどきみられ, その原因が薬剤のとり込みが少ない低酸素層の Q (quiescent) 細胞が “recruit” することによると考えられたので, 興味は放射線抵抗性である低酸素性細胞増感剤に向けられた. ミソナダゾールで代表された当時の低酸素性細胞増感剤は神経毒性が強く, 十分な有効量を投与できなかったため, その後, 合成化学者との共同研究によって, 毒性が低く, 効果の高い有望な増感剤が開発されるに至り, 現在, 前臨床試験が行われている.

温熱療法は 42-45°C の加温を行う方法で, これによって放射線効果は著しく増強される. とくに低酸素層の細胞にも強い致死効果を与えること, また腫瘍血管が強い傷害を受ける (腫瘍系によって異なるが) ことを組織学的に確認した. この所見は, 臨床上の興味深い問題点とも関連している. すなわち, とくに径が 7~8 cm を超える大きな腫瘍の場合, 縮小が得られない (NR) 症例の中にも, 長期にわたる経過観察中, 再発することなく, むしろ徐々に縮小するものが認められた. このような症例では, CT 上, 腫瘍の大部分を占める著明な低吸収域 (LDA) が認められ, 組織学的には強い壊死に陥っていることが分った. このような著明な LDA は放射線単独では認められず, 温熱療法に特異的な所見であり, 腫瘍の血管破壊による出血性壊死と壊死巣の修復の遅延によるものと考えられた. したがって, 温熱療法を併用した場合, 腫瘍縮小率に基づく臨床効果判定のみでは不十分であることを問題点として指摘してきた.

術中照射法は病巣に隣接する放射線高感受性の正常組織 (臓器) を手術操作によって照射野から外し, 電子線を用いて全皮下に大線量を一回照射する方法である. 電子線を使用すること, 1回照射の放射線物理学的, 生物学的意義について理論的裏付けを行い, 各種の消化器癌, 前立腺癌, 骨軟部組織腫瘍, 脳腫瘍に対して応用してきた. 胸郭内のがんに対しても ^{60}Co による数例はあるが, 根治線量を安全に照射するためには電子線を使用する必要がある.

特発性間質性肺炎・肺線維症—臨床経過, 病理像からみた疾患像の再整理—

臨床免疫分野 泉 孝 英

原因不明の間質性肺炎・肺線維症とは, ①労作時息切れに始まる呼吸困難と胸部X線上のびまん性陰影を主徴とし, 原因は不明で膠原病のような間質性肺炎像を呈するような疾患を伴っていない. ②臨床経過の面からは急性, 悪急性, 慢性に分類され, 慢性型では急性悪化をみることが少なくない. ③治療の面からみると, ときにステロイド剤の有効な症例があるが, 多くは無効である. と記載される疾患群である. 胸部疾患研究所において, 昭和63年12月まで行われた開胸肺生検 (160例), 剖検 (65例) によって病理組織学的に診断されたびまん性肺疾患 207 症例における自験成績と近年の諸報告を併せ考えると, 原因不明の間質性肺炎・肺線維症は臨床経過, 病

表1 臨床経過, 病理組織所見, ステロイド剤に対する反応性からみた原因不明の間質性肺炎・肺線維症の再分類

経 過	臨 床 診 断	病理組織所見	ステロイド剤に対する反応性
急 性	急性間質性肺炎 (AIP)	DAD	—
亜急性	BOOP	BOOP	+~++
慢 性	特発性肺線維症 (IPF)	UIP	—
		DIP	—~+
	リンパ球性間質性肺炎 (LIP)	LIP	?
IPF の急性悪化		DAD	—

AIP: acute interstitial pneumonia (Katzenstein, 1986)

DAD: diffuse alveolar damage (Liebow 1967)

BOOP: bronchiolitis obliterans organizing pneumonia (Epler, Colby, 1985)

IPF: idiopathic pulmonary fibrosis (Crystal, 1975)

UIP: usual interstitial pneumonia (Carrington, 1978)

DIP: desquamative interstitial pneumonia (Carrington, 1978)

LIP: lymphocyte interstitial pneumonia (Liebow, 1967)

理組織所見, ステロイド剤に対する反応性からみて表1のように再分類されることを提唱したい。

このうち, 症例数をもっとも多いのは, 中高年の男子喫煙者にみられる IPF である。この予後不良の慢性の経過をとることの多い疾患である IPF の病理組織所見の多くは UIP と呼ばれる病像である。病変の特徴は病期に関係なく斑状の病変分布を示すことである。顕微鏡下においては, 肺胞隔壁におけるびまん性の炎症から線維化へと移行する病像としての理解は困難で, 局在性の線維病巣の原因不明の増加として理解される。IPF (UIP) の治療において, ステロイド剤は無効である。IPF は治療法としての肺移植の対象となる代表的疾患であるが, どのような症例に, どのような時期に移植を行うべきか, Recipient の選択の問題は, 今後の大きな検討課題として残されている。

肺サーファクタントアポ蛋白の機能

分子病理学分野 鈴木 康 弘

肺表面活性物質は, 脂質と蛋白との複合体であり, 脂質としては飽和レシチンが主でその他に phosphatidyl-glycerol 等の酸性磷脂質が含まれる。蛋白成分は約10%を占め, albumin, globulin の他, 特異蛋白として3種のもが存在する。SP-A と呼ばれるアポ蛋白は糖の付加の違いによって 28-36kDa の分子量をしめすが, 蛋白部分は約230個のアミノ酸より成り, N末端の分子量約1万の部分がコラーゲンと同様のアミノ酸配列を持つ。SP-B および SP-C は各々 8kDa, 3.7 kDa の分子量を持ち, 共に疎水性アミノ酸にとみ, 有機溶媒中に抽出される。SP-A は種特異性が比較的高いが, これら疎水性蛋白の一次構造には種差が乏しい。肺表面活性物質の活性発現或は肺胞内での格子状ミエリンの形成等にこれらの成分がどの様に関連するかについては, 明らかにされておらず, これらの点について検討した。

1) 各種成分の機能を検討するために豚肺を用いて蛋白成分を単離し, 合成脂質との再構成法を用いて脂質—蛋白複合体を作成した。脂質のみでは表面活性は殆ど見られないが, 飽和 lecithin と phosphatidylglycerol との混合物に SP-B 域は SP-C を加えた場合, これらの複合体は表面活性が高く, 気液界面に脂質が極めて早く拡散する。形態的に脂質のみでは球形の liposome であるが, 蛋白を付加したものでは free end を持つ多層の lamella 構造がみられ, 疎水性蛋白は脂質形態を修飾し得ることが明らかとなった。次いでこれらの脂質・疎水性蛋白の複合体に, calcium の存在下に SP-A を作用させると, SP-B との複合体のみが格子状ミエリンを形成した。形成される格子状ミエリンの量は含まれる各々の蛋白量と密接な関連を有しており, 更に lecithin と phosphatidylglycerol との比率も重要な要素であることが示された。SP-A を付加することによって形成された格子状ミエリンには表面活性はみられず, 以上の知見から推測すると, II型上皮内の層状封入体では脂質と疎水性蛋白が複合体として存在し, 肺胞内に分泌された後脂質は気液界面に吸着しその一部は SP-A と反応して格子状ミエリンに転換するものと考えられる。

2) ヒトでは, 肺表面活性物質に関連すると考えられる疾病に新生児呼吸窮迫症候群と肺胞蛋白症があるが, 前者は肺表面活性物質の不足が原因とされている。後者の原因は明らかにされていないが, 本患者より得た SP-A, SP-B と対照肺より得た同様の蛋白を種々組合せて検討してみると, 患者 SP-A と対照 SP-B・脂質複合体とは反応して格子状ミエリンを形成するが, 患者 SP-B と脂質との複合体は患者 SP-A, 対照 SP-A 共に反応しなかった。このことは患者の蛋白の一部に機能的な異常が存在することを示唆するものである。また患者では, SP-A の相対比が極めて高く, SP-B の機能異常と肺表面活性物質の代謝異常との関連をも示唆し, SP-B の分子構造の解明が, 本疾患の原因の解明の一助になり得ると考えられる。

昭和63年度京都大学胸部疾患研究所学術講演会

開会の辞

所長 大島 駿 作

新任教授特別講演

1. これまでの研究の歩み

腫瘍学 高橋 正 治

2. 特発性間質性肺炎・肺線維症

—臨床経過, 病理像からみた疾患像の再整理—

臨床免疫学 泉 孝 英

3. 肺サーファクタントアポ蛋白の機能

分子病理学 鈴木 康 弘

シンポジウム「肺移植の臨床への道」

座長 人見 滋 樹

1. 肺移植の適応となる症例, 移植の時期をめぐって

内科2 長井 苑 子

2. 呼吸ケア・メニューの中での肺移植

羽曳野病院 木村 謙太郎

3. 慢性呼吸不全の3症例

内科1 倉澤 卓 也

4. 移植後の呼吸調節および高炭酸ガス血症をともなった呼吸不全症例の管理

理学呼吸器科 陳 和 夫

5. 在宅酸素療法例の予後とその精神的心理的背景

神戸市中央市民病院 石原 享 介

6. 犬肺移植における肺および気管支吻合部の病理組織学的検討

外科 青木 稔

7. トロント大学における肺移植臨床例の報告

トロント大学 山崎 文 郎

8. 総 合 討 論

閉会の辞

所長 大島 駿 作

日 時 昭和64年1月28日(土) 午後1時30分～5時50分

会 場 楽友会館

胸部研特別ゼミナール

〔特 別 企 画〕 M1細胞樹立20周年記念シンポジウム「白血病細胞の増殖と分化の制御」

日 時: 1989年3月27日(月) 13:00～17:30

場 所: 京大会館

開会挨拶

市川 康 夫(ノートルダム女子大学)

……座長 市川 康 夫

1. M1細胞による白血球の分化誘導療法開発……穂積 本 男(埼玉がんセンター研究所)

2. ビタミンDの分化誘導作用……須田 立 雄(昭和大学歯学部)

……座長 平 芳 一 法

3. M1細胞の分化とTNF……道下 眞 弘(京都大学医学部)

4. 白血病細胞における細胞骨格異常……永田 和 宏(京都大学胸部疾患研究所)

……座長 矢原 一 郎

5. マウス・フレンド細胞の細胞分化の機構……大石 道 夫(東京大学応用微生物研究所)

6. マスト細胞の分化制御……北村 幸 彦(大阪大学医学部)

145回 1988年11月28日 c-myc蛋白質によるDNA複製と転写調節

有賀 寛 芳(東京大学, 医科学研究所)

146回 1989年3月25日 ヒト胸腺上皮とT細胞の相互作用

中山 雅 之(国立小児病院, 小児医療センター)

147回 1989年3月24日 フィブロネクチンの分子生物学

—遺伝子の構造から細胞接着機能の発現まで—

小原 政 信(東京大学, 医科学研究所)

業 績 目 録

内 科 学 第 二 部 門

〔分 担 執 筆〕

環境呼吸器病学分野および臨床免疫学分野

泉 孝英：2・3有機合成物および無機物，臨床産業医学全書2-1 五島雄一郎，西川慎八，山田和生，千葉保之，三上理一郎，島 正吾編：産業内科学 循環器系/呼吸器系 VI職業性過敏性肺臓炎，p.732～738，医歯薬出版，1988.

泉 孝英，宮城征四郎編：呼吸器病レジテント・マニュアル，医学書院，1988 II. 診断—診断手技，検査の実際，鑑別診断. D. 2. 気管支造影，p.99～103（今井），F. 内視鏡検査，1. 気管支鏡検査法，2. 経気管支生検，3. 経気管支肺生検，p.134～140（今井），TBLB 標本の取り扱い方，p.141（北市），4. 気道分泌物の採取法，5. 気管支肺胞洗滌，p.142～144（今井），BALの診断的意義，p.145～146（長井），G. 右心カテーテル法，H. 血管造影，p.147～151（西村），J. 血液血清検査，p.155～159（木野），K. 皮膚反応，p.160～164（泉），L. 気道過敏性テスト，p.165～167（福田），N. 超音波検査，p.170～171（福田），P. 病理学的検査，p.175～180（北市），IV. 主な呼吸器疾患の診断と治療. A. 肺感染症，2. 肺結核，p.223～232（泉），4. 肺真菌症，p.235～240（福田），B. 気道線疾患，3. 気管支喘息，p.246～250（木野），4. 慢性気管支炎・肺気腫，p.251～253（西村），C. 間質性肺疾患，1. 特発性肺線維症，p.259～264（長井），2. BOOP，p.265～p.266（泉），E. アレルギー性肺疾患，1. 過敏性肺臓炎，p.270～271（泉），4. アレルギー性気管支肺アスペルギルス症，p.278～p.279（木野），F. 肺腫瘍，1. 肺癌，2. 転移性肺腫瘍，3. 良性腫瘍，p.280～p.291（門），G. 全身性疾患に伴う肺疾患，1. サルコイドーシス，2. 膠原病肺，p.292～p.299（長井），1. まれな肺疾患，1. 肺胞蛋白症，2. 肺好酸球肉芽腫症，p.305～307（西村），4. Wegener 肉芽腫症，p.310～311（門），J. 胸膜，縦隔，横隔膜の疾患，2. 縦隔気腫，3. 縦隔腫瘍，p.314～317（門）.

〔訳 本〕

泉 孝英，北市正則監訳，平田健雄，藤村直樹，三尾直士，江村正仁，長井苑子，松井祐佐公，門 政男，西村浩一訳：びまん性肺疾患の生検診断（Flint A, Colby TV: Surgical Pathology of Diffuse Infiltrative Lung Disease, Grune & Stratton, Orlando, 1987），金芳堂，京都，1988. pp.172. 1章 肺生検の一般的原則，p.1-8（北市），2章 びまん性肺疾患を呈する感染性疾患，p.9-48（平田），3章 肺好酸球増多症，過敏性肺臓炎，薬剤誘起性肺疾患，p.49-68（藤村），4章 びまん性肺胞領域傷害，p.69-80（三尾），5章 間質性肺炎，p.81-92（江村），6章 膠原病に伴うびまん性肺疾患，p.93-106（泉），7章 肺サルコイドーシス，p.107-120（長井），8章血管性肺疾患，p.121-138（松井），9章 悪性腫瘍，p.139-152（門），10章 その他のびまん性肺疾患，p.153-168（西村）.

〔綜 説〕

大島駿作：肺の NK 細胞活性に及ぼす喫煙の影響，医学のあゆみ，144； 954，1988.

大島駿作，安場広高：異型肺炎：Mediament News，1213，8-9，1988.

泉 孝英：特集『サルコイドーシス』サルコイドーシス研究の歩み，最新医学，43(7):1391-1396，1988.

泉 孝英：特集『サルコイドーシス』サルコイドーシスの臨床と検査所見—サルコイドーシスの診断・活動度，最新医学，43(7):1522-1529，1988.

- 泉 孝英：特集『注目のびまん性肺疾患』びまん性疾患とは，総合臨床，37(11):2549-2552，1988.
- 泉 孝英：特集『注目のびまん性肺疾患』びまん性肺疾患の診断プロセス，総合臨床，37(11):2564-2567，1988.
- Sharma, OM P. (泉 孝英訳):特集『注目のびまん性肺疾患』AIDS, 総合臨床，37(11):2584-2599，1988.
- 泉 孝英，長井苑子：『呼吸器疾患最近の動向(10)』呼吸器疾患における 気管支肺胞洗浄液検査の意義，医学の門，28(5):36-43，1988.
- 泉 孝英：特集『びまん性汎細気管支炎をめぐる最近の話題』びまん性汎細気管支炎症例における免疫機能。医学のあゆみ，147(1):24-26，1988.
- 泉 孝英：特集『呼吸器疾患—特殊病態の診断と治療』気管支・細気管支拡張症，現代医療，21(1):2776-2983，1989.
- 松井祐佐公：肺癌治療の現状と将来への展望，滋賀医学，10(2):1-3，1988.
- 北市正則：特集「サルコイドーシス」サルコイドーシスの病理組織像 最新医学，43:1383-1386，1988.
- 北市正則：特集「サルコイドーシス」サルコイドーシスの病理像，最新医学，43:1446-1453，1988.
- 北市正則，泉 孝英：BOOP，呼吸と循環，36:1075-1081，1988.
- 北市正則：びまん性肺疾患の病理組織所見—DAD と UIP を中心に—総合臨床，37:2553-2563，1988.
- 北市正則：原因不明の間質性肺炎の治療，Modern Physician，9: 347-350，1988.
- 長井苑子，泉 孝英：BAL と結果の解釈，臨床免疫，20:145-155，1988.
- 長井苑子：肺のびまん性疾患 a，過敏性肺臓炎，臨床医，14:450-451，1988.
- 長井苑子：サルコイドーシスの臨床と検査所見 BALF 所見—病態生理学的考察，最新医学，43:1507-1515，1988.
- 長井苑子：特発性肺線維症，特に usual interstitial pneumonia (UIP) の病態生理，総合臨床，37:2579-2583，1988.
- 西村浩一，伊藤春海：特集「サルコイドーシス」1988 カラーグラフ サルコイドーシスおよび関連疾患の胸部X線と CT 所見，最新医学，43(7):1387-1390，1988.
- 西村浩一，伊藤春海：特集「サルコイドーシス」1988 サルコイドーシスの胸部X線と CT 所見，最新医学，43(7):1469-1474，1988.
- 西村浩一，長井苑子，北市正則，泉 孝英：肺疾患をよむ XI. びまん性粒状影で発見され，開胸肺生検で類上皮細胞肉芽腫病変が認められたセラミック工場労働者の1例，内科，62(6):1106-1109，1988.
- 西村浩一，泉 孝英：慢性細気管支炎，現代医療，20(5):1450-1410，1988.
- 西村浩一，北市正則，泉 孝英，伊藤春海，金岡正樹，村田喜代史：特集—びまん性肺疾患の画像診断，末梢気道疾患，臨床画像，4(7):70-84，1988.
- 西村浩一，北市正則，泉 孝英，金岡正樹，伊藤春海：Bronchiolitis Obliterans Organizing Pneumonia の X 線と CT 像の検討—開胸肺生検標本との対比—，臨床放射線，34(1):127-136，1989.
- Sharma, OM P., Izumi, T. The importance of airway obstruction in sarcoidosis, Sarcoidosis, 5(2): 119-120，1988.
- 伊藤春海，金岡正樹，野間恵之，小西淳二，阿部光幸，西村浩一，北市正則，泉 孝英，長井苑子，福田康二，大島駿作，伊藤 剛，古田睦広：びまん性肺病変の画像診断。一小葉性病変をめぐる一，画像診断，8(5):562-571，1988.
- 伊藤春海，金岡正樹，西村浩一：びまん性肺疾患の胸部X線・CT所見，総合臨床，37(11):2606-2619，1988.
- 藤村直樹：職業性肉芽腫性肺疾患，最新医学，43:1540-1548，1988.

〔原 著〕

Izumi, T.: Sarcoidosis in Kyoto (1936-1986), Sarcoidosis, 5(2): 142-146, 1988.

木野稔也，佐竹範夫，安場広高，福田康二，荏原順一，泉 孝英，大島駿作：釣餌店主にみられた釣餌「トビ

ゲラ」喘息の一例, アレルギーの臨床, 8(3):215-216, 1988.

木野稔也, 安場広高, 佐竹範夫, 福田康二, 鏑田利恵子, 大島駿作: 携帯用ピークフローメーターを用いたブロンコリン^Rの morning dipping 防止効果の検討, 臨床成人病, 18(4):565-567, 1988.

木野稔也, 福田康二, 安場広高, 西村浩一, 荏原順一, 佐竹範夫, 鏑田利恵子, 平田建雄, 松井祐佐公, 泉孝英, 大島駿作, 伊藤春海: 遷延性好酸球性肺炎の予後—気道過敏性獲得の可能性について, 日本胸部疾患学会雑誌26(8):868-875, 1988.

平田建雄: 肺胞マクセファージのトランスフェリンレセプターの性状とその発現の分子遺伝学的研究, 呼吸, 8(2):219-225, 1988.

長井苑子: Angistensin II の BALF マクロファージのアクセサリー機能におよぼす影響 特にサルコイドーシス症例の T lymphocyte alveolitis 病変形成維持における機能に関する検討, 日胸疾会誌, 26:957-964, 1989. Nagai. S, Izumi. T, Takeuchi. M., Watanabe. K. Oshima. S,: The effect of Angistensin II (A-II) on the accessory function of BALF macrophages—A possible autostimulatory mechanism of T lymphocyte alveolitis in Sarcoidosis—In: Sarcoidosis and other granulomatous disorders Eds C. Grassi, G. Rizzats, E. Pozzi, Excerpta Medica, Amsterdam, p.129-134, 1988.

Nagai. S, Izumi. T. Takeuchi. M, Watanabe K. Aung. H, Izumi. T,: Smoking and Interleukin-1 activity released from human alveolar macrophages in healthy subjects, Chest, 94: 694-700, 1988.

西村浩一, 伊藤春海: II. 肺結核の画像診断 2. 肺の正常末梢構造—特に小葉内の構造について—, 結核, 64(1):55-61, 1989.

福田康二, 佐竹範夫, 荏原順一, 木野稔也, 泉孝英, 大島駿作: 絹ロウケツ染従事者に生じた植物染料ノールナフトールによる気管支喘息の一例, アレルギーの臨床, 8(4):291, 1988.

福田康二, 安場広高, 佐竹範夫, 木野稔也, 大島駿作, 荏原順一: 気管支喘息患者の末梢血好中球のルミノール依存性化学発光についての検討, 日胸疾会誌, 27(2):200-205, 1989.

安場広高, 木野稔也, 福田康二, 松井祐佐公, 泉孝英, 大島駿作, 荏原順一: 気管支喘息発作時の血小板活性化の関与—洗浄血小板 ATP 放出能および血漿 β -Thromboglo-bulin (β -TG), Platelet Factor 4 (PF4) レベル, β -TG/PF4 比についての検討—, アレルギー, 37(12), 1152-1160, 1988.

竹内 実, 泉孝英, 長井 苑子, 江村正仁, 三尾直士, 渡辺和彦, 大島駿作: 喫煙の肺の NK 細胞活性に及ぼす影響に関する研究. 日本胸部疾患学会雑誌, 26(3):267-274, 1988.

Minoru Takeuchi, Sonoko Nagai and Takateru Izumi: Effect of smoking on natural killer cell activity in the lung,

Minoru Takeuchi, Sonoko Nagai and Takateru Izumi: The mechanism of inhibition of alveolar macrophages on autologous blood natural killer cell activity, Chest, 95(2):383-387, 1989.

Sharma, OM P, & Oshima Shunsaku: Hypercalcemia and Pulmonary Disease: A Diagnostic Approach: Houston Medicine, 4, 133-141, 1988.

Sharma, OM P, & Oshima Shunsaku: The aetiology and pathogenesis of sarcoidosis, The National Medical J. of India, 1(2), 61-70, 1988.

鏑田利恵子, 安場広高, 佐竹範夫, 福田康二, 北市正則, 松井祐佐公, 木野稔也, 泉孝英, 大島駿作, 荏原順一: 好酸球性肺炎で発症し真菌アレルギーの関与が疑われた hypereosinophilic syndrome の一例, 日本胸部臨床, 47(12), 1040-1046, 1988.

中島道郎, 浜本康平, 岡田英彦, 橋本圭司, 河原崎茂孝, 谷口隆司, 公文正仁: 結局 Flucytosine (商品名アンコチル) 内服に Amphotericin-B (商品名ファンギゾン) 吸入の併用両方が効を奏した原発性肺クリプトコッカス症の1例, 京都市立病院紀要, 8(1):79-82, 1988.

金 栄治, 中島道郎, 内田洋子, 鷹巢晃昌: 急激な経過をたどった混合性肺炎の1剖検例, 日胸, 48(2), 133~137, 1989.

T. Shirakawa, Y. kusaka, N. Fujimura, S. Goto, M. Kato, S. Heki, K. Morimoto,: Occupational asthma from combalt sensitivity in workers exposed to hard metal dust Chest, 95: 29-37, 1989.

K. Murata, H. Itoh, M. Senda, Y. Yonekura, K. Nishimura, T. Izumi, S. Oshima, K. Torizuka: Stratified impairment of pulmonary ventilation in "diffuse panbronchiolitis: "PET and CT studies". *Journal of Computer Assisted Tomography*, 13 (1): 48-53, 1989.

加納 正, 西村浩一, 泉 孝英, 大島駿作: タイプの異なる2種の Bence Jones 蛋白の排泄を認めた多発性骨髄腫, *日本内科学会雑誌* 77(12):1890-1891, 1988.

荏原順一, 木野稔也, 中島重徳: 好酸球性肺炎における血清および気管支肺胞洗浄液中好酸性球遊走活性について, *日本胸部疾患学会雑誌*, 26(7):714-719, 1988.

荏原順一, 安場広高, 木野稔也, 中島重徳: Tranilast (Rizaben[®]) 服用中発症した好酸球性膀胱炎の発症機序に関する免疫学的検討 アレルギーの臨床, 8(7):575-579, 1988.

大野聖子, 中橋弥生, 栗山卓弥, 中村 昇, 辻重行, 川西康夫, 浅妻茂生, 中山昌彦, 長井苑子, 泉 孝英, 北市正則: 開胸肺生検後に自然寛解を示した Bronchiolitis Obliterans Organizing Pneumonia の1例, *日本胸部疾患学会雑誌*, 28:904-910, 1988.

〔学会記録, 報告書, 会議録〕

泉 孝英, 北市正則, 長井苑子, 西村浩一, 江村正仁, 三尾直士, 竹内 実, 渡辺和彦, 大島駿作: 特発性 UIP 33例の臨床像, 検査所見, 病理像について, 厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究所昭和62年度研究報告書. p.116-118. 昭和63年3月.

Izumi, T. Sarcoid granuloma formation-immunology: Outlook. Grassi, C., Rizzato, G., Pozzi, E. ed. *Sarcoidosis and Other Granulomatous Disorders*, P.193-197, Elsevier Science Pub., Amsterdam. 1988.

Izumi, T., Nagai, S., Kitaichi, M., Oshima, S.: Smoking causes an alteration of BALF cell findings in patients with BHL sarcoidosis but no evidence could be found that smoking affects the natural course of BHL sarcoidosis. Grassi, C., Rizzato, G., Pozzi, E. ed. *Sarcoidosis and Other Granulomatous Disorders*. P. 423-427, Elsevier Science Pub. Amsterdam, 1988.

Izumi, T.: A nation-wide survey of diffuse panbronchiolitis in Japan and the high incidence of diffuse panbronchiolitis seen in Japanese respiratory clinics. Grassi, C., Rizzato, G., Pozzi, E. ed. *Sarcoidosis and Other Granulomatous Disorders*, P, 753-757, Elsevier Science Pub., Amsterdam, 1988.

泉 孝英: 『医療のシステム化に関する研究』11. 臨床検査の適正化及び効率化. 1. 呼吸器疾患における検査ガイドライン試案, 昭和62年度政府管掌健康保険事業の効率化に関する調査研究報告書, p. 8-22.

泉 孝英, 長井苑子, 北市正則, 大島駿作: 喫煙の間質性肺疾患の成立, 進展に及ぼす影響に関する研究—IPF 症例における喫煙状況と喫煙の病理組織所見に及ぼす影響に関する検討—, 昭和62年度喫煙科学研究財団研究年報, p. 351-354, 1988.

泉 孝英, 長井 苑子, 北市正則, 江村正仁, 三尾直士, 渡辺和彦, 竹内 実, 大島駿作: 各種条件下における非喫煙者のたばこ煙吸入量とその生体に及ぼす影響について, 昭和62年度喫煙科学研究財団研究年報, p. 623-625, 1988.

Izumi, T., Nagai, S., Kitaichi, M., Fujimura, N., Nakayama, M.: Differentiation between idiopathic UIP and BOOP, *Jpn J Med* 27(4)/421, 1988.

木野稔也: 昆虫による気管支喘息の研究, 種々の交差反応試験による蝶・蛾, トビケラユスリカアレルギーの独立性の検討と各々の昆虫に特有な感作抗原分画の分子レベルでの確認, 昭和63年度科学研究費補助金実績報告書(研究実績報告書), 平成元年3月.

Kitaichi, M.: Pathology of diffuse panbronchiolitis from the view point of differential diagnosis. Grassi, C., Rizzato, G., Pozzi, E. (eds), *Sarcoidosis and Other Granulomatous B. V.*, Amsterdam, 1988, P. 741-746.

北市正則, 話題提供: IPF をどのように理解すべきか. 病理. Diffuse Alveolar Damage, UIP, 剖検時の UIP と開胸生検の UIP, DIP, BOOP, Alveolar Septal Inflammation, 第37回間質性肺疾患研究会討議録, p. 51-81.

K. Nishimura and H. Itoh: Radiologic findings of patients with diffuse panbronchiolitis. In: Grassi C. Rizzato G, Pozzi E, eds, *Sarcoidosis and other granulomatous disorders*. Amsterdam: Elsevier Science Publi-

shers B. V., P. 747-752, 1988.

Htin Aung, Izumi, T., Nagai, S., Takeuchi, M., Oshima, S.: Interleukin-1 Production by Blood Monocyte from Pulmonary Tuberculosis: 昭和62年度日本医学協力計画報告書, p. 213-224, 1988.

佐々木義行, 西村 康, 故倉 恵, 川上 明, 沢野哲雄, 浅本 仁, 西脇洗一, 小林敏信, 石井 奏, 李 曄, 楠木秀和, 糸山光磨, 吉田睦広, 北市正則: 開胸肺生検により Diffuse Alveolar Damage と診断された一症例, 第37回間質性肺疾患研究会討議録, p. 11-21.

吉良枝郎, 岩田猛邦, 河端美則, 北市正則, 斎木茂樹: BOOP (Bronchiolitis obliterans organizing pneumonia) とその周辺疾患, 呼吸, 7:652-667, 1988.

〔学会, 研究会発表〕

泉 孝英, 長井苑子, 西村浩一, 北市正則, 大島駿作, 藤村直樹, 中山昌彦, 大野聖子, 辻 重行: IPF と BOOP の鑑別診断, 第85回日本内科学会講演会 (63. 4. 1).

泉 孝英, 長井 苑子, 竹内 実, 渡辺和彦, 三尾直士, 江村正仁, 北市正則, 大島駿作, 藤村直樹, 川添隆司, 田中 茂, 中山昌彦, 大野聖子, 辻 重行: BALF 細胞所見からみた BOOP と IPF の鑑別診断, 第28回日本胸部疾患学会総会 (63. 4. 26).

泉 孝英, 北市正則, 西村浩一, 谷本晋一: 『会長推薦講演』びまん性汎細気管支炎の独立性をめぐって— Panel Discussion: Diffuse Panbronchiolitis (1987. 9. 11 ミラノ) 報告, 第28回日本胸部疾患学会総会 (63. 4. 28).

Izumi, T., Nagai, S.: Corticosteroids inhibit spontaneous resolution of BHL shadows in sarcoidosis. American Thoracic Society 1988 Annual Meeting (1988. 5. 10, Las Vegas).

Izumi, T., Nagai, S.: 間質性肺疾患『肺胞洗浄細胞所見の臨床的価値』第16回箱根呼吸討議会 (63. 5. 22).

泉 孝英: シンポジウム『肺線維症の臨床』原因不明のびまん性間質性肺炎・肺線維症に関する再検討, 日本結合組織学会総会 (63. 6. 29).

Izumi, T.: Comparison of clinical and pathological findings between asymptomatic individuals as detected by routine health examination and symptomatic patients in idiopathic UIP. International Symposium on Interstitial Pneumonia of Unknown Etiology (1988, 10, 26, Tokyo).

Izumi, T.: Atemwege bei Alveolitis und Fibrose. Exemplarische Krankheitsbilder Klinik, Pathogenese und Therapie. Diffuse panbronchiolitis. 24. Tagung der Gesellschaft für Lungen-und Atmungsforshung. (1988, 12, 2, Bochum).

泉 孝英, 北市正則, 長井苑子, 西村浩一, 大島駿作, DeRemee, R. A., Colby, T. V.: Mayo Clinic と京大胸部研における IPF (UIP) 症例の比較, 第33回 FLD シンポジウム (1. 3. 11).

木野稔也, 佐竹範夫, 鏑田利恵子, 安場広高, 福田康二, 大島駿作: 昆虫による気管支喘息の研究. (XV) 大気中に浮遊する吸入性昆虫抗原量の粒子径別アレルギー学的測定, 第28回日本胸部疾患学会総会, 昭和63年4月26, 27, 28日 (仙台).

木野稔也, 佐竹範夫, 鏑田利恵子, 安場広高, 福田康二, 大島駿作, 佐々木義行: 気管支喘息患者を感作する昆虫 (カイコ蛾翅, トビケラ翅およびユスリカ全虫体) 抗原分画の検索, 第38回日本アレルギー学会総会, 昭和63年9月26, 27, 28日 (京都).

Kino. T, Satake. N, Yasuba. H, Fukuda. K, Oshima. S: Antigenic cross-reactivity between insects. The 13th international Congress of Allergology and Clinical Immunology, October 16-21, 1988 (Montreux, Switzerland).

Kino. T and Oshima. S: Determination of chironomid midge airborne allergen, in comparison with moth, butterfly and caddis fly allergens. International Symposium on mite and midge allergy, December 9-10, 1988 (Tokyo).

門 政男, 安場広高, 大島駿作, 杉本幾久雄: 止血剤, 抗生剤の投与により消失した炎症性ポリープと考えられる一症例, 第11回日本気管支学会総会 (63, 6. 1).

田村康一, 人見滋樹, 門 政男: 教育展示「直視下生検による大出血例の BF 所見」異常血管, 第11回日本気管支学会総会 (63. 6. 1)

門 政男, 北市正則, 平田健雄, 松井祐佐公, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 化学療法中, 多発結節状の胸膜腫瘍を認めた結核性胸膜炎の一症例, 第63回日本結核病学会総会 (63. 6. 2).

松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 今井弘行: 肺癌無治療例の検討, 第28回日本胸部疾患学会総会 (S 63. 4)

松井祐佐公, 門 政男, 大島駿作: 5-Fu 及び Ca^{++} 拮抗剤の併用療法により長期生存している肺腺癌の 1 例並びに無治療例の検討, 第 2 回進行肺癌懇話会 (S 63. 7).

Yusaku Matsui, Hiroyuki Imai, Masao Kado and Shunsaku Oshima: Survival in lung cancer. The Thoracic society of Australia, (Sydney) (63. 5).

Yusaku Matsui and Shunsaku Oshima: Induction chemotherapy with etoposide, cisplatin (CDDP) and cyclophosphamide (CPM) for TNN stage III and IV small cell lung cancer (SCLC) and clinical evaluation of neuron specific enolase (NSE) for monitoring the therapy of SCLC., Fifth world conference on lung cancer (Interlaken, Switzerland) (S63. 8).

松井祐佐公, 北市正則, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 今井弘行: 40才未満肺癌症例の検討. 第29回日本肺癌学会総会 (S 63. 10).

松井祐佐公, 佐竹範夫, 安場広高, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 5-Fu 及び G^{++} 拮抗剤の併用療法により 5 年以上生存している肺腺癌の 1 例. 第50回日本肺癌学会関西部会 (平成元年, 2月).

平田健雄, 西村浩一, 福田康二, 安場広高, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: DPB 患者喀痰中の好中球遊走因子と活性化因子の研究, 第28回日本胸部疾患学会総会, 1988. 4.

平田健雄, 西村浩一, 福田康二, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: DPB 患者の好中球機能異常とエリスロマイシン治療の好中球機能に及ぼす効果の検討, 第28回日本胸部疾患学会総会, 1988. 4.

北市正則: Bronchiolitis obliterans organizing pneumonia (BOOP) の病理学的診断をめぐって, 第28回日本胸部疾患学会総会 (63. 4. 26).

北市正則: BOOP という概念をめぐって—BOOP の病理像を中心に—, 第52回大阪呼吸器疾患懇話会 (63. 5. 18).

Kitaichi. M, Colby. T. V, Izumi. T, Yamamoto. S. Kitatani. F and Iwata. T: A comparative pathological study of inflammatory airways disorders (IAD): The significance of unit lesions of panbronchiolitis (PB), 1988 Annual Meeting of American Thoracic Society. (Las Vegas. 63. 5. 9).

北市正則, 西村浩一, 泉 孝英, 長井苑子, 岩田猛邦, 岩田政敏, 佐藤篤彦, 梅枝愛郎, 宮城征四郎: Unit lesion of panbronchiolitis の視点から見た DPB の病理像について—開胸肺生検標の検討成績から—第 9 回びまん性汎細気管支炎をめぐる研究会 (63. 7. 2).

Kitaichi. M: Alveolar septal inflammation: A comparative pathological study of idiopathic pulmonary fibrosis and BOOP, International Symposium on Interstitial Pneumonia of Unknown Etiology (63. 10. 25).

長井苑子, 泉 孝英, 竹内 実, 三尾直士, 江村正仁, 北市正則, 大島駿作: 過敏性肺臓炎, サルコイドーシスにおける BALF-T リンパ球上の CD3 抗原発現差とその制御に関する検討, 第28回日本胸部疾患学会総会 (63. 4. 27).

長井苑子, 泉 孝英, 竹内 実, 三尾直士, 江村正仁, 北市正則, 大島駿作: BALF マクロファージのアクセサリー機能におよぼす Angiotensin-Ⅱ の効果: サルコイドーシス肺病変遷延化の秩序への関与, 第28回日本胸部疾患学会総会 (63. 4. 27).

S. Nagai, M. Takeuchi, T. Mio, M. Emura, T. Izumi: The expression of CD3 antigen on BALF T cells is significantly increased in patients with hypersensitivity pneumonitis in comparison with sarcoidosis, annual Meeting of American Thoracic Society. (Las Vegas, 5. 12. 1988).

長井苑子, 泉 孝英, 西村浩一, 北市正則, 江村正仁, 三尾直士, 竹内 実, 大島駿作: 間質性肺炎および肺気腫症例にみられた血中ウイルス抗体価の有意な上昇について, 第16回日本臨床免疫学会総会 (大阪. 63. 6. 17).

長井苑子：特別講演：肺の炎症性疾患とリンパ球，第4回肺と免疫研究会（63.9.17）。

Nagai, S: The value of BALF cell finding for differentiation of idiopathic UIP, BOOP and interstitial pneumonia associated with collagen vascular disease, International symposium of Interstitial Pneumonia of unknown etiology (63.10.24).

長井苑子，竹内 実：サルコイドーシス症例の BALF macrophage の病変形成における役割（シンポジウム：「サルコイドーシスにおけるマクロファージの機能と役割」）（63.11.11）。

長井苑子：特別講演：びまん性肺疾患における BAL の意義，第32回日本胸部疾患学会近畿地方会（63.11.26）。

S. Nagai, T. Izumi: The regulatory role of BALF macrophages in chronic active sarcoidosis, International Symposium Basic Mechanisms of Granulomatous Inflammation (11.29.1988)。

長井苑子：肺移植をめぐる一適応となる症例とその時期 シンポジウム：昭和63年度京大胸部疾患研究所講演会（平成元年1.28.）。

西村浩一，泉 孝英，北市正則，長井苑子，木野稔也，大島駿作，大野聖子，辻 重行，中山昌彦，田中 茂，川添隆司，藤村直樹，今井弘行，金岡正樹，伊藤春海：Bronchiolitis obliterans organizing pneumonia のX線 CT 像の検討—開胸肺生検標本との対比，第28回日本胸部疾患学会総会（63.4.27）。

西村浩一，泉 孝英，北市正則，長井苑子，木野稔也，大島駿作，金岡正樹，伊藤春海：びまん性汎細気管支炎のX線 CT 像と伸展固定肺標本との比較検討，第28回日本胸部疾患学会総会（63.4.28）。

K. Nishimura, T. Izumi, M. Kitaichi, S. Nagai, S. Oshima, M. Kanaoka, H. Itoh, N. Fujimura: X-ray CT is a valuable technique to differentiate between BOOP and UIP: CT-pathologic correlations, 1988 Annual Meeting. American Thoracic Society, (11. May 1988. Las Vegas)。

西村浩一：シンポジウムⅡ 肺結核の画像診断。2. 肺の正常末梢構造—特に小葉内の構造について—，第63回日本結核病学会総会（63.6.2）。

K. Nishimura and H. Itoh: Is CT useful in differentiating between BOOP and idiopathic UIP? International Symposium on interstitial pneumonia of unknown etiology, (26, October 1988. Tokyo)。

西村浩一，三尾直士，北市正則，泉 孝英，金岡正樹，伊藤春海，川口英人：Pulmonary lymphangiomyomatosis 2例におけるX線 CT と開胸肺生検標本との比較検討，第38回閉塞性肺疾患研究会（平成元年1.29）。

福田康二，木野稔也，安場広高，佐竹範夫，鏑田利恵子，松井祐佐公，大島梢作，荏原順一：気管支喘息患者の末梢血好中球機能について，第28回日本胸部疾患学会総会（63.4.28）。

福田健二，安場広高，佐竹範夫，松井祐佐公，木野稔也，大島駿作，荏原順一：吸入誘発喘息反応時の末梢血好中球の化学発光について，第38回アレルギー学会総会（63.9.27）。

Fukuda. K, Chihara. J, Yasuba. H, Satake. N, Tsubata. R, Kino. T, Oshima. S: Luminol-dependent Chemiluminescence of Peripheral Neutrophils in Asthmatic Patients, XIII International Congress of Allergology and Clinical Immunology, (1988.10.16. Montreux)。

安場広高，木野稔也，佐竹範夫，鏑田利恵子，福田康二，松井祐佐公，泉 孝英，大島駿作，荏原順一：気管支喘息発作時の血小板活性化の関与—ヘパリン負荷テストによる検討。第28回日本胸部疾患学会総会（63.4.27）。

安場広高，江村正仁，門 政男，大島駿作：左主気管支に発生し，左下葉気管支拡張を伴った Bronchial Carcinoid Tumor with Oncocytic Features の一例，第34回近畿気管支鏡懇話会（63.7.22）。

安場広高：肺アスペルギルス感染病から ARDS に陥り救命し得た一例：第8回京都呼吸器シンポジウム（63.8.7）。

安場広高，木野稔也，福田康二，泉 孝英，大島駿作：気管支喘息発作時における血小板活性化の関与。第16回免疫カンファレンス（63.9.24）。

安場広高，木野稔也，福田康二，泉 孝英，大島駿作，荏原順一：気管支喘息発作時の血小板活性化の関与—血漿 FPA 値およびトロンビン刺激血小板の好酸球遊走能に関する検討 第38回日本アレルギー学会総会（63.9.26）。

安場広高，木野稔也，福田康二，佐竹範夫，大島駿作，荏原順一：Platelet hyperreactivity and reduced PF4 clearance by endothelium in bronchial asthma, the 13th International Congress of Allergology and Clinical

Immunology (63. 10. 21).

江村正仁, 長井苑子, 泉 孝英, 三尾直士, 渡辺和彦, ティン・オン, 竹内 実, 平田健雄, 大島駿作: IPF 症例末梢血の免疫グロブリン産生細胞に関する検討 (第2報), Bリンパ球活性に及ぼすTリンパ球の影響について. 第28回日本胸部疾患学会総会 (63年4月28日).

江村正仁, 長井苑子, 泉 孝英, 三尾直士, 渡辺和彦, ティン・オン, 竹内実, 平田健雄, 大島駿作: IPF 症例におけるBリンパ球活性化状況の検討, 第32回 FLD シンポジウム (昭和63年9月10日).

三尾直士, 泉 孝英, 竹内 実, 長井苑子, 江村正仁, 北市正則, 大島駿作: IPF 症例における BALF, 血清中の CSF 活性に関する検討, 第28回胸部疾患学会 (S 63. 4. 28).

三尾直士, 長井苑子, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作: 約20年の経過中に肺線維化が進行し, 肺癌の合併により死亡したサルコイドーシス病の一例, 日本サルコイドーシス学会 (63. 11. 12).

三尾直士, 長井苑子, 泉 孝英: IPF (UIP) 症例の開胸肺生検肺由来の肺線維芽細胞の増殖速度に関する検討, 第33回 FLD シンポジウム (HI, 3. 11).

三尾直士, 西村浩一, 北市正則, 泉 孝英: 開胸肺生検後エリスロマイシン治療中, 約半年の経過で喘息性症状が出現した DPB の1例, 第10回びまん性汎細気管支炎をめぐる研究会 (HI. 1. 28).

佐竹範夫, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 乳癌の術後6年目で繰り返す肺炎にて発見された気管支結石症の一例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11. 26).

佐竹範夫, 安場広高, 福田康二, 木野稔也: 8年間毎年秋に発生するアレルギーは気管支肺真菌症の臨床的アレルギー学的経過, 第13回臨床アレルギー研究会 (1989. 3. 4).

川谷曉夫, 長井苑子, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作, 国立療養所宇多野病院内科, 杉之下俊彦, 高島病院内科 馬庭燕: 「労作時呼吸困難を主訴とし, びまん性陰影を呈した Sjögren 症候群の一例」第44回びまん性肺疾患研究会 (平成元年2. 18).

竹内 実, 泉 孝英, 長井苑子, 江村正仁, 三尾直士, Htin Aung, 渡辺和彦, 大島駿作: 肺細胞マクロファージによる末梢血 NK 活性抑制機序の検討, 第28回日本胸部疾患学会総会 (63. 4. 28).

Minoru Takeuchi, Sonoko Nagai and Takateru Izumi: The mechanism of Inhibition of alveolar macrophages on autologous blood natural killer cell activity, American Thoracic Society annual meeting (May, 8, 1988.).

竹内 実, 泉 孝英, 長井苑子, 江村正仁, 三尾直士, Htin Aung, 渡辺和彦, 大島駿作: 喫煙が肺胞マクロファージのコロニー形成能及び CSF 産生能に及ぼす影響について, 第16回日本臨床免疫学会総会 (63. 6. 18).

竹内 実, 長井苑子, Htin Aung, 三尾直士, 江村正仁, 北市正則, 泉 孝英: IL-1 産生とその制御一特に IL-1 抑制活性の出現—第29回京大臨床免疫研究会 (63. 12. 3).

ティン・オン, 長井苑子, 竹内 実, 泉 孝英, 大島駿作, 肺結核症例末梢血単球の IL-1 産生能に関する研究: 第62年度日米医学協力研究会結核部会研究会: 昭和63年2月16日 (東京).

Htin Aung, 長井苑子, 泉 孝英, 竹内 実, 渡辺和彦, 三尾直士, 江村正仁, 北市正則, 大島駿作: BALF マクロファージ由来のインターロイキン活性抑制因子に関する検討—IL-1 産生におよぼすインドメサシン, プロスタグランディン E₂ の影響—.

Aung H, 長井苑子, 竹内 実, 泉 孝英, 大島駿作: 肺結核症例の末梢血単球より産生遊離されたインターロイキン活性についての検討, 第63回日本結核病学会 (S 63. 6. 2札幌).

Aung. H. 長井苑子, 渡辺和彦, 竹内 実, 江村正仁, 三尾直士, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作, 藤村直樹: サルコイドーシス症例Tリンパ球の IL-1 に対する遊走能の検討, 第8回日本サルコイドーシス学会総会 (S 63. 11. 11).

鏑田利恵子, 公文正仁, 川口英人, 松井祐佐公, 泉 孝英, 大島駿作, 小山 弘: COPP-ABD 療法と ⁶⁰Co 照射の sandwich 療法にて良好な経過をとった進展例 Hodgkin's disease の3例, 第125回日本内科学会近畿地方会 (S 63. 6)

奥田 薫, 安場広高, 木野稔也, 鏑田利恵子, 福田康二, 佐竹範夫, 泉 孝英, 大島駿作, 荻原順一: 宮崎肺吸虫感染を契機として発病したと考えられる, Non-idiopathic HES の一例, 第125回日本内科学会近畿地方会 (S

63. 6. 11).

川口英人, 西村浩一, 松井祐佐公, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作, 金岡正樹, 伊藤春海: X線 CT が鑑別診断に有用であった結核腫の 1 例, 第49回日本肺癌学会関西支部会 (S 63. 7. 30).

川口英人, 西村浩一, 三尾直士, 北市正則, 長井苑子, 泉 孝英, 大島駿作, 三嶋理晃, 金岡正樹, 伊藤春海, 肺気腫との鑑別点が問題となった Pulmonary lymphangiomyomatosis の 1 例, 第37回閉塞性肺疾患研究会 (S 63. 7. 17).

川口英人, 西村浩一, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作, 佐坂徳浩, 千原幸司: Pulmonary lymphangiomyomatosis (肺 LAM) の 1 例—慢性肺気腫との鑑別を中心に—, 第32回 日本胸部疾患学会近畿地方会 (S 63. 11. 26).

川勝市雄, 木野稔也, 安場広高, 川口英人, 鏑田利恵子, 大島駿作: テオフィリンの体内動態に及ぼす OKY-046 の影響, 第38回日本アレルギー学会総会 (昭和63年 9 月26, 27, 28 京都).

中島道郎, 浜本康平, 岡田英彦, 橋本圭司, 河原崎茂孝, 谷口隆司: 気管支喘息に対する金ゾル療法の検討 (第 2 報: 金ゾル剤単独投与法と抗アレルギー剤併用法との比較), 第28回日本胸部疾患学会総会 (S 63. 4. 28).

中島道郎: 山で病気にならないために, 第 8 回日本登山医学シンポジウム (88. 6. 11).

中島道雄, 浜本康平, 岡田英彦, 橋本圭司, 河原崎茂孝, 谷口隆司: 新経口金製剤『オーラノフィン』の気管支喘息に対する臨床的応用, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (S 63. 6. 25).

中島道彦: 京都市立病院における原発性肺クリプトコックス症 8 例の治療経験から, 第 8 回京都呼吸器疾患シンポジウム (88. 8. 7),

中島道郎: 原発性肺クリプトコックス症に対するアンコチルの使用経験, アンコチル発売10周年 記念講演会 (39. 1. 28).

杉本幾久雄: 「マラソン競技中に発症し, DIC 及び重篤な肝障害を併発した熱射症の 1 例」, 第 8 回滋賀県救急医療研究会 (63. 10. 15).

杉本幾久雄: 「精神症状を初発症状とした SIADH の 1 症例」, 第33回滋賀県呼吸器疾患談話会 (平成1. 2. 25).

中山昌彦: びまん性肺疾患のレントゲン及び CT 像について, 第 3 回胸部疾患研究会 (63. 6. 18).

中山昌彦: 浅妻茂生, 辻 重行, 中村 昇, 栗山卓弥: 腫瘍成長速度よりみた肺癌の予後および転移の確率予測, 第10回癌の生存時間研究会 (88. 12. 3).

中山昌彦: 肺癌の成長速度と転移, 第 4 回呼吸器疾患研究会 (88. 12. 10).

中山昌彦: 肺感染症に伴う急性呼吸不全例〔追加症例〕第 9 回京都府医師会 CPC (89. 1. 25).

中村 昇, 鎮 由加利, 栗山卓也, 辻 重行, 浅妻茂生, 中山昌彦: 7 年間の経過観察中寒冷凝集素症の合併, 胸水, 心嚢水貯蓄を見た肺アミロイドーシスの 1 剖検例, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (88. 6. 25).

栗山卓弥, 中村 昇, 大野聖子, 辻 重行, 浅妻茂生, 中山昌彦: SIADH 及び ACTH 産生能を呈し, 多彩な進展を示した肺小細胞癌の一例, 第14回京都医学会 (88. 9. 18).

辻 重行, 栗山卓弥, 中村 昇, 浅妻茂生, 中山昌彦: 両側横隔膜麻痺の一例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (88. 11. 26).

辻 重行, 栗山卓弥, 中村 昇, 浅妻茂生, 中山昌彦: 成人の先天性食道気管支瘻の 1 例 第35回近畿気管支鏡懇話会 (88. 12. 23).

浅妻茂生, 辻 重行, 中村 昇, 栗山卓弥, 中山昌彦: 気管狭窄より発症した食道癌の 1 例, 第36回近畿気管支鏡懇話会 (89. 3. 30).

藤村直樹, 松尾晃次, 川添隆司, 田中 茂, 梅宮正志, 水野 浩, 加藤幹夫, 日置辰一郎: 慢性気管支喘息における PF 自己測定による β 刺激薬定期吸入の効果評価, 第61回日本結核病学会, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (S 63. 6. 25. 大阪).

藤村直樹, 松尾晃次, 川添隆司, 田中 茂, 梅宮正志, 水野 浩, 加藤幹夫, 日置辰一郎: 非可逆性気道閉塞を有するアレルギー性気管支喘息患者の 1 例における換気, 血流動態 第61回日本結核病学会, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (S 63. 6. 25, 大阪).

藤村直樹, 田中 茂, 川添隆司, 梅宮正志, 巖西真規, 水野 浩, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 森中節子, 長井苑

子, 泉 孝英: 突発性難聴, 胸水を伴うびまん性肺陰影, 呼吸不全を呈したマイコプラズマ肺炎の1例, 第62回日本結核病学会, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (S 63. 11. 26, 奈良).

藤村直樹, 田中 茂, 川添隆司, 梅宮正志, 巖西真規, 水野 浩, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 山口慎也, 奥 英弘, 森中節子, 今井雅夫: 経過中, 喘息, 皮膚紅斑, 尿崩症, 下肢腫脹, Heerfordt 症候群を伴ったサルコイドーシスの1例, 第62回日本結核病学会, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (S 63. 11. 26, 奈良),

藤村直樹, 田中 茂, 川添隆司, 梅宮正志, 巖西真規, 水野 浩, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 山口慎也, 奥 英弘, 森中節子, 今井雅夫, 長井苑子, 北市正則, 泉 孝英: 経過中, 喘息, 皮膚紅斑, 尿崩症, 下肢腫脹, Heerfordt 症候群を伴ったサルコイドーシスの1例. 第8回日本サルコイドーシス学会総会. (S 63. 11. 11. 東京).

T. Shirakawa, Y. Kusaka, Y. Nakano, N. Fujimura, S. Goto, K. Sugimoto, M. Kato, S. Heki.: Both type I and IV allergic mechanisms specific to cobalt are involved in hard metal asthma?, Am Rev Resp Dis 137: 299a. 1988.

松尾晃次, 梅宮正志, 川添隆司, 田中 茂, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎: 塵肺結核に肺出血を合併し死亡した患者の1剖検例, 第61回日本結核病学会, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (S 63. 6. 25. 大阪).

川添隆司, 田中 茂, 梅宮正志, 松尾晃次, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎: HCG 産生肺癌の1例, 第61回日本結核病学会, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (S 63. 6. 25, 大阪).

川添隆司, 藤村直樹, 北市正則, 長井苑子, 泉 孝英, 大島駿作: Bronchiolitis Obliterans Organizing Pneumonia (BOOP) と好酸球性肺炎病理組織学的比較検討 (末梢気腔内有核細胞分画の検討成績について), 日本胸部疾患学会雑誌26増刊: 131, 1988.

梅宮正志, 田中 茂, 川添隆司, 松尾晃次, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎: Bartter 症候群に気管支喘息を合併した1例, 第61回日本結核病学会, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (S 63. 6. 25. 大阪).

田中 茂, 巖西真規, 川添隆司, 梅宮正志, 水野 浩, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎: 胸膜炎における胸水中 CA-125 および Adenosine deaminase 活性値測定の臨床的意義—癌性胸膜炎と結核性胸膜炎を中心として—第62回日本結核病学会, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (S 63. 11. 26, 奈良).

田中 茂, 川添隆司, 藤村直樹, 松尾晃次, 梅宮正志, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 北市正則, 長井苑子, 泉 孝英, 開胸肺生検にて診断された Bronchiolitis Obliterans Organizing Pneumonia (BOOP) 3例の臨床的検討, 日本胸部疾患学会雑誌26増刊: 131, 1988.

池上裕美子, 河村哲治, 嶋崎洋一, 河南里江子, 中原由紀子, 中原保治, 望月吉郎, 松山栄一, 北市正則: 呼吸困難, 乾性咳嗽を主訴とし胸部レ線上びまん性陰影を呈した1例, びまん性肺疾患研究会 (63. 9. 30).

伊藤 剛, 金岡正樹, 小原安喜子, 北市正則, 古田睦弘: 原発性肺癌肉腫の1剖検例, 第77回日本病理学会総会 (63. 5. 27).

大塚直紀, 陳 和夫, 中出雅治, 北 英夫, 三嶋理晃, 大井元晴, 佐藤公彦, 久野健志, 長井苑子, 北市正則: 他の間質性肺炎と鑑別困難であった BOOP の1例, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (63. 6. 25).

金岡正樹, 伊藤春海, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作, 内木宏延, 花田敬吾, 藤田葉子, 樋口佳代子, 細川昌則, 鈴木康弘, 竹田俊男: 原発性肺癌102剖検例の臓側胸膜病変に関する病理組織学的検討, 第28回日本胸部疾患学会総会 (63. 4. 27).

金岡正樹, 北市正則, 内木定延, 花田敬吾, 藤田葉子, 樋口佳代子, 細川昌則, 鈴木康弘, 竹田俊男, 吉田睦弘, 原発性肺癌剖検例の臓側胸膜病変に関する病理組織学的検討, 第77回日本病理学会総会 (63. 5. 27).

河村哲治, 倉沢卓也, 久世文幸, 植田充宏, 千原幸司, 北市正則: 重症筋無力症を伴った胸腺カルチノイドの1例, 第49回日本肺癌学会関西支部会 (63. 7. 30).

坂本廣子, 富岡洋海, 長谷川 幹, 岡崎美樹, 片上信之, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 北市正則: Sheehan 症候群の治療中に出現したびまん性肺陰影の1例, 第43回びまん性肺疾患研究会 (63. 12. 3).

末永直人, 林 文明, 宮内伸夫, 中村 仁, 栗栖昌郎, 北田修, 杉田 實, 植松邦夫, 北市正則: 肺硬塞および肝静脈閉塞を呈した hypereosinophilic syndrome の1例, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (63. 6. 25).

田中一穂, 梅本真三男, 藤尾 彰, 香川輝正, 米津精文, 岡村明治, 泉 春暁, 北市正則: 炎症所見を有する肺発生リンパ球系細胞増殖性疾患と思われる1例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (63. 11. 26).

Kingo Chida, Atsuhiko Sato, Masahiko Okano, Yusaku Matsui, Masao Kado and Shunsaku Oshima: Urinary polyamine levels in patients with lung cancer. The Thoracic Society of Australia. (Sydney. S63.5).

Chihara. J, Kino. T, Nakajima. S: Induction of of hypodense eosinophils by various chemotactic factors and lymphokines in vitro. the 13th International Congress of Allergology and Clinical Immunology, October 16-21, 1988 (Montreux, Switzerland).

仁紙宏之, 吉岡伸子, 黒木茂一, 春田恒和, 筒井 猛, 馬場国蔵, 片山信之, 北市正則: 脳腫瘍に合併した間質性肺炎の1例, 第21回日本小児呼吸器疾患学会 (63.10.22).

松村理司, 北村雅英, 谷口浩一, 山口和之, 黄 正一, 金地研二, G. C. Willis, 北市正則: 急激に進行し, 不幸な転帰をとった間質性肺炎の1例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (63.11.26).

〔そ の 他〕

大島駿作: 胸部疾患領域に於ける新年の展望, ドクターサロン, 33, 9-13, 1989.

大島駿作: 第29回日本胸部疾患学会総会にあたって. 医学と薬学, 21, 396, 1989.

大島駿作: 第29回日本胸部疾患学会総会: 保健通信, 393, 16, 1989.

大島駿作: 第29回日本胸部疾患学会総会: 薬事日報, 第7469号, 32, 1989.

大島駿作: 第29回日本胸部疾患学会総会の開催にあたって, 日胸疾会誌, 27, 1-2, 1989

大島駿作: 日本の医療 健康, No. 332, 14-15, 1989.

大島駿作: Current Problems in Respiratory Diseases, ベルサハバタン病院講演会: 昭和63年8月23日 (ジャカルタ).

大島駿作: Current Problems in Respiratory Diseases, インドネシア大学講演会: 昭和63年8月24日 (ジャカルタ).

大島駿作: Current Problems in Respiratory Disease, アヒドール大学 シラ病院講演会: 昭和63年8月30日 (バンコック).

Sharma, OM P. (泉 孝英訳): ARDS. Therapeutic Research, 8(3): 623-633, 1988.

泉 孝英: 慢性ペリリウム肺をめぐって・日本とアメリカの対策の相違, 医学のあゆみ 145(3):158, 1988.

泉 孝英: 特集『ターミナルケア: 高度医療とのはざままで』ターミナルケアに思う肺癌患者の末期医療費, 医療'88 4(5):20-21, 1988.

泉 孝英: 特別講演「IPF をめぐって」 第10回神奈川呼吸カンファレンス (63.6.11).

泉 孝英: 特別講演「肺線維症をめぐって」, 広島大学第2内科開講40周年記念会 (63.6.18).

泉 孝英: 特別講演 慢性閉塞性肺疾患をめぐって「COPD はわが国ではどのように理解されたか」, 第169回長崎市医師会学術講演会 (63.5.24).

Sharma, OM P., 泉 孝英: 特集 サルコイドーシス『対談』サルコイドーシスをめぐって, 最新医学 43(7): 1562-1575, 1988.

泉 孝英: 『巻頭言』江戸の蘭学・長崎の蘭学, 呼吸7(7):763, 1988.

泉 孝英: 『特別講演』慢性閉塞性肺疾患の現状と治療, 宇部市, 小野田・厚狭郡・美市・吉南医師会学術講演会 (63.7.15).

泉 孝英: 特別講演『慢性閉塞性肺疾患の診断と治療』学術講演会 (静岡, 63.8.20).

Izumi, T.: Diffuse parbronchiolitis, Seminar in Institut ZA Plucne Bolesti, Novi Sad, Yugoslavia (1988. 9.12).

泉 孝英: いわゆる PIE 症候群の原因と病態について説明してください, 宮本昭正, 奥田 稔監修『気道疾患Q&A』(13): 1987.

泉 孝英: スカンジナビアにおける呼吸器医療, 呼吸7(9):1078-1080, 1988.

泉 孝英: 肺線維症をめぐって. 名古屋市立大学第二内科山本正彦教授開講十周年記念講演会 (63.9.22).

泉 孝英: 特別講演『閉塞性肺疾患をめぐって』, 大牟田市医師会大牟田内科小児科医会学術講演会(63.9.29).

泉 孝英: 夏型過敏性肺臓炎, 診療手帖(96):24-30, 1988.

- 泉 孝英：「アレルギー今日の考え方」BALF リンパ球, *Current Insights in Allergy*. 4(4):16-19, 1988.
- Izumi, T.: Histopathological findings and the progression of idiopathic UIP, Seminar in the Department of Thoracic Medicine, The Royal Free Hospital (1988, 12, 7, London Hampstead).
- 泉 孝英：閉塞性肺疾患について, 尼ヶ崎市内科医会 (63. 12. 14).
- 泉 孝英：ユーゴスラビアの結核・胸部疾患研究所, *呼吸* 7 (12):1420-1422, 1988.
- 泉 孝英：インタビュー『特発性肺線維症とは何か』, *週刊医学界新聞* (1828): 6-7, 1988.
- 泉 孝英教授に聞く：特発性肺線維症, *京都新聞* (1. 1. 12).
- 泉 孝英：特別講演『特発性間質性肺炎・肺線維症—臨床経過, 病理像からみた疾患像の再整理—』, 昭和63年度京都大学胸部疾患研究所学術講演会 (1. 1. 28).
- 泉 孝英：特別講演『わが国における閉塞性肺疾患の現状』, 第18回大気汚染公害認定研究会 (1. 1. 29).
- 泉 孝英：健康相談会『検診で巨大肺のうほう症と言われた』, *すこやかファミリー*(196):25, 1989.
- 泉 孝英：特別講演『わが国における閉塞性肺疾患』学術講演会 (1. 2. 25).
- 泉 孝英：結核・成人病予防は自分の手で—結核の新しい知識・正しい知識—京都市『健康増進市民のつどい』 (1. 3. 14).
- 泉 孝英：『質疑応答』BOOP の病態と治療 *日本医事新報* (3384):138-139, 1989.
- Sharma, OM P., Izumi, T.: Airway obstruction in sarcoidosis. *Western J. Med.* 148 (5):568-569, 1988.
- 木野稔也：変わりゆく気管支喘息の考え方と治療, 綴喜医師会講演会, 昭和63年 5月28日.
- 木野稔也：気管支喘息の診断と治療における最近の話題, 京都府医師会, 京都胸部医会講演会, (63. 7. 15).
- 木野稔也：「話題提供」アレルギー性気管支肺真菌症の診断基準における問題点とわが国特有の原因真菌についての考察, 第8回京都呼吸器疾患シンポジウム, (63. 8. 7).
- 木野稔也：「特別講演」吸入性昆虫抗原の普遍性と粒子流体力学的側面について, 第3回北海道エロゾル研究会, (63. 11. 19).
- 木野稔也：大島駿作：好酸球性肺炎の気道反応—気道過敏性 進における好酸球の役割について, 第1回気道病態シンポジウム, (平成1. 1. 14).
- 木野稔也：気管支喘息における昆虫アレルギー, 第3回近畿呼吸器談話会, (平成1. 2. 25).
- 北市正則：びまん性肺疾患の最近の知見, 特に BOOP とその周辺疾患をめぐって, 第130回熊本チェストカンファレンス特別講演 (63. 6. 29).
- 北市正則：開胸肺生検で何がわかったか—特に UIP と DAD について—, 長崎大学医学部第二内科カンファレンス (63. 9. 29).
- 北市正則：BOOP について, 京都大学医学部第二内科カンファレンス (1. 3. 28).
- Nagai. S: Differential diagnosis of interstitial pneumonia by BALF cell findings and Topics about DPB, Special Lecture in Yoonsai University. (Seoul. 7. 15. 1988).
- 長井苑子：びまん性間質性肺疾患の診断, 舞鶴医師会講演会 (S 63. 11. 17).
- Nagai. S: The value of BALF cell findings for differentiation of idiopathic UIP, BOOP and interstitial pneumonia associated with collagen vascular disease. Special seminar in Royal Free Hospital (London, 12, 7, 1988).
- 長井苑子：びまん性間質性肺疾患の診断と BALF 細胞所見, 協和発酵研究会 (三島) (平成1. 3. 7).
- 長井苑子, 西村浩一, 北市正則, 泉 孝英：肺疾患をよむⅧ, 眼症状を伴い, 多発性浸潤影を呈した29才, 男性例, *内科* 62:526-529, 1988.
- 松本幾久雄：「画像診断」, 滋賀県湖北医連研究会 (毎月1回連続講座).
- 中山昌彦：臨床医学概論 呼吸器学, 第1回臨床工学技師指定講習会 (88. 7. 17).
- 中山昌彦：「医界寸言」結核医療について, *京都医報* (1243): 13, 1988.
- 中山昌彦：肺炎の臨床…主としてマイコプラズマ肺炎に関して, 京都臨床衛生検査技師会講演会 (88. 10. 21).
- 中山昌彦：たばこ呼吸器疾患, 特に肺癌について, 京都府対癌協会講演会京都府立鳥羽高校 (89. 2. 18).
- 中山昌彦：「医界寸言」医師数と病床数, *京都医報* (1257): 3. 1989.

〔内科第二部門主催講演会〕

S 63. 5. 26.

R. G. Crystal (米国 NIH 肺疾患部門主任): Current Concept of interstitial lung disorders.

S 63. 9. 1.

V. Ropez-Majano (米国, シカゴ, クックカウンティホスピタル): The use of gallium 67 scintigraphy in pulmonary diseases.

S 63. 11. 25.

U. Constabel (西ドイツ, エッセン, ルールランドクリニック): Immune mechanisms in hypersensitivity pneumonias.

S 63. 11. 25.

G. Samenzato (イタリア, バドア大学臨床免疫): Pathogenesis of sarcoidosis.

老 化 生 物 学 分 野

〔学 会 発 表〕

竹田俊男: 老化促進モデル動物—学習・記憶障害を主徴とする SAM-P/8 系の諸特性, 「神経精神薬理」誌10周年記念シンポジウム, 抗痴呆薬開発のストラテジー I. 痴呆の動物モデル (昭63. 1).

花田敬吾, 細川友秀, 細野正道, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) の *in vitro* 免疫応答能に関する研究. 第105回日本獣医学会 (昭63. 4).

花田敬吾, 細川友秀, 細野正道, 梅沢真樹子, 小岸久美子, 馬場満男, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 X X X III. SAM の免疫応答能について(2), 第77回日本病理学会 (昭63. 5).

花田敬吾, 細川友秀, 細野正道, 小岸久美子, 陳 文熙, 馬場満男, 細野正道, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 X X X IV. SAM-P/1 における *in vitro* 免疫応答能の遺伝学的解析, 第77回日本病理学会 (昭63. 4).

梅沢真樹子, 花田敬吾, 細川昌則, 黒住真史, 細野正道, 細川友秀, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 X X X V. 食餌制限による促進老化抑制機序—(2), 第77回日本病理学会 (昭63. 5).

細川昌則, 西谷 授, 内木宏延, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 X X X VI. 促進老化における染色体異常 (chromosome aberration) 発現の増加に関して, 第77回日本病理学会 (昭63. 5).

田中静吾, 八木秀雄, 川又敏男, 秋口一郎, 中村重信, 細川昌則, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 X X X VII. 学習障害モデルにおける脳内モノアミン分布, 第77回日本病理学会 (昭63. 5).

宇谷厚志, 田中俊宏, 錦織千佳子, 宮地良樹, 今村貞夫, 細川昌則, 竹田俊男, 平芳一法, 永田和宏: Ehlers-Danlos 症候群 4 型の 1 例, 第77回日本病理学会 (昭63. 5).

川又敏男, 中村慎一, 木村 透, 秋口一郎, 竹田俊男, 杉山 博, 亀山正邦: 延髄後索核の加齢変化—正常及び老化促進モデルマウスでの組織化学的定量的検討—. 第29回日本神経病理学総会 (昭63. 5).

細川昌則: 老化促進モデルマウス (SAM), 招待講演・山形大学医学部附属動物実験施設主催実験動物学セミナー (昭和63. 5).

樋口京一: 老化促進モデルマウス (SAM) の開発とその意義. 招待講演・東京大学医学部老年科公開セミナー (昭和63. 5).

八木秀雄, 秋口一郎, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス SAM-P/8 における学習・記憶障害と脳幹の海綿状変性. 第29回日本神経学会総会 (昭63. 6).

川又敏男, 中村慎一, 田中静吾, 八木秀雄, 杉山 博, 秋口一郎, 亀山正邦, 竹田俊男, 三好功峰: 脳内 NADPH-diaphorase 陽性神経細胞の加齢変化と受動的回避反応学習との関連—老化促進モデルマウス (SAM)

を用いた検討一. 第29回日本神経学会総会 (昭63. 6).

杉山 博, 秋山治彦, 川又敏男, 秋口一郎, 亀山正邦, 竹田俊男, 入野美香: 老化促進モデルマウス (SAM) に多発する PAS 陽性顆粒状特異構造の超微形態. 第29回日本神経学会総会 (昭63. 6).

梅沢真樹子, 花田敬吾, 細野正道, 細川友秀, 竹田俊男: 免疫能からみた老化促進モデルマウス (SAM) の食餌制限による老化制御. ワークショップ: 第16回日本臨床免疫学会総会 (昭和63. 6).

陳 文熙, 飯塚忠彦, 細川昌則, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス SAM-P/3 の自然発症変形性顎関節症について一多変量解析による下顎骨形解析一. 第33回日本口腔外科学会 (昭和63. 6).

坪山直生, 奥村秀雄, 山室隆夫, 松下 睦, 竹田俊男: マウス骨量に関する遺伝学的解析: 骨粗鬆症系 SAM-P/6 を用いて. 第6回日本骨代謝学会 (昭63. 7).

陳 文熙: 関節疾患モデルにおける顎関節の病態について, 老化促進モデルマウス (SAM) の顎関節病変一自然発症変形性顎関節症モデル動物 SAM-P/3 の開発. 第1回日本顎関節学会シンポジウム (昭63. 7).

竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) の開発, 第12回阿蘇シンポジウム. 細胞分化と疾患 (昭63. 8).

細川昌則, 松下隆寿, 芦田 靖, 坪山直生, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に自然発症する老年性白内障について (Ⅲ)-SAM-R/3 に見られる老年性白内障の組織学的検討. 日本基礎老化学会第12回大会 (昭63. 9).

花田敬吾, 細野正道, 細川友秀, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス, SAM-P/1 のT依存性抗原に対する低応答能: ヘルパーT細胞の機能低下について. 日本基礎化学会第12回大会 (昭和63. 9).

内木宏延, 樋口京一, 細川昌則, 竹田俊男: チオフラビンTを用いた, アミロイド線維 in Vitro 定量法の開発. 日本基礎老化学会第12回大会 (昭63. 9).

樋口京一, 米津智徳, 内木宏延, 宇谷厚志, 細川昌則, 竹田俊男: マウス老化アミロイドーシス: マウスにおける ASSAM の沈着と apoA-II の polymorphism. 日本基礎老化学会第12回大会 (昭63. 9).

米津智徳, 戸田雅昭, 山岸秀夫, 樋口京一, 細川昌則, 竹田俊男: マウス老化アミロイド遺伝子の構造解析. 日本基礎老化学会第12回大会 (昭63. 9).

川又敏男, 上野正樹, 田中静吾, 中村慎一, 秋口一郎, 樋口京一, 細川昌則, 竹田俊男, 杉山 博: 老化促進モデルマウス (SAM) における延髄後索核の加齢変化. 日本基礎老化学会第12回大会 (昭63. 9).

田中静吾, 八木秀雄, 川又敏男, 秋口一郎, 中村重信, 細川昌則, 竹田俊男, 亀山正邦: 老化促進モデルマウス (SAM)P/8 系における脳内モノアミン分布の加齢変化一学習・記憶障害との関連一. 日本基礎老化学会第12回大会 (昭63. 9).

坪山直生, 高橋健志郎, 奥村秀雄, 陳 文熙, 花田敬吾, 竹田俊男: SAM-P/6 にみる骨粗鬆症の遺伝学的解析 (Ⅱ)一高骨量系 (SAM-P/2) との二代雑種及び房し交配世代の骨量分布. 日本基礎老化学会第12回大会 (昭63. 9).

坪山直生, 高橋健志郎, 奥村秀雄, 山室隆夫, 松下 睦, 梅沢真樹子, 竹田俊男: SAM-P/6 における成長期大腿骨皮質モデリングの特徴. 日本基礎老化学会第12回大会 (昭和63. 9).

陳 文熙, 飯塚忠彦, 細川昌則, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス SAM-P/3 の自然発症変形性顎関節症について一多変量下顎骨形状解析結果より見た発症機序の考案一. 日本基礎老化学会第12回大会 (昭63. 9).

坪山直生, 奥村秀雄, 山室隆夫, 松下 睦, 宇谷厚志, 竹田俊男: SAM-P/6 系にみる自然発症骨粗鬆症機序の解析一成長期大腿骨幹部皮質モデリングの系統差とそのピーク骨量に対する影響. 第3回日本整形外科学会基礎学術集会 (昭63. 9).

Yoshioka, M., Ohshio, G., Hamashima, Y., Higuchi, K., Takeda, T., Inada, M., Miyake, T. and Kita, T.: Immunohistochemical and ultrastructural examination of Peyer's patches in Senescence Accelerated Mouse (SAM). X III International Congress of Gastroenterology, 1988 (Roma, Italy, Sept. 5-10)

花田敬吾, 細川友秀, 細野正道, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) の in Vitro 免疫応答能に関する研究. 第18回日本免疫学会 (昭63. 12).

竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) の開発一その経緯と老化病態の諸特性一. 美原賞受賞記念講演: 第5回日本疾患モデル動物研究会総会 (昭63. 12).

〔誌 上 発 表〕

Higuchi, K., Law, S. W., Hoeg, J. M., Schumacher, U. K., Meglin, N. and Brewer, H. B., Jr.: Tissue-specific expression of apolipoprotein A-I (apoA-I) is regulated by the 5'-flanking region of the human apoA-I gene, *J. Biol. Chem.* 263: 18530-18536 (1988).

Higuchi, K., Hospattankar, A. V., Law, S. W., Meglin, N., Cortright, J. and Brewer, H. B., Jr.: Human apolipoprotein B (apoB) mRNA: Identification of two distinct apoB mRNAs, an mRNA with the apoB-100 sequence and an apoB mRNA containing a premature in-frame translational stop codon, in both liver and intestine, *Proc. Natl. Acad. Sci. USA.* 85:1772-1776 (1988).

Ross, R. S., Gregg, R. E., Law, S. W., Monge, J. C., Grant, S. M., Higuchi, K., Triche, T. J., Jefferson, J. and Brewer, H. B., Jr.: Homozygous hypobetalipoproteinemia: a disease distinct from abetalipoproteinemia at molecular level, *J. Clin. Invest.* 81: 590-595 (1988).

内木宏延: マウス老化アミロイドーシス, *臨床科学*23:221-226 (昭和63年).

Naiki, H., Higuchi, K., Yonezu, T., Hosokawa, M. and Takeda, T.: Metabolism of senile amyloid precursor and amyloidogenesis: Age related acceleration of apolipoprotein A-II clearance in Senescence Accelerated Mouse, *Am. J. Pathol.* 130 (3): 579-587 (1988).

Hosokawa, M., Ashida, Y., Tsuboyama, T., Chen, Wen-Hsi and Takeda, T.: Cataract in Senescence Accelerated Mouse (SAM) (II). Development of a new strain of mouse with late-appearing cataract, *Exp. Eye Res.* 47: 629-640 (1988).

Yagi, H., Katoh, S., Akiguchi, I and Takeda, T.: Age-related deterioration of ability of acquisition in memory and learning in Senescence Accelerated Mouse: SAM-P/8 as an animal model of disturbances in recent memory, *Brain Res.* 474: 86-93 (1988).

〔著 書〕

Naiki, H., Higuchi, K., Yonezu, T., Hosokawa, M. and Takeda, T.: Serum clearance rate of senile amyloid related apolipoprotein A-II is accelerated with increasing age in Senescence Accelerated Mouse (SAM). In Isobe, T. et al. (eds) *Amyloid and Amyloidosis*. Plenum Press, New York, pp. 679-683 (1988).

Takeda, T., Higuchi, K. and Hosokawa, M.: AS_{SAM} amyloidosis is present in aging mice of many strains, not only in SAM. In Isobe, T. et al. (eds) *Amyloid and Amyloidosis*. Plenum Press, New York, pp. 685-690 (1988).

Shimizu, K., Higuchi, K., Matsushita, M., Yamamuro, T. and Takeda, T.: Immunohistochemical studies of age-related amyloid deposition in the joint of senescence-accelerated mouse (SAM). In Isobe, T. et al. (eds) *Amyloid and Amyloidosis*. Plenum Press, New York, pp. 691-694 (1988).

Hosokawa, M. and Takeda, T.: Development of Senescence Accelerated Mouse (SAM) and the contribution of this model to studies on aging, In Takeda, T., Matsuo, T., Akiguchi, I and Hosokawa, M. (eds) *Proceedings of the first SAM Kyoto Symposium*. The council for SAM research, Fuji Printing Business Company, Kyoto, pp. 1-10 (1988).

Mitsuoka, A. and Hanada, K.: In vivo immune reactivities in Senescence Accelerated Mice (SAM), In Takeda, T., Matsuo, T., Akiguchi, I. and Hosokawa, M. (eds) *Proceedings of the first SAM Kyoto Symposium*. The council for SAM research, Fuji Printing Business Company, Kyoto, pp. 11-20 (1988).

Hosono, M., Hosokawa, T. and Hanada, K.: In vitro immune activities of short-lived SAM mice: Early loss of helper T cell function in primary responses, In Takeda, T., Matsuo, T., Akiguchi, I. and Hosokawa, M. (eds) *Proceedings of the first SAM Kyoto Symposium*. The council for SAM research, Fuji Printing Business Company, Kyoto, pp. 21-30 (1988).

Shimizu, K.: Age-associated amyloid deposition in the articular structures of Senescence Accelerated Mouse (SAM), In Takeda, T., Matsuo, T., Akiguchi, I. and Hosokawa, M.(eds) Proceedings of the first SAM Kyoto Symposium. The council for SAM research, Fuji Printing Business Company, Kyoto, pp. 31-37 (1988).

Matsushita, M., Tsuboyama, T. and Okumura, H.: Age-related changes of bone in the Senescence Accelerated Mouse, In Takeda, T., Matsuo, T., Akiguchi, I. and Hosokawa, M. (eds) Proceedings of the first SAM Kyoto Symposium. The council for SAM research, Fuji Printing Business Company, Kyoto, pp. 38-47 (1988).

Akiguchi, I., Akiyama, H., Sugiyama, H., Kawamata, T., Kimura, T., Yagi, H., Tanaka, S., Irino, M. and Takeda, T.: Morphological changes of the Brain of Senescence Accelerated Mouse (SAM-P/8), In Takeda, T., Matsuo, T., Akiguchi, I. and Hosokawa, M.(eds) Proceedings of the first SAM Kyoto Symposium. The council for SAM research, Fuji Printing Business Company, Kyoto, pp. 67-76 (1988).

Yonezu, T.: Features of senile amyloidosis in Senescence Accelerated Mouse (SAM), In Takeda, T., Matsuo, T., Akiguchi, I. and Hosokawa, M. (eds) Proceedings of the first SAM Kyoto Symposium. The council for SAM research, Fuji Printing Business Company, Kyoto, pp. 87-98 (1988).

Toda, M., Yonezu, T., Kunisada, T., Higuchi, K., Aota, S., Takeda, T. and Yamagishi, H.: Molecular cloning and characterization of cDNA for murine senile protein, In Takeda, T., Matsuo, T. Akiguchi, I. and Hosokawa, M. (eds) Proceedings of the first SAM Kyoto Symposium. The council for SAM research, Fuji Printing Business company, Kyoto, pp. 99-103 (1988).

竹田俊男：老化促進モデルマウス動物—学習・記憶障害を主徴とする SAM-P/8 系の諸特性，抗痴呆薬開発のストラテジー：35-43（昭和63年）編集・神経精神薬理編集委員会，星和書店

秋口一郎，竹田俊男：病態モデル動物 (SAM) の学習・記憶障害，老人性痴呆症と脳機能改善薬：188-193(昭和63年) 編集・朝長正徳，斉藤 洋，シーエムシー東京。

Seminar

to

Welcome Professor George M. Martin

on

Senescence Accelerated Mouse (SAM)

2:00 P. M., Mar. 15, 1988

The Conference Room of Chest Disease Research
Institute, Kyoto University, Kyoto, Japan

Opening Remarks

1. Study of the Pathogenesis of late-Appearing Cataract in SAM-R/3
2. Acceleration of Chromosome Aberration in Senescence Process in SAM.
3. Immunological Function in SAM and Aging.

Toshio Takeda, M. D.

Masanori Hosokawa, M. D.

Yasushi Ashida, M. VM.

Takatoshi Matsushita, M. T.:

Sazuku Nisitani, M. S.:

Masamichi Hosono, Ph. D.

Tomohide Hosokawa, Ph, D.

Makiko Umezawa, M. DS.

Keigo Hanada, M. VM.

Mitsuo Baba, M. D.:

4. Modification of Strain-Specific Femoral Bone Density by Bone Marrow Chimerism in Mice: A Study on Spontaneously Osteoporotic Mouse (SAM-P/6). Tadao Tsuboyama, M. D.:
5. Age-Related Changes in the Temporomandibular Joint of SAM: SAM-P/3 as a New Murine Model for Degenerative Arthritis. Wen-Hsi Chen, D. D.
Atsushi Utani, M. D.:
6. Genetic Studies of SAM-P/1 X R/1 Hybrids-Genetic Background of Accelerated Senescence and Murine Senile Amyloidosis. Hironobu Naiki, M. D.:
7. Analysis of Murine Senile Amyloid Gene Structure. Keiichi Higuchi, Ph. D.
Tomonori Yonezu, B. Agr.:
8. Memory Deficit and Spongiform Degeneration of the Brain Stem in SAM-P/8. Hideo Yagi, M. D.
Akira Ohta, R. F.
Seika Kato, M. D.:
9. Morphological and Biochemical Changes in the Central Nervous System of SAM-P/8. Toshio Kawamata, M. D.
Seigo Tanaka, M. D.
Ichiro Akiguchi, M. D.:
10. Spontaneous Spongiform Degeneration of the Brain Stem in SAM-P/8 Mice: An Ultrastructural Study. Mika Irino, Ph. D.
Mafumi Kurozumi, M. T.:
- Special Comments George M. Martin, M. D.:

Special Lecture

Dr. GEORGE M. MARTIN

Professor of Dept, of Pathology,
University of Washington,
Seattle, U. S. A.

“Current Status of Research on Familial Dementia(s) of the Alzheimer Type,”

Seminar

to

Welcome Professor Caleb E. Finch

on

Senescence accelerated Mouse (SAM)

At 9:30 A. M., July 19, 1988
The Conference Room of
Chest Disease Research Institute
Kyoto University, Kyoto, Japan

Opening Remarks

General Aspects of Senescence Accelerated Mouse (SAM).

Toshio Takeda, M. D.:

9:35 A. M.-10:05 A. M.

1. Introduction to Senescence Accelerated Mouse (SAM).

Masanori Hosokawa, M. D.

Mafumi Kurozumi, M. T.,

Yasushi Ashida, M. VM.

2. Immunological Function in SAM and Aging.

Takatoshi Matsushita, M. T.,
Kaori Matsushima, M. Ps.
Sazuku Nisitani, M. S.:
Keigo Hanada, M. VM.
Masamichi Hosono, Ph. D.
Mitsuo Baba, M. D.

3. Age-related Changes in Femoral Bone Mass in the Several Strains of SAM.

Tadao Tsuboyama, M. D.
Mutsumi Matsushita, M. D.
Kenshirou Takahashi, M. D.
Chen Wen-Hsi, D. DM.
Katsuji Shimizu, M. D.
Hideo Okumura, M. D.
Takao Yamamuro, M. D.:

4. Molecular Biological Aspects of Murine Senile Amyloidosis.

Keiichi Higuchi, Ph. D.
Tomonori Yonezu, B. Agr.
Hideo Yamagishi, Ph. D.:

5. Fluorometric Determination of Amyloid Fibrils in Vitro.

Hironobu Naiki, M. D.
Kumiko Kogishi, M. T.:

6. The Effects of Dietary Restriction of the Advancement of Senescence in SAM.

Makiko Umezawa, M. Ds.
Tomohide Hosokawa, Ph. D.
Sachiko Hayai, M. Ms.:

Neurological and Behavioral Aspects of Senescence Accelerated Mouse (SAM).

10:05 A. M.—10:45 A. M.

7. Age-related Deterioration of Ability of Acquisition in Memory and Learning in Senescence Accelerated Mouse: SAM-P/8 as an Animal Model of Disturbances in Recent Memory.

Hideo Yagi, M. D.
Atsuyoshi Shimada, M. D.:

8. Behavioral Characteristics of SAM-P/8 Strain in SIDMAN Type Active Avoidance.

Akira Ohta, R. F.
Toshitsugu Hirano, Ph. D.:

9. Morphological Changes in the Brain of SAM-P/8.

Toshio Kawamata, M. D.
Mika Irino, Ph. D.
Hiroshi Sugiyama, M. D.
Masaki Ueno, M. D.
Shin-ichi Nakamura, M. D.
Ichiro Akiguchi, M. D.:

10. Age-related Changes of Brain Monoamine Concentrations in SAM-P/8. —The Role of Monoamine Systems in Learning and Memory Process—

Seigo Tanaka, M. D.
Shigenobu Nakamura, M. D.:
Caleb E. Finch Ph. D.:

Special Comments

Special Lecture

At 11:00 A. M.

The Conference Room of

Chest Disease Research Institute
Kyoto University

“Alterations of Brain mRNA during Parkinson's and Alzheimer's Disease.”

Caleb E. Finch, Ph. D.

ARCO/William F. Kieschnick Professor
in the Neurobiology of Aging,
Ethel Percy Andrus Gerontology Center,
University of Southern California

感染症・炎症分野（第一内科）

〔学会発表〕

1. 結核・非定型抗酸菌症

Motokazu Kato & Fumiyuki Kuze. The dynamics of total lung lavage cell surface antigen expression of the experimental *Mycobacterium avium-intracellulare* infection mouse model. 84 th Annual Meeting of American Thoracic Society, (Las Vegas, 1988.5.9.)

倉澤卓也, 黒田直明, 坂東憲司: 結核性気管支病変の内視鏡所見. 第11回日本気管支学会総会 (1988. 5. 31. 札幌).

藤野昇三, 井上修平, 中江一郎, 池田宣昭: 気管支ファイバースコープ (BF) 検査時の好酸菌の検出に関する検討 (同上).

嶋崎洋一, 富岡洋海, 加藤元一, 鈴木克洋, 田中栄作, 村山尚子, 網谷良一, 山本孝吉, 倉澤卓也, 川合 満, 久世文幸: 粟粒結核症 7 例の臨床的考察. 第63回日本結核病学会総会 (1988. 6. 3. 札幌).

藤野昇三, 井上修平, 池田宣昭: 最近の肺結核新入院患者についての検討. 第63回日本結核病学会総会 (1988. 6. 2. 札幌).

池田宣昭, シンポジウム: III 治療の困難な肺結核の対策. 特別発言, 難治肺結核に対するオフロキサシンの臨床効果 (近畿地区国療胸部疾患研究会), (同上).

久保嘉朗, 弓場吉哲, 富井啓介, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦: 縦隔腫瘍, 多発性骨病変を呈した *M. intracellulare* 及び *M. Kansasii* による全身播種性非定型抗酸菌症の 1 例. 第63回日本結核病学会総会 (1988. 6. 3. 札幌).

加藤元一, 久世文幸: 実験的マウス抗酸菌を対象とした肺洗浄細胞の動態: モノクローナル抗体による解析. 第63回日本結核病学会総会 (1988. 6. 2).

加藤元一, 鈴木克洋, 田中栄作, 村山尚子: ピリドンカルボン酸系薬剤11種の抗酸菌に対する試験管内制菌力. 第63回日本結核病学会総会 (1988. 6. 3).

富井啓介, 弓場吉哲, 久保嘉朗, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦: 非定型抗酸菌症を初発症状とした Williams Campbell 症候群の 1 例. 第61回日本結核病学会, 第31回日本胸部疾患学会, 近畿地方会 (1988. 6. 25. 大阪).

加藤元一, 網谷良一, 久世文幸, 池 修, 田村康一: 気管支拡張症に非定型抗酸菌症を合併し中葉切除により排菌陰性化に至った 1 例 (同上).

池田宣昭, 西村一郎, 藤野昇三, 馬場信雄, 丸岡康洋, 井上修平, 蔡 元奎: 消化器症状を主訴とした重症結核の 2 例 (同上).

三宅淳史, 千葉 秀, 有田真知子, 佐藤敦夫, 松井保憲, 加藤元一, 鈴木克洋, 田中栄作, 村山尚子, 網谷良一, 倉澤卓也, 川合 満, 久世文幸: 肺結核症を続発した気管支拡張症の一例. 第62回日本結核病学会, 第32回

日本胸部疾患学会近畿地方会. (1988. 11. 26. 奈良)

岡崎美樹, 富岡洋海, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 岡田行功, 庄村東洋, 白根博文: 縦隔リンパ節結核を合併した1例 (同上).

西村尚志, 縄田隆平, 川島敦子, 熊谷直和, 山田勝彦, 黒田直明, 坂東憲司: 頭蓋内結核腫, 脊椎カリエス, 足根骨髄炎を合併した粟粒結核の一例 (同上).

2. 腫瘍

富岡洋海, 村山尚子, 倉澤卓也, 久世文幸, 千原幸司, 和田洋巳, 人見滋樹, 内木宏延, 加藤星河, 北市正則, 野間恵之: MRIにて治療効果を判定しえた縦隔原発と思われる胚細胞腫の1例. 第48回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 2. 27. 奈良).

長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 肺小細胞癌手術例の検討 (同上).

橋平 誠, 長谷川誠紀, 宮本好博, 牛田伸一, 桂 栄孝: 気管, 気管支カルチノイド腫瘍の2症例 (同上).

中原保治, 池上裕美子, 石田 直, 中原由紀子, 牛田伸一, 松山榮一, 宮本好博, 桂 栄孝: レントゲン上無所見の末梢肺扁平上皮癌の2切除例 (同上).

富井啓介, 野元三治, 弓場吉哲, 久保嘉朗, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦: 皮膚筋炎発症を契機に見いだされたX線像上潜在型肺癌の1剖検例 (同上).

片上信之, 岡崎美樹, 長谷川幹, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 切除不能扁平上皮癌に対するBAIおよび放射線併用療法 (同上).

岡崎美樹, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 内田博也: 悪性胸膜中皮腫5例の検討 (同上).

熊谷直和, 高岡秀幸, 山田勝彦, 鈴木 聡, 坂東憲司, 桑原 隆, 松尾孝彦, 赤垣英子, 高橋隆幸, 泉 春暁: 過去1年間で当院において経験した悪性腫瘍に伴う高Ca血症8例の臨床経過, 第125回日本内科学会近畿地方会 (1988. 6. 11. 大阪).

井上修平, 藤野昇三, 中江一郎, 山鳥英世, 池田宣昭: 肺線維症に合併した肺癌の2症例. 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6. 25. 津).

南方良章, 新実彰男, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫: 肺胞内出血により急速に死に至ったWegener肉芽腫症の2例. 第61回日本結核病学会, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 6. 25. 大阪).

片上信之, 岡崎美樹, 長谷川幹, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 肺腺癌に合併したIgA benign monoclonal gammopathyと思われる1例 (同上).

岩崎博信, 笹井芳樹, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 梅田文一, 中井 準, 白根博文, 内田博也: 空洞を形成し自然気胸を発症したマクログロブリン血症をとまう非ホジキン肺悪性リンパ腫の1例 (同上).

松井保憲, 湖崎 淳, 弓場吉哲, 久保嘉朗, 富井啓介, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 胸部異常影を伴わない呼吸困難を主症状としたneoplastic angioendotheliosis (NA)の1例 (同上).

河村哲治, 富岡洋海, 加藤元一, 鈴木克洋, 田中栄作, 村山尚子, 網谷良一, 嶋崎洋一, 山本孝吉, 倉澤卓也, 川合 満, 久世文幸, 植田充宏, 千原幸司, 北市正則: 重症筋無力症を伴った胸腺カルチノイドの一例. 第49回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 7. 30. 大阪).

倉澤卓也, 富岡洋海, 加藤元一, 鈴木克洋, 田中栄作, 村山尚子, 網谷良一, 川合 満, 久世文幸: 癌化学療法に伴う白血球減少時の感染予防 (同上).

長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 肺癌化学療法中の喀痰および尿中細菌叢の推移について (同上).

岡崎美樹, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 倉澤卓也, 久世文幸: 肺小細胞癌未治療例に対するCAV-CVp交代療法の成績 (多施設共同プロトコル) (同上).

鈴木雄二郎, 南方良章, 新実彰男, 堀川禎夫, 西山秀樹, 前川暢夫: 寛解導入後の肺小細胞癌に対するエトポシド少量内服維持療法の経験 (同上).

片上信之, 坂本廣子, 長谷川幹, 岡崎美樹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 倉澤卓也, 久世文幸: 切除不能非小細胞癌に対する MVC 療法 (MMC, VDS, CDDP) の phase II study (第2報) (同上).

堀川禎夫, 南方良章, 新実彰男, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫: 肺癌における BAI の有用性の検討 (同上).
岩崎博信, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 梅田文一, 中井 準: IV期非小細胞癌の予後因子 (同上).

藤野昇三, 井上修平, 中江一郎, 山鳥英世, 池田宣昭: 肺癌患者におけるシアリル SSEA-1 抗原 (SLX) 測定の臨床的意義 (同上).

西山秀樹: シンポジウム“和歌山県のがんを考える—治療の面から—”『化学療法…肺がん』 第56回和歌山医学会総会 (1988. 8. 7. 和歌山).

N. Katakami, H. Sakamoto, H. Nakai, F. Kuze, T. Kurasawa, H. Nishiyama, K. Bando, M. Hase, S. Ushida, E. Yamada and K. Yamamoto: Phase II trial of mitomycin (M), vindesine (V), and cisplatin (C) in inoperable non-small cell lung cancer (NSCLC). A Kansai Lung Cancer Group Study. Fifth World Conference on Lung Cancer. (1988. 8. 30: Interlaken, Switzerland.)

片上信之, 坂本廣子, 長谷川幹, 岡崎美樹, 富岡洋海, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 倉澤卓也, 久世文幸, 他5施設: MVC 療法 (mitomycin C, vindesine, cisplatin) による切除不能非小細胞肺癌の治療成績: 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10. 27. 福岡)

坂本廣子, 富岡洋海, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 西内 素, 庄村東洋: 本院における転移性肺腫瘍手術例の検討 (同上).

長谷川幹, 富岡洋海, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 肺癌患者の全身的化学療法における喀痰および尿中細菌叢の移行について (1988. 10. 28. 福岡)

岩崎博信, 富岡洋海, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 梅田文一, 中井 準: III期非小細胞肺癌の治療成績 (同上).

岡崎美樹, 富岡洋海, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 倉澤卓也, 久世文幸: 肺小細胞癌に対する CAV-CVp 交代療法と胸部照射併用療法 (多施設共通プロトコル) の成績 (同上).

片上信之, 長谷川幹, 岡崎美樹, 富岡洋海, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: BAI 及び放射線併用療法による切除不能肺扁平上皮癌の治療成績 (化学療法との比較) (同上).

藤野昇三, 井上修平, 中江一郎, 池田宣昭: 肺癌患者血清腫瘍マーカーの検討 (SLX を中心として), (63. 10. 27. 福岡).

南部静洋, 三野真理, 弓場吉哲, 久保嘉朗, 富井啓介, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 市島国雄, 小橋陽一郎: 剖検例における臨床病理学的検討—肺癌を中心に (同上).

中原保治, 中原由紀子, 西園寺正士, 木下春希, 桂 栄孝: Alveolar soft part sarcoma の1例, 日本臨床細胞学会秋期大会 (1988. 11. 18. 広島).

富岡洋海, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 那須通寛, 庄村東洋, 穂積建之: 縦隔腫瘍との鑑別を要した壁外型食道平滑筋種の1例, 第62回日本結核病学会, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会, (1988. 11. 26. 奈良)

鈴木雄二郎, 南方良章, 新実彰男, 堀川禎夫, 西山秀樹, 前川暢夫, 楊 忠和, 里村紀作: 肺硬化性血管腫の1切除例 (同上).

縄田隆平, 川島敦子, 西村尚志, 熊谷直和, 黒田直明, 坂東憲司, 桑原 隆: 著明な舌苔, 口腔内潰瘍を認めた Wegener 肉芽腫症の一例. 第127回日本内科学会近畿地方会 (1988. 12. 3. 大阪).

3. 感染症・炎症

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 市島国雄,

小橋陽一郎, 相原雅典: Legionella 肺炎症例における気管支鏡所見の検討, 第62回日本感染症学会総会 (1988. 4. 22. 名古屋).

郡 義明, 弓場吉哲, 富井啓介, 久保嘉朗, 南部静洋, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 相原雅典: ステロイド大量投与中に発症したレジオネラ肺炎の1例 (同上).

望月吉郎, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 南部静洋, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 市島国雄, 小橋陽一郎: 剖検例における肺真菌症の検討, 日本感染症学会 (1988. 4. 26. 名古屋).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 相原雅典: Legionella 肺炎症例における気管支鏡所見の検討. 第28回日本胸部疾患学会総会 (1988. 4. 27. 仙台).

R. Wilson, A. Hastie, N. Munro, A. Rutman, R. Amitani, T. Shryock, D. Watson, G. Taylor P.J. Cole. Host Defence Unit, Cardiothoracic Institute: Effect of Rhamnolipid from Pseudomonas aeruginosa on human ciliated epithelium in vitro and on in vivo mucociliary transport in animal model. 84th Annual Meeting of American Thoracic Society, (1988. 5. 12, Las Vegas, U.S.A.)

Suzuki K., Murayama, T. Yamamoto. K., Kuze F: Effect of pretreatment with lipopolysaccharide on leukotrienes, prostaglandins, and O_2 -secretion from human alveolar macrophages (同上).

中原保治, 中原由紀子, 牛田伸一, 松山榮一, 桂 栄孝, 西園寺正士: 肺クリプトコッカス症とその脂肪染色, 第29回日本臨床細胞学会総会 (1988. 5. 19. 東京).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲: 急性肺炎時における気管支鏡の重要性について—気管支粘膜所見を中心に—. 第11回日本気管支学会総会 (1988. 6. 1. 札幌).

中西通泰, 作野 忠, 小石堯夫, 柴田安宅, 瀬戸 治, 岸 明彦, 巖 淳浩: 重症難治の呼吸器感染症, 第24回京都病院学会 (1988. 6. 12. 京都).

山田勝彦, 西村尚志, 縄田隆平, 黒田直明, 坂東憲司, 多田公英: セキセイインコ飼育者に発症したオウム病の2例, 第61回日本結核病学会, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 6. 25. 大阪).

桜井稔泰, 石原享介, 安保博文, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 急速に増大し巨大塊状影を呈したクリプトコッカス症の1例 (同上).

鈴木克洋, 村山尚子, 久世文幸: ヒト肺胞マクロファージのロイコトリエン B₄, プロスタグランジン E₂, O₂ 産生能に及ぼす大腸菌由来内毒素の影響 第9回日本炎症学会 (1988. 7. 22. 東京).

田中栄作: 「緑膿菌によるマウス慢性気道感染モデル」 (同上).

河村哲治, 中原保治, 中原由紀子, 嶋崎洋一, 池上裕美子, 河南里江子, 望月吉郎, 松山榮一, 田村忠雄, 桂 栄孝: 経皮的肺針生検で診断した肺クリプトコッカス症の3例. 感染症学会近畿地方会 (1988. 9. 10. 京都)

宮田 学, 北川貴之, 白石三穂, 我妻節子, 武田隆久, 沢見春康, 沢田満, 将木貞枝, 加藤仁司, 中西通泰, 武田隆男: 院内職員に沈降B型肝炎ワクチン注射施行後の成績について (第1報). 第30回全日本病院学会 (1988. 10. 9-10. 大阪)

田口善夫: 慢性気道感染症—治療. 第31回日本感染症学会中日本地方会 サテライトシンポジウム (1988. 11. 4. 京都).

古川元康, 坂東憲司: ミコナゾール 400 mg に反応せず 2000 mg にて著効を示した, 右腎癌免疫・化学療法後に併発した肺真菌症の一例, 第31回日本感染症学会中日本地方会総会 (1988. 11. 5. 京都).

縄田隆平, 西村尚志, 川島敦子, 熊谷直和, 黒田直明, 坂東憲司, 山田勝彦: レジオネラ肺炎の一例 (同上).

西坂泰夫, 小田芳郎, 稲葉宣雄, 市谷迪雄: 腸—気管支瘻と考えられた2症例 (同上).

堀川禎夫, 南方良章, 新実彰男, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫: 経気管支肺生検で有意な所見を得たパラインフルエンザ肺炎の1例 (同上).

新実彰男, 近藤誉之, 田中省三, 南方良章, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫, 松井 真, 竹村学, 楊 忠和, 里村紀作: 基礎疾患なく発症し, 髄膜炎を併発した肺クリプトコッカス症の一切除例 (同上).

久保嘉朗, 三野真理, 弓場吉哲, 富井啓介, 南部静洋, 田口善夫, 群 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 相原雅典: イミベネムの長期大量投与にて救命し得た黄色ぶどう球菌性敗血症 (心内膜炎, 肺炎, 膿胸, 化膿性膝関節炎) の一例 (同上).

河村哲治, 中原保治, 中原由紀子, 嶋崎洋一, 池上裕美子, 河南里江子, 望月吉郎, 松山栄一, 田村忠雄, 桂栄孝: 経皮的肺針生検によって診断確定した肺クリプトコッカス症の3例(同上).

南部静洋, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 三野真里, 松村栄久, 市島国雄, 小橋陽一郎: 肺癌剖検におけるカンジダ症の臨床病理学的検討(同上).

富岡洋海, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 山崎和夫, 小出道夫: 子宮体癌手術1年後に発症したレジオネラ肺炎の1例(同上).

桜井信男, 多田公英: 胸膜炎を伴ったムコールによる好酸球性肺炎 (bronchocentric granulomatosis) の1例(同上).

加藤元一, 佐藤敦夫, 松井保憲, 鈴木克洋, 田中栄作, 村山尚子, 網谷良一, 倉澤卓也, 川合 満, 久世文幸: 副鼻腔気管支症候群に合併した非定型抗酸菌症の3例(同上).

西山秀樹, 南方良章, 新実彰男, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 前川暢夫, 池田紀男: 和歌山日赤におけるメチシリン・セフェム耐性ブドウ球菌感染症の検討(同上).

久世文幸, シンポジウム: 「臨床検査室からみた重要な微生物検索の問題点」(同上).

中原保治, 中原由紀子, 河村哲治, 嶋崎洋一, 池上裕美子, 河南里江子, 石田 直, 望月吉郎, 松山栄一, 田村忠雄: 経皮穿刺吸引にて診断された肺ノカルジア症の1例. 国療総合医学会(1988. 11. 11. 松山).

石原享介, 片上信之, 坂本廣子, 中井 準, 石川稔晃: 救急医療からみた在宅酸素療法. 第16回日本救急医学会総会(1988. 11. 24. 大阪).

有田真知子, 千葉 秀, 三宅淳史, 佐藤敦夫, 松井保憲, 加藤元一, 鈴木克洋, 田中栄作, 村山尚子, 網谷良一, 倉澤卓也, 川合 満, 久世文幸: クラリネット奏者に発症した好酸球性肺炎の一例. 第62回日本結核病学会第32回日本胸部疾患学会近畿地方会(1988. 11. 26. 奈良).

新実彰男, 南方良章, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫: マイコプラズマ肺炎軽快後に発症し, 肺血流シンチで特異な分布が証明された好酸球性肺炎の一例(同上).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 松村栄久, 弓場吉哲, 三野眞理, 永田 誠, 竹内 篤, 市島国雄, 小橋陽一郎: ぶどう膜炎で発症し, DAD (diffuse alveolar damage を呈したサイトメガロウイルス感染症の一例(同上).

池上裕美子, 河村哲治, 嶋崎洋一, 河南里江子, 中原由紀子, 中原保治, 望月吉郎, 桂 栄孝: 診断後, 治療に対する反応性が問題となった好酸球性肺炎の1例(同上).

4. 気管支喘息・アレルギー

Mitsuru Kawai, Motokazu Kato, Fumiyuki Kuze.: Expectoration of sputum applying interference low frequency wave on the chest. International Conference on Pulmonary Rehabilitation and Home Mechanical Ventilation. (March 4, 1988. Denver Colorado).

石原享介, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 夏型過敏性肺臓炎の気管支肺胞洗浄所見——有症状夏期・無症状夏期の比較検討——. 第28回日本胸部疾患学会総会(1988. 4. 27. 仙台).

川勝一雄, 武山正治, 川合 満, 岸本育子, 谷川原裕介, 堀 了平: 外来喘息患者におけるアミノフィリン点滴静注の臨床薬理学的検討. 日本薬学会第108年会(1988. 4. 広島).

Mitsuru Kawai, Takuya Kurasawa, Fumiyuki Kuze, Kazuo Kawakatsu, Masaharu Takeyama: Theophylline in the treatment of bronchial asthma. The 4th Japanese-Korean Joint Allergy Symposium. (May 6, 1988. Tokyo).

川合 満: 気管支喘息に対する柴朴湯の長期投与. 第39回日本東洋医学会学術総会サテライトセッション(老年疾患と漢方療法. (1988. 6. 10. 札幌).

杉田孝和, 村山尚子, 倉澤卓也, 川合 満, 久世文幸: ミノマイシンによる肺好酸球性肺炎の1例. 第125回日本内科学会近畿地方会(1988. 6. 11. 大阪).

岡崎美樹, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: ステロイド依存性喘

息患者に対する TAO (Troleandomycin) 投与による臨床効果の検討. 第61回日本結核病学会, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 6. 25. 大阪).

西村尚志, 網谷良一, 川合 満, 久世文幸, 長谷寛二: マイコプラズマ肺炎を契機に発症した気管支喘息の1症例 (同上).

山村秀樹, 倉橋良一, 東 富雄, 斉藤勇樹, 高野ひな香, 河野茂勝, 川合 満, 大幡勝也: アトピー患者ならびに健常者の白血球および受動的感作ヒト肺切片からの histamine および leukotriene 遊離に及ぼす tranilast の効果. 第38回日本アレルギー学会総会, (1988. 9. 27. 京都).

川合 満, 加藤元一, 倉澤卓也, 久世文幸, 川勝一雄: 徐放性テオフィリン製剤の生物学的同等性に関する検討. 第38回日本アレルギー学会総会 (1988. 9. 28. 京都).

Kenichi Tanaka, Yutaka Okamoto and Mitsuru Kawai: An experimental model of nasal allergy induced in the guinea pig by toluene diisocyanate. X III International Congress of Allergology and Clinical Immunology. (1988. 10. 16, Montreux, Switzerland).

桜井稔泰, 石井晶生, 高蓋寿郎, 片上信之, 富岡洋海, 岡崎美樹, 長谷川幹, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 3菌種の沈降抗体が陽性を示したアレルギー性気管支肺真菌症の1例. 第62回日本結核病学会, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会. (1988. 11. 26. 奈良).

井上修平, 高橋憲太郎, 中江一郎, 池田宜昭: カンシダによると思われる PIE の1例 (同上).

5. その他

井野隆光, 沢幡 正, 丸井昭吾, 田中健一: N-アセチルベンジジンの DNA 塩基対間へのインターカレーション. 第61回日本産業衛生学会 (1988. 4. 12. 金沢).

網谷良一, 黒田直明: Primary Ciliary Dyskinesia 9例の臨床病理学的検討. 第28回日本胸部疾患学会総会 (1988. 4. 26. 仙台).

片上信之, 長谷川幹, 岡崎美樹, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 気管支鏡検査による免疫不全状態に合併した肺病変の診断 (同上).

岩崎博信, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 梅田文一, 中井 準, 関数近似による漸増運動時血中乳酸濃度の検討. (同上) (1988. 4. 27).

長谷川幹, 石原享介, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 桜井信男, 石井昌生: 在宅酸素療法施行例における予後因子の検討. (同上) (1988. 4. 28).

南部静洋, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 田口善夫, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 小橋陽一郎, 市島国雄: 多発性筋炎, 皮膚筋炎と悪性腫瘍, びまん性間質性肺炎との関連について. 第28回日本胸部疾患学会総会 (1988. 4. 26. 仙台).

岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 山中 享: 気管支拡張症の肺機能の検討 (同上).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 小橋陽一郎, 市島国雄: 好酸球性肺炎との移行が問題となった DIP と思われる1例. 第38回間質性肺疾患研究会 (1988. 5. 20. 東京).

隠岐由美子, 坂東憲司, 小柳津直樹: びまん性汎細気管支炎の一部検例. 第77回日本病理学会 (1988. 5. 27. 札幌).

新実彰男, 中谷光一, 南方良章, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫, 木下達之, 綿谷茂樹, 柏木基之亮: 気管支鏡及び BAL が診断に有用であった脂肪塞栓症候群の1例. 第11回日本気管支学会総会 (1988. 5. 31~6. 1. 札幌).

郡 義明, 弓場吉哲, 富井啓介, 久保嘉朗, 南部静洋, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 軟骨形成を伴う Endobronchial Polyp の2例. 第11回日本気管支学会総会 (1988. 6. 1. 札幌).

石原享介, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 気管支結石症: 気管支鏡下治療の可能性と限界, 第11回日本気管支学会総会 (1988. 6. 1. 札幌).

片上信之, 岡崎美樹, 長谷川幹, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 教育展示 (直視下生

検による大出血例の BF 所見」 「気管支静脈瘤」 (同上.)

石田 直, 西田典教, 森田基之, 池上裕美子, 河南昌樹, 富田誠人, 松山榮一, 田村忠雄, 中元倫世: 食道狭窄をきたした Stevens-Johnson's syndrome の 1 例. 第125回日本内科学会近畿地方会 (1988. 6. 11. 大阪).

南部静洋, 弓場吉哲, 久保嘉朗, 富井啓介, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 玄 博光, 堀 健次郎, 高橋雅士, 左野 明: 肺動脈病変を先行して発症した大動脈炎症候群の 1 例. 第31回日本胸部疾患学会, 第61回日本結核病学会近畿地方会 (1988. 6. 25. 大阪).

杉田孝和, 網谷良一, 倉澤卓也, 久世文幸, 西村一男: 内臓逆位を伴わない primary ciliary dyskinesia の 1 例 (同上).

弓場吉哲, 久保嘉朗, 富井啓介, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 腎機能障害の先行した Goodpasture 症候群の 1 例 (同上).

黄 政龍, 辰己明利, 山中 晃, 松井輝夫, 山下直己, 北野司久, 種田和清, 岩田猛邦: 本院の自然気胸246例の臨床的検討特に異時性対側再発について (同上).

長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 両側同時性気胸の 4 症例 (同上).

鈴木雄二郎, 南方良章, 新実彰男, 堀川禎夫, 西山秀樹, 前川暢夫: 胸膜炎に対するウロキナーゼ固定化トロッカーカテーテルの使用経験 (同上).

朝倉寛之, 弓場吉哲, 久保嘉朗, 富井啓介, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 伊賀幹二, 堀健次郎, 高橋 豊, 高橋雅士, 黒田康正: MOS (CMMOL) に合併した進行性肺動脈分枝狭窄症の 1 例 (同上).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 市島国雄, 小橋陽一郎, 望月吉郎: 好酸球肺炎との移行が問題となった DIP とと思われる 1 例 (同上).

河南昌樹, 森田基之, 西田典教, 池上裕美子, 中原保治, 中原由紀子, 門屋 誠, 松山榮一, 田村忠雄, 高田充隆, 川本忠正, 山本雅彦: FPIA 法によるアブリンゲン血中濃度測定の有用性について. 日本循環器学会第65回近畿地方会 (1988. 7. 9).

新実彰男, 南方良章, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫: 慢性気道疾患の気道過敏性に関する検討. 第56回和歌山医学会総会 (1988. 8. 7. 和歌山).

堀川禎夫, 南方良章, 新実彰男, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫: Acetazolamide が著効を示した睡眠時無呼吸症候群の 2 例 (同上).

田中健一, 田中 勝, 西垣しおり, 堀 秀子, 中島政博, 山田親久: 集団検診で観察された血清総コレステロールの測定値——肥満と高コレステロール出現率との相関——第29回日本人間ドック学会 (1988. 8. 25. 岡山).

田中健一, 西垣しおり, 田中 勝, 堀 秀子, 中島政博, 山田親久: HDL コレステロールと肥満との相関について (同上).

田中健一, 尾池達也, 朝枝哲也, 中島政博, 山田親久, 吉田克己, 乾 修然: 集団検診で観察された血清総コレステロールの測定値, 第28回近畿産業衛生学会 (1988. 10. 22. 和歌山).

田中健一, 朝枝哲也, 尾池達也, 中島政博, 山田親久, 吉田克己, 乾 修然: HDL コレステロールと肥満度 (同上).

中原由紀子, 中原保治, 西田典教, 森田基之, 河南昌樹, 福岡貫造, 久保明美, 門屋 誠, 松山榮一, 田村忠雄: CA 19-9 が血糖値およびヘモグロビン A1C と並行して変動の見られた糖尿病の 1 例. 国療総合医学会 (1988. 11. 11. 松山).

三野真理, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 富井啓介, 南部静洋, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 松村栄久, 北野司久, 辰己明利, 永田 誠, 竹内 篤, 市島国雄, 小橋陽一郎: サルコイドーシス様反応との鑑別が困難であったサルコイドーシスの 1 例 第8回サルコイドーシス学会総会 (1988. 11. 12. 東京).

種田和清「各種呼吸器疾患における気管支造影」 (特別講演). 第62回日本結核病学会, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11. 26. 奈良).

村山尚子, 網谷良一, 倉澤卓也, 久世文幸, 五十部潤, 田村康一, 鈴木康弘: 肺胞蛋白症の一例 (同上).

千葉 秀, 網谷良一, 久世文幸, 松田公志: YOUNG 症候群 (慢性副鼻腔炎・気管支拡張症及び特発性閉塞性無精子症) の一例 (同上).

長谷川 幹, 富岡洋海, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: エリスロマイシン長期投与例の末梢血好中球機能について (同上).

南部静洋, 三野真理, 弓場吉哲, 松村栄久, 久保嘉朗, 富井啓介, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: びまん性肺病変を伴って発症した慢性関節リウマチの1例 (同上).

松村栄久, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 三野真理, 朝倉寛之, 門脇則光: 皮膚筋炎のステロイド治療中に発症し急速に進行した間質性肺炎の一例 (同上).

三野真理, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 松村栄久, 弓場吉哲, 市島国雄, 小橋陽一郎: Lymphoid hyperplasia を伴った間質性肺炎の一例 (同上).

新実彰男, 南方良章, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫, 楊 忠和, 里村紀作: 11年の経過で徐々に増大した円形無気肺の1例 (同上).

大花正也, 門脇則光, 松村栄久, 八田和大, 今中孝信, 郡 義明, 岩田猛邦, 川村純一郎, 高橋雅士: 重症間質性肺炎に縦隔気腫を合併し, ステロイドパルス療法が奏効した SLE の1例. 第127回日本内科学会近畿地方会 (1988. 12. 13. 大阪).

河南昌樹, 池上裕美子, 西田典教, 河村哲治, 嶋崎洋一, 森田基之, 河南里江子, 久保明美, 松山榮一, 田村忠雄: 透析を導入した腎不全妊婦に出現した溶血性貧血と血小板減少 (同上).

種田和清, 岩田猛邦, 郡 義明, 田口善夫, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 三野真理: 気管支拡張病変の進行と喀痰細菌, 血清反応との関連について. 第36回日本化学療法学会西日本支部総会 (1988. 12. 9. 高知).

中原保治, 森田基之, 国部伸也, 河南昌樹, 中原由紀子, 門屋 誠, 松山榮一, 田村忠雄: Verapamil, propranolol 併用が有効であった運動誘発性 PSVT の1例. 日本循環器学会第66回近畿地方会 (1988. 12. 10. 大津).

嶋崎洋一, 森田基之, 河村哲治, 平田教至, 池上裕美子, 河南里江子, 河南昌樹, 望月吉郎, 松山榮一, 田村忠雄: 咳嗽失神の1例 (同上).

〔誌 上 発 表〕

1. 結核・非定型抗酸菌症

久世文幸, 倉澤卓也: 非定型抗酸菌症の診断と治療. Annual Review: 呼吸器 1988. p. 137-146, 1988, 中外医学社.

久世文幸: 結核, 臨床と研究, 65(1): 93-99, 1988.

久世文幸: 結核, 医学大事典, pp. 71-76, 1988.

久世文幸: RFP. INH 投与時の副作用. 日本医事新報, No. 3331, pp. 126-127, 1988.

正木俊一郎, 桜井信男, 加藤元一, 久世文幸: 実験的非定型抗酸症に関する研究 (9) *Mycobacterium avium* complex マウス感染モデルでの感染経路による比較検討, 結核, 63(2): 111-119, 1988.

川合 満, 久世文幸: 最近の結核症. Medicament News (1223号), 9-10, 1988.

Motokazu Kato & Fumiyuki Kuze. The dynamics of total lung lavage cell surface antigen expression of the experimental *Mycobacterium avium-intracellulare* infection mouse model. Am. Rev. respir. Dis. 137 (Supple): 172, 1988.

岩田猛邦: 非定型抗酸菌症. 呼吸器病レジデントマニュアル, 医学書院刊, p. 233-234. 1988.

松本鉄也, 池田宣昭, 金綱史至, 喜多舒彦, 上田英之助, 山崎正保, 金井廣一, 白井史朗, 岩垣克己, 竹中孝造 (近畿地区国療胸部疾患研究会): 難治肺結核症例に対する Ofloxacin の臨床効果. 結核63, (6): 469-474, 1988.

2. 腫 瘍

新実彰男, 倉澤卓也, 村山尚子, 網谷良一, 山本孝吉, 川合 満, 久世文章, 野々村光生: 広汎な浸潤影など特異な臨床経過を呈した前立腺癌肺移転の1例. 日本胸部臨床, 47(8): 689~695, 1988.

片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 白根博之, 太田仁八, 石井昌生: 種々の抗エストロゲン療法が無効であった過誤腫性肺脈管筋腫症の1剖検例. 日胸疾会誌, 26(2): 179~184, 1988.

長谷川幹, 李 英徹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 内田博也: 特徴的な気管支動脈造影所見を呈した肺硬化性血管腫の1切除例, 日本胸部臨床, 47(6): 530-533, 1988.

岩田猛邦: 症例3 (ウェゲナー肉芽腫症. 日経メディクイズ胸部X線日常診療篇, p. 36, P. 125~126. 1988.

田口善夫, 岩田猛邦: ウェゲナー肉芽腫症. 最新医学, 43(7): 1549~1552. 1988.

3. 感染症・炎症

倉澤卓也, 鈴木克洋: 診断基準とその使い方 XⅡ感染症, その他, 2. 細菌性肺炎. medicina, 25(10), 別刷, 医学書院. 1988.

山本孝吉, 鈴木克洋, 村山尚子, 倉澤卓也, 久世文幸, 辻野博之, 鍵岡 朗, 牛田伸一: RU 28965 の呼吸器感染症に対する臨床的研究. CHEMOTHERAPY, 36 (S-4) SEPT. 1988.

倉澤卓也, 久世文幸, 鈴木克洋, 田中栄作, 村山尚子, 山本孝吉, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 鍵岡 朗, 奥井克治, 辻野博之, 坂東憲司, 岩田猛邦, 種田和清: 呼吸器感染症に対する T-3262の臨床的検討. CHEMOTHERAPY 36 (S-9) DEC. 1988.

鈴木克洋, 久世文幸: 「特集 かぜ症候群」一般療法と対症療法. 臨床と研究, 65(11): 3393-3396, 1988.

網谷良一, 久世文幸: 肺における破綻と感染. 化学療法の領域, 4(9): 1723~1729, 1988.

石川保之, 川野通夫, 本庄 巖, 網谷良一: 口蓋裂の副鼻腔炎の成因. 耳鼻臨床, 81(11): 1623~1630, 1988.

小出道夫, 南出正之, 貫名正文, 仲西寿男, 神木照雄, 石川隆之, 永井謙一, 梅田文一, 白根博文, 齊藤 厚: Legionella micdadei による致命的肺炎症例と分離菌の細菌学的性状. 感染症学雑誌, 62(1), 1~6, 1988.

田中栄作, 加藤元一, 久世文幸: ムコイド型緑膿菌によるマウス気道感染症モデルの作成, 日胸疾会誌, 26 (1): 50-54, 1988

郡 義明, 岩田猛邦: 最新の医療情報 慢性気管支炎. 講談社刊, 医学大事典補遺 巻5, p. 205~207. 1988.

田口善夫: レジオネラ肺炎の気管支鏡所見. メディカルトリビューン. 1988.

辻野博之, 坂東憲司: 呼吸器感染症に対する T-3362 の臨床的検討. CHEMOTHERAPY, 36 (S-9): 583-588, 1988.

辻野博之, 坂東憲司: NY-198の呼吸器感染症に対する臨床的検討. CHEMOTHERAPY, 36 (S-2): 652-657, 1988.

望月吉郎, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 南部静洋, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 市島国雄, 小橋陽一郎: Pneumocystis carinii 肺炎に対する Co-trimoxazole 予防投与法の検討. 日胸疾会誌, 26: 102-108, 1988.

望月吉郎, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 南部静洋, 末期肺炎としての肺結核症の臨床的検討. 結核, 63: 570-575, 1988.

倉澤卓也, 久世文幸, 加藤元一, 山本孝吉, 池田宣昭, 他: NY-198 の呼吸器感染症に対する臨床的検討. CHEMOTHERAPY, 36 (S-2), June 1988.

4. 気管支喘息・アレルギー

川合 満 (司会), 石崎高志, 根本俊彦: 鼎談: テオフィリン徐放製剤を効果的に用いるために<前編>(実地医家のための日常診療シリーズ) そこが聞きたい——喘息治療のコツ Part 1. Medical Tribune, 21 (11): 14~15, March 17, 1988.

川合 満 (司会), 石崎高志, 根本俊彦: 鼎談: テオフィリン徐放製剤を効果的に用いるために<後編>(実地医家のための日常診療のシリーズ) そこが聞きたい喘息治療のコツ Part 2. Medical Tribune, 21 (12, 13): 10~

11, March 24, 31, 1988.

川合 満, 加藤元一: 気管支喘息の発症機序と薬剤の作用点, 新しい喘息治療薬の使い方. 宮本昭正編集 (分担執筆), 13~25, 医薬ジャーナル, 1988.

川勝一雄, 川合 満: テオフィリン——臨床薬理学と至適投与設計の考え方. Therapeutic Research, 8(1): 33~83, 1988.

川合 満, 村山尚子: 抗アレルギー剤——使い方のこつ——(特集・喘息治療の実際……薬物療法と日常管理). 喘息 (Asthma), 1(1): 92~99, 1988.

川合 満, 川勝一雄: テオフィリン (講座). 呼吸, 7(2): 192~201, 1988.

長野 準, 川合 満, 倉澤卓也, 西山秀樹, 他16名: 気管支喘息に対する柴朴湯の長期投与効果の検討——内科領域多施設 open trial による評価——. 呼吸, 7(1): 76~87, 1988.

Ken-ichi Tanaka, Yutaka Okamoto, Yoshiko Nagaya, Fumico Nishimura, Akemi Takeoka, Satoshi Hanada, Shigekatsu Kohno, Mitsuru Kawai.: A Nasal Allergy Model Developed in the Guinea Pig by Intranasal Application of 2, 4-Toulene Diisocyanate. Int. Archs Allergy appl. Immun. 85:392~397, 1988.

川勝一雄, 川合 満: テオフィリンの TDM の実際と至適投与設計. Pharma Medica 6(2): 67~83, 1988.

川合 満, 加藤元一: 高齢者でのアレルギー・喘息薬の使い方. アレルギーの臨床, 8(9): 633~637, 1988.

牧野荘平, 可部順三郎, 川合 満, 他(協同研究): 気管支喘息に対する Terfenadine の至適用量の検討——封筒法による多施設試験——. 臨床医薬, 4(5): 687~712, 1988.

牧野荘平, 宮本昭正, 川合 満, 他(協同研究): テルフェナジン (Terfenadine) の気管支喘息に対する臨床評価——多施設二重盲検法による Ketotifen との比較——. 臨床医薬, 4(9): 1687~1722. 1988.

長野 準, 久世文幸, 川合 満, 他(協同研究): 慢性閉塞性肺疾患——(主として慢性気管支炎, 肺気腫)に対する臭化オキシトロピウムの臨床評価, 封筒法による臭化イプラトロピウムとの比較試験——. 薬理と治療, 16 (9). 3981~4004, 1988.

川合 満, 加藤元一: 抗アレルギー剤, medical practice. 臨時増刊号, 556~561, 1988.

加藤元一, 川合 満: 喘息の運動療法, 臨床成人病, 18(11): 1949~1952, 1988.

村山尚子, 川合 満: アゼラスチンのような抗アレルギー薬の使い方のこつと, テオフィリン製剤との併用意義は?. 気道疾患 Q&A. No. 27, 1988.

岩崎栄作, 馬場 実, 宮本昭正, 川合 満, 倉澤卓也, 他: 食物アレルギーにおける フェルマシア RAST RIA の臨床的有用性の検討. アレルギー 37(6): 371-380. 1988.

川合 満, 加藤元一, 田中栄作: 他疾患を有する喘息の扱い方 (特集・喘息の新しい診断法と病態管理法), アレルギーの臨床, 7(11): 777-783, 1988.

西片 光, 足立 満, 川合 満, 倉澤卓也, 他: 真菌アレルギーにおける RAST の臨床的有用性の検討. アレルギー, 37(12): 1138-1151. 1988.

川合 満: 気管支喘息に対する柴朴湯の長期投与. 第4回, 臨床東洋医学研究会講演記録集, 35~41, 1988.

田中健一: TDI と TMA, 宮本昭正, 長野 準, 小林節雄, 中島重徳, 編: 吸入性抗原——主に喘息の原因として. 164~169, メディカルトリビューン社刊 1988.

5. その他

川合 満: 縦隔気腫. 今日の治療指針, 1988 (分担執筆) 390, 医学書院, 1988.

川合 満: 呼吸器疾患の診療. 老年内科診療の実際, 三宅健夫監修 (分担執筆) 91~106 新興医学出版社, 1988,

川合 満: 臭化水素酸フェノテロール. 話題の呼吸器疾患と新薬, 吉村正治, 原澤道美, 梅田博道編集 (分担執筆) 55~58 現代医薬, 1988.

川合 満, 田中栄作: 去痰薬の使い方. Pharma Medica 6(4):147~155, 1988.

川合 満, 無江季次, 可部順三郎(司会): 慢性閉塞性肺疾患における抗コリン剤の役割. ラジオたんぱ放送内容集「明日の治療指針」1~15, 1988.

倉澤卓也, 久世文幸: 血痰, 現代医療, 20: 309-313, 1988.

岩田猛邦: 診断基準とその使い方 II. 呼吸器 3. びまん性汎細気管支炎. *Medicina*, 25(10):1736-1737, 1988.

岩田猛邦: 気管支拡張性病変の検討—びまん性汎細気管支炎の気管支造影からみて—, 日本胸部臨床, 46(11): 891-897, 1988.

岩田猛邦: 閉塞性肺疾患と気管支拡張症. 内科 61(3):417~421, 1988.

岩田猛邦: 日経メディクイズ②——胸部X線. 日経メディカル5月10日号, p.15~16, 1988.

岩田猛邦: 問診および理学的所見のとり方. 泉孝英, 宮城征四郎編, 呼吸器病レジデント・マニュアル, 医学書院刊, p.52~56, 1988.

郡 義明, 岩田猛邦: びまん性肺疾患の画像診断. 臨床診断の進め方. 臨床画像, 4(7): 20~28, 1988.

田口善夫, 岩田猛邦: 肺の血管炎. 総合臨床 37(1): 2664~2670, 1988.

富井啓介: 卒業後臨床研修の現状をどう改革すべきか. 臨床研修病院の場合——修了した立場から. 医学教育, 19(6): 430, 1988.

網谷良一, 田中栄作, 鈴木康弘, 石田 直, 高橋晴雄, 久世文幸: びまん性汎細気管支炎における気管・気管支粘膜線毛の機能および超微形態——Primary Ciliary dyskinesia との関連——. 日本胸部臨床, 47(6): 483~490, 1988.

石川保之, 川野通夫, 本庄 巖, 網谷良一: 口蓋裂患者の鼻腔粘液線毛機能. 耳鼻臨床, 81(5): 711~717, 1988.

石原享介, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 自然気胸の内科的治療成績: 標準的治療法としての OK 432 胸腔内注入療法. 日胸疾会誌, 26(1), 10~15, 1988.

長谷川幹, 石原享介, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 内田博也: BAL で診断したびまん性肺胞内出血の3症例. 気管支学, 10(3), 333~338, 1988.

河村哲治, 田中栄作, 富岡洋海, 倉澤卓也, 川合 満, 久世文幸, 生川伸二, 橋井康二, 森 崇英: CA 125 異常高値を示した卵黄莢膜細胞腫による Meigs 症候群の1例. 日胸疾会誌, 26, 1302-1306, 1988.

大草知子, 岡田幾太郎, 中原保治, 門屋 誠, 松山榮一: 発作性心房細動に対する Aprindine 注射薬の効果. 薬理と治療, 16, 633-638, 1988.

長野 豊, 石田 直, 富田和也, 岡田幾太郎, 大草知子, 岸田慶子, 中原保治, 富田誠人, 牛田伸一, 門屋 誠, 松山榮一: 下肢動脈に石灰化と閉塞をきたした14歳男子の1例. 呼吸と循環, 36, 331-334, 1988.

中原由紀子, 中原保治, 松山榮一, 田村忠雄: CA19-9 が血糖値と並行して変動の見られた糖尿病の1例. 日本内科学会雑誌, 77, 132-133, 1988.

中原保治, 中原由紀子, 門屋 誠, 松山榮一, 岩 喬: 右心室異常筋束切除により軽快した薬物抵抗性心室性頻拍症の1例. 心電図, 8, 715-721, 1988.

富田誠人, 牛田伸一, 中原保治, 中原由紀子, 石田 直, 松山榮一, 田村忠雄, 山取 要, 富樫和美: IgA 自己抗体を認めた慢性甲状腺炎の1例. 日本内科学会雑誌, 77, 1087-1088, 1988.

中西通泰: 気管支拡張症(分担執筆). 今日の診断指針, 医学書院, 1988.

中西通泰: Michael A. Mc Guigan. ほん訳. 「Treatment of poisoning, Ciba Clinical Symposia. 29(1), 1988.

〔研究会・講演会〕

1. 結 核

加藤元一, 久世文幸: 各種ピリドンカルボン酸系薬剤の抗酸菌に対する試験管内制菌力. 第11回臨床抗酸菌病談話会(1988.6.1札幌)

久世文幸: 「非定型抗酸菌症の現状と問題点」奈良県呼吸器疾患研究会(1988.11.12.奈良).

2. 腫瘍

久世文幸：当科における肺癌診療の現状 第3回和歌山肺癌研究会, (1988. 7. 16. 和歌山)。

縄田隆平, 西村尚志, 黒田直明, 坂東憲司：根治手術の5年後に気管支壁転移を発見された乳癌の一例。第34回近畿気管支鏡懇話会 (1988. 7. 22. 大阪)。

坂本廣子, 富岡洋海, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 西内 素, 庄村東洋：Sleeve resection 後の吻合部狭窄に対し, 気管支鏡下ステロイド局注が奏功したと思われる肺扁平上皮癌の1例。第35回近畿気管支鏡懇話会 (1988. 12. 23. 大阪)。

有田真知子, 佐藤敦夫, 加藤元一, 鈴木克洋, 村山尚子, 倉澤卓也, 久世文幸, 田村康一, 細川昌則：Laser 焼却にて経過観察の肺門部早期扁平上皮癌の1例。(同上)。

3. 感染症, 炎症

Ryoichi Amitani: Low-dose, long-term erythromycin chemotherapy in patients with diffuse panbronchiolitis and bronchiectasis. Lunch-Time Meeting in Royal Free Hospital, London (1988. 1. 13)。

郡 義明, 弓場吉哲, 久保嘉郎, 富井啓介, 南部静洋, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 天野博之, 相原雅典：大量ステロイド使用中に発症した Legionella pneumophila 肺炎の1例と本院 Legionella 症4例のまとめ。第3回奈良県感染症研究会 (1988. 1. 30. 奈良)。

望月吉郎, 弓場吉哲, 久保嘉郎, 富井啓介, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市場国雄：剖検肺における肺真菌症の検討 (同上)。

岩田猛邦：剖検例におけるカリニー肺炎と ST 合剤予防投与の効果について。第2回近畿呼吸器疾患談話会 (1988. 2. 6. 大阪)。

久世文幸：慢性呼吸器感染症の現状と問題点 第一回京都感染症研究会 特別講演 (1988. 5. 7. 京都)

岩田猛邦：慢性下気道感染症の病態と治療。奈良市医師会 (1988. 5. 27. 奈良)。

久世文幸：呼吸器感染症の診断をめぐって 京都府医師会・京都胸部医会講演 (1988. 6. 17. 京都)。

岩田猛邦：肺感染症 (臨床例を中心に)。橿原市医師会 (1988. 6. 23. 橿原)。

望月吉郎：呼吸器感染症について 美方郡医師会臨床懇話会 (1988. 7. 9. 村岡町)。

堀川禎夫, 南方良章, 新実彰男, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫：TBLBで有意な所見を得たパラインフルエンザ肺炎の1例。第34回近畿気管支鏡懇話会 (1988. 7. 22. 大阪)

望月吉郎：呼吸器感染症について 小野市医師会臨床懇話会 (1988. 9. 21. 小野市)。

久世文幸：慢性呼吸器感染症の現状と問題点 倉敷中央病院講演会 (1988. 11. 16. 倉敷)

岩田猛邦：下気道感染症 宇陀郡医師会胸部X線写真読影会, (1988. 11. 19. 榛原)。

黒田直明, 西村尚志, 川島敦子, 熊谷直和, 縄田隆平, 坂東憲司：無気肺を呈したマイコプラズマ肺炎の一例。第35回近畿気管支鏡懇話会 (1988. 12. 23. 大阪)。

4. 気管支喘息・アレルギー疾患

可部順三郎, 川合 満 (司会)：気管支喘息の病態と薬物療法について, ロメット新発売記念講演会 (1988. 1. 16. 大阪)。

川合 満：気管支喘息の治療と進歩。広島県東部病院薬剤師会, (1988. 2. 7. 福山)。

川合 満：気管支喘息に関する最近の研究と治療の進歩, 重松学術講演会 (1988. 2. 13. 大阪)。

川合 満：抗アレルギー薬——使い方のこつ——。気管支喘息学術講演会 (1988. 2. 20. 京都)。

川合 満：アレルギー性呼吸器疾患の診断と治療。白河医師会 (1988. 3. 15. 白河)。

川合 満：気管支喘息に関する最近の研究と治療の進歩。奈良市医師会 (1988. 3. 24. 奈良)。

川合 満：気管支喘息の治療——吸入療法を中心として——。四日市, 鈴鹿地区医師会 (1988. 5. 28. 四日市)。

川合 満：気管支喘息——最近の研究と治療の進歩——。神戸市医師会, (1988. 5. 21. 神戸)。

笛木隆三, 川合 満 (司会)：成人喘息の予後について。第11回臨床アレルギー研究会 (1988. 7. 9. 大阪)。

川合 満・無江季次, 可部順三郎: 慢性閉塞性肺疾患における抗コリン剤の役割 (明日の治療指針シリーズ), ラジオたんぱ (1988. 7. 9. 放送).

川合 満: 気管支喘息, 最近の考え方. 佐賀県医師会. (1988. 7. 15. 佐賀).

Mitsuru Kawai: Advances of Asthma Therapy in Japan. Symposium on Recent Advances of Asthma Therapy. 中華民国免疫学会主辨. (1988. 9. 1. 台北).

岸本育子, 谷川原祐介, 堀 了平, 川勝一雄, 武山正治, 川合 満: 外来喘息患者におけるアミノフィリン点滴静注の臨床薬理学的検討. 第3回薬物モニタリング全国交流会. (1988. 9. 15. 東京).

川合 満: 気管支喘息の治療——最近のトピックス——鳥取県東部医師会, (1988. 9. 22. 鳥取).

川合 満: 気管支喘息の病態と治療, 甲賀郡医師会 (1988. 9. 27. 水口).

石原享介, 富岡洋海, 岡崎美樹, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準. 夏型過敏性肺臓炎発症1年後, 2年後. 第2回兵庫・免疫アレルギー研究会 (1988. 10. 15. 芦屋).

川合 満: 気管支喘息の治療. 第39回神奈川胸部疾患研究会. (1988. 11. 25. 横浜)

5. そ の 他

田口善夫: 2年の経過を観察し得たびまん性肺疾患の1例. 第40回びまん性肺疾患研究会 (1988. 2. 20. 大阪).

新実彰男: 慢性気道疾患の気道過敏性について——アストグラフによる検討——. 第2回和歌山臨床免疫・アレルギー研究会. (1988. 3. 26. 和歌山).

川合 満: 閉塞性肺疾患——治療の進歩. 京都府社保講演会 (1988. 4. 15. 京都).

岩田猛邦: びまん性肺疾患(1). 宇陀郡医師会胸部X線写真読影会 (1988. 6. 16. 榛原).

網谷良一: 特別報告「Brompton 病院における慢性気道疾患の診療および研究の現状」第9回びまん性汎細気管支炎をめぐる研究会 (1988. 7. 2. 東京).

網谷良一, 佐藤敦夫, 松井保憲, 田中栄作, 久世文幸: DPB の Etiology についての一考察——とくに Primary Ciliary Dyskinesia との関連——. 第9回びまん性汎細気管支炎をめぐる研究会 (1988. 7. 2. 東京).

岩田猛邦: びまん性肺疾患(2). 宇陀郡医師会胸部X線写真読影会 (1988. 9. 6. 榛原)

富岡洋海, 高蓋壽朗, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 発熱, 呼吸困難で発症し, 入院後急速に自然寛解したびまん性肺疾患の1例. : 第42回びまん性肺疾患研究会 (1988. 9. 10. 大阪).

池上裕美子 他: 呼吸困難, 乾性咳嗽を主訴とし, 胸部レ線上記びまん性陰影を呈した1例 (同上).

新実彰男, 前川暢夫他: Down 症, 鉄欠乏性貧血の既往を有し, びまん性陰影の増悪・軽快を繰り返した1例 (同上).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 南部静洋, 富井啓介, 久保嘉朗, 弓場吉哲, 三野真理, 市島国雄, 小橋陽一郎: 柯沢型葡萄膜炎治療中に, 肺出血を呈し死亡したびまん性肺疾患の1例 (同上).

岩田猛邦: びまん性汎細気管支炎と気管支拡張症. 浜松医大第2内科合同カンファレンス (1988. 10. 3. 浜松).

村上元康, 俞 正根, 寺村早苗, 北 徹, 三宅健夫, 加藤元一, 川合満: 呼吸器疾患 (喘息, 肺気腫) における胃粘膜病変——胃粘膜血流を中心として——. 第5回消化器血流研究会, (1988. 10. 22, 鹿児島).

弓場吉哲, 三野真理, 久保嘉朗, 富井啓介, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 北野司久, 小橋陽一郎, 市島国雄: 当院における過去八年間の開胸肺生検について. 第20回奈良県呼吸器疾患研究会 (1988. 11. 12. 奈良).

郡 義明, 三野真理, 弓場吉哲, 久保嘉朗, 富井啓介, 南部静洋, 田口善夫, 種田和清, 岩田猛邦: 移動する浸潤影を呈した BOOP の1例. 第39回間質性肺疾患研究会 (1988. 11. 18. 東京).

南部静洋, 三野真理, 弓場吉哲, 久保嘉朗, 富井啓介, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 市島国雄, 小橋陽一郎: 細気管支, 肺泡道内病変が目立ったびまん性間質性肺炎の1例 (同上).

富井啓介, 三野真理, 弓場吉哲, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 久保嘉朗, 小橋陽一郎, 市島国雄: 発熱, 皮疹, 呼吸困難で発症し, 約3カ月の経過で死亡したびまん性肺疾患の1例. 第43回びま

ん性肺疾患研究会 (1988. 12. 3. 大阪).

坂本廣子, 富岡洋海, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 北市正則: Sheehan 症候群の治療中に出現したびまん性肺陰影の1例 (同上).

望月吉郎, 平田教至, 西田教至, 国部伸也, 河村哲治, 嶋崎洋一, 森田基之, 西田典教, 河南里江子, 池上裕美子, 中原由紀子, 中原保治, 松山榮一, 田村忠雄, 桂 栄孝: 急速に呼吸困難が進行したびまん性肺疾患の1例 (同上).

岡崎美樹, 富岡洋海, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 進行性の呼吸困難を呈し開胸生検にてB群 IIP と診断された1例. 第11回京阪神呼吸器疾患勉強会 (1988. 12. 8. 大阪).

川合 満: 各種疾患における合併症としての胃粘膜病変(6). 呼吸器疾患, ラジオたんぱ (1988. 12. 12. 放送).

岩田猛郎: びまん性肺疾患 (特にびまん性汎細気管支炎と気管支拡張症). 和歌山市医師会内科部会 (1988. 12. 24. 和歌山).

〔第4回京都大学胸部疾患研究所第一内科合同研究発表会〕

(1988. 12. 17, 京都)

石田 直¹⁾, 西本 弘¹⁾, 中村聡人²⁾, 清谷哲也²⁾, 福瀬達朗²⁾, 和澤 仁²⁾, 玉田二郎²⁾ (倉敷中央病院²⁾ 内科, ²⁾呼吸器科): 敗血症, 脾膿瘍の合併が疑われた多発性肺動静脈瘻.

黒田直明, 縄田隆平, 西村尚志, 川島敦子, 熊谷直和, 坂東憲司 (大阪府済生会中津病院呼吸器内科): 無気肺を呈したマイコプラズマ肺炎の1例.

長谷川幹, 富岡洋海, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準. (神戸市中央市民病院呼吸器内科): エリスロマイシン長期投与例の末梢血好中球機能について.

新実彰男, 中谷光一, 杉田孝和, 南方良章, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫 (和歌山赤十字病院呼吸器科): 慢性気道疾患の気道過敏性について—アストグラフによる検討.

T Shirakawa, K. Morimoto, Y. Kusaka, N. Fujimura, M. Kato and S. Heki (Osaka University and Takatsuki Red Cross Hospital): Synergetic Effect of Smoking and Dust Exposure on Producing Total IgE and Specific IgE Antibodies Against Cobalt.

岡崎美樹, 富岡洋海, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準 (神戸市立中央市民病院呼吸器内科): ステロイド依存性喘息患者に対する TAO (Troleandomycin) 少量投与の臨床的検討.

河村哲治¹⁾, 中原保治¹⁾, 中原由紀子¹⁾, 嶋崎洋一¹⁾, 平田教至¹⁾, 国部伸也¹⁾, 森田基之¹⁾, 西田典教¹⁾, 池上裕美子¹⁾, 河南里江子¹⁾, 望月吉郎¹⁾, 松山榮一¹⁾, 田村忠雄¹⁾, 桂 栄孝²⁾ (国立姫路病院¹⁾ 内科, ²⁾病理): 最近3年間に施行された経皮的肺針生検167例の検討.

三野真理, 弓場吉哲, 岩田猛邦 (天理よろづ相談所病院呼吸器内科): 当院における最近の開胸肺生検例について.

加藤元一, 久世文幸 (京大胸部研第一内科): 実験的マウス M. avium complex 症を対象とした肺洗浄細胞の動態, 及び各種免疫修飾物質の影響: モノクローナル抗体を用いた解析.

村山尚子, 鈴木克洋¹⁾, 山本孝吉²⁾, 久世文幸¹⁾ (¹⁾京大胸部研第一内科, ²⁾京大医学部第一内科): 肺胞マクロファージの活性酸素生成に関する検討.

池上裕美子¹⁾, 河村哲治¹⁾, 嶋崎洋一¹⁾, 河南里江子¹⁾, 中原由紀子¹⁾, 中原保治¹⁾, 望月吉郎¹⁾, 長谷川誠紀²⁾, 橋平誠²⁾, 宮本好博²⁾, 桂 栄孝³⁾ (国立姫路病院¹⁾ 内科, ²⁾呼吸器外科, ³⁾病理): SVC 症候群を呈し, 縦隔鏡下生検にて診断された胸線カルチノイドの一手術例.

石田 直¹⁾, 高橋健二¹⁾, 梁 慧秀²⁾ (倉敷中央病院¹⁾ 内科, ²⁾病理): 悪性中皮腫瘍の胸膜転移を呈した腎癌の一例.

岩崎博信, 富岡洋海, 岡崎美樹, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 梅田文一, 中井 準 (神戸市立

中央病院呼吸器内科): 非小細胞肺癌の転移と予後.

南部静洋¹⁾, 岩田猛邦¹⁾, 小橋陽一郎²⁾ (天野よろづ相談所病院¹⁾ 呼吸器内科, ²⁾病理): 剖検例における重複癌の臨床病理学的検討.

西坂泰夫, 小田芳郎: (大阪赤十字病院呼吸器内科): 腫瘍型筋サルコイドーシスの一例.

富岡洋海, 長谷川幹, 岡崎美樹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準 (神戸市立中央市民病院呼吸器内科): 発症年齢別にみたサルコイドーシスの臨床像の検討.

縄田隆平¹⁾, 川島敦子¹⁾, 西村尚志¹⁾, 熊谷直和¹⁾, 黒田直明¹⁾, 坂東憲司¹⁾, 桑原 隆²⁾ (大阪府済生会中津病院¹⁾ 呼吸器内科²⁾腎センター): 著明な明苔, 口腔内潰瘍を認めた Wegener 肉芽腫症の一例.

橋本 徹¹⁾, 磯和理貴¹⁾, 大野暢宏¹⁾, 武藤 真¹⁾, 長谷光雄¹⁾, 高嶋義光¹⁾, 北市正則²⁾ (¹⁾福井赤十字病院呼吸器科, ²⁾京都大学胸部疾患研究所第二内科): Bronchocentric granulomatosis の一例.

(特別発表) 田口善夫 (天理よろづ相談所病院呼吸器内科): レジオネラ症: 治療例を中心に.

(特別発表) 網谷良一 (京都大学胸部疾患研究所 第一内科): 気管支肺疾患と気道粘液線毛輸送系

(特別発表) 石原享介 (神戸市立中央市民病院 呼吸器内科): 夏型過敏性肺炎の臨床像: BAL, 肺機能検査から見た呼吸器障害遷延化の可能性.

〔講演 主 催〕

島尾忠男: 「世界の結核問題と日本の役割」 (1988. 3. 25. 京都)

Michael T. Newhouse, M. D.: Clinical Professor of Medicine, McMaster Univ., Ontario, Canada. "Etiology and Clinicopathological Features of Bronchiectasis." (1988. 11. 2.) 主催: 胸部研, 第一内科

免疫学分野

〔学 会 発 表〕

Hosono, M., Kurozumi, M., Katsura, Y. and Takeda, T.: Tolerance induction in the developing thymus. "Evolution and differentiation of the immune system" Symposium, 1988, 1, 山口.

渡部良広, 行徳淳一郎, 桂 義元: 胸腺 stroma cell 株上での T cell の分化. 第4回京滋幹細胞研究会, 1988, 6, 京都.

桂 義元: proT 細胞の性質と胸腺 stroma 細胞株上での T細胞の分化. 第6回胸腺免疫研究会, 1988, 7, 東京.

Watanabe, Y., Gytoku, J. and Katsura, Y.: A thymic stomal cell line which selectively supports the generation of helper T cell subset. INSERM Conference, 1988, 7, France.

岩井一宏, 鏑田武志, 桂 義元, 熊谷俊一, 井村裕夫: In vitro でのクラススイッチの誘導により一個の B細胞由来の IgM, IgG 抗体を検出する培養系の樹立とその自己抗体産生機構の解析への応用. 第38回アレルギー学会総会, 1988, 9, 京都.

花田敬吾, 細野正道, 細川友秀, 竹田俊男. 老化促進モデルマウス, SAM-P/1 の T依存性抗原に対する低応答能: ヘルパー T細胞の機能低下について. 第12回日本基礎老化学会, 1988, 8, 伊勢原.

桂 義元: 造血幹細胞と胸腺における T細胞の分化. 第40回国立大学附置研究所胸部疾患談話会, 1988, 11, 大阪

桂 義元: 胸腺における T細胞の分化. 大阪血液疾患談話会, 特別講演会, 1988, 11, 大阪.

桂 義元, 行徳淳一郎, 高沖悠子, 富田由美子, 渡部良広: 臓器培養した胎児胸腺への細胞注入による T細胞分化の解析. 同上学会.

- 細野正道, 桂 義元, 細川友秀: In vivo 抗 Mls 反応系にみられる一方向性応答. 第18回日本免疫学会総会, 1988, 12, 京都.
- 藤本真慈, 森本武志, 桂 義元: T細胞抗原レセプター δ 鎖遺伝子発現の調節機構. 同上学会.
- 渡部良広, 行徳淳一郎, 大西昭男, 桂 義元: 胸腺ストローマ細胞株 (TSt-4) 上での未成熟 T細胞の分化. 同上学会.
- 行徳淳一郎, 渡部良広, 桂 義元: 胸腺中の CD4⁺8⁺細胞の分化段階における位置づけ. 同上学会.
- 岩井一宏, 鏑田武志, 桂 義元, 熊谷俊一, 井村裕夫: 抗 DNA 抗体産生 B細胞におけるクラススイッチの単一クローンレベルにおける解析. 同上学会.
- 黒住真史, 細野正道, 竹田俊男, 桂 義元: Mls-MHC クラス II 反応性 T細胞寛容成立と胸腺髄質内抗原分布. 同上学会.
- 花田敬吾, 細川友秀, 細野正道, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) の In vitro 免疫応答に関する研究. 同上学会.

〔誌 上 発 表〕

- ✓ Hirokawa, K., Utsuyama, M., Katsura, Y. and Sado, T.: Influence of age on the proliferation and peripheralization of thymic T cells. *Vistas Immunol.*, 112, 13-21, 1988.
- ✓ Hosono, M., Kina, T., Katsura, Y. and Hosokawa, T.: Unidirectional responses to Mls determinants *in vivo*: Polyclonal T cell responses to a signal common determinant of Mls in different efficiencies? *Scand. J. Immunol.*, 28, 217-224, 1988.
- ✓ Hosono, M., Hosokawa, T., Fujiwara, M. and Katsura, Y.: Generation of self-macrophage-toxic non-T cells in the MHC-homozygous F₁ spleen cells co-cultured with parental cells: Possible involvements of host cells in impaired immunity in GVH disease. *Japan. J. Exp. Med.*, 58, 261-267, 1988.
- Hosokawa, T., Aoike, A., Hosono, M., Kawai, K. and Cinader, B.: Strain difference of age-dependent changes in the responsiveness to a T-independent Type-2 (TI-2) antigens in mice. *Mech. Ageing and Devel.*, 45, 9-21, 1988.
- 桂 義元: T細胞のメカニズム. *Medical Immunology*, 15, 499-504, 1988.
- 渡部良広, 行徳淳一郎, 桂 義元: ヘルパー系 T細胞の分化を支持する胸腺ストローマ細胞株. *Medical Immunology*, 16, 295-300, 1988.
- ✓ Tsubata, T., Nishikawa, S., Katsura, Y., Kumagai, S. and Imura, H.: B cell repertoire for anti-DNA antibody in normal and lupus mice: differential expression of precursor cells for high and low affinity anti-DNA antibodies. *Clin. Exp. Immunol.*, 71, 50-55, 1988.
- 鏑田武志, 桂 義元: サプレッサー T細胞の抗原レセプター: 医学のあゆみ, 145, 813, 1988.
- ✓ Katsura, Y., Kina, T., Takaoki, Y. and Nishikawa, S.: Quantification of T cell progenitors for thymic T cells in various organs. *Eur. J. Immunol.*, 18, 889-895, 1988.
- ✓ Kina, T., Amagai, T., Nishikawa, S., Araya, S. and Katsura, Y.: Functional differentiation and repertoire diversification of T cells derived from single progenitor cells. *Eur. J. Immunol.*, 18, 897-903, 1988.

臨床生理学分野

〔学会研究会発表〕

- 佐川弥之助: 第28回日本胸部疾患学会総会会長講演「迷走神経遮断と呼吸反射」司会, 第28回日本胸部疾患学会, 1988. 4.

久野健志：シンポジウム3. 胸部疾患における運動負荷試験の評価—呼吸調節と運動負荷—，同上，1988, 4.

三嶋理晃：第28回日本胸部疾患学会総会シンポジウム4. 画像診断による肺機能評価とその限界—肺機能評価の立場からみた RI 画像診断の限界—，同上，1988, 4.

石部裕一，中村正人，煤田高士，塩川泰造，泉 貴文，末包慶太：アルミトリンの低酸素肺血管収縮に対する作用，同上，1988, 4.

加藤幹夫：第28回日本胸部疾患学会総会．肺循環10．司会，同上，1988, 4.

佐藤公彦，久野健志：喫煙曝露ラットにおける肺 Glutathione peroxidase (GSHpx) およびその関連酵素の検討，同上，1988, 4.

山岡新八，福永隆文，三嶋理晃，久野健志，米倉義晴：COPD 患者の運動負荷時における右室冠血流量の重要性，同上，1988, 4.

田中瑩子，三嶋理晃，山岡新八，福永隆文，越久仁敬，久野健志： ^{133}Xe 持続注入法を用いた，肺疾患症例および正常例における肺内換気・血流および換気血流比分布の比較検討，同上，1988, 4.

大井元晴，陳 和夫，中村吉法，服部 登，久野健志，平井正志，関野 一，栗山隆信：睡眠時，鼻 CPAP マスクによる補助呼吸，同上，1988, 4.

福田正悟，坪井知正，前川豊行，鎌苅邦彦，土肥佳郎：肺癌に対する Etoposide, CDDP 併用気管支動脈注入療法 (BAI) 及び肺動脈注入療法 (PAI) の効果並びに血中濃度の推移についての検討，同上，1988, 4.

泉 貴文，石部裕一，末包慶太，Y. S. Bakhle：エンドトキシン肺傷害モデルにおけるプロスタグランディン E_2 の薬効動態とステロイドの影響，同上，1988, 4.

山岡新八，三嶋理晃，田中瑩子，福永隆文，越久仁敬，久野健志，人見滋樹：原発性肺癌の肺門，縦隔病変に対するガリウム SPECT 像の有用性，同上，1988, 4.

大井元晴：第28回日本胸部疾患学会総会．呼吸調節第 I 司会，同上，1988, 4.

陳 和夫，大井元晴，越久仁敬，北 英夫，大塚直紀，中出雅治，田中嘉人，服部 登，久野健志，平井正志：過換気症候群患者の呼吸パターンに関する検討，同上，1988, 4.

太田和夫：老人の脊柱側弯症．第61回日本整形外科学会，1988, 4.

和田晋一，岩本暢泰，稲井真弥，関 庚燁，栗山隆信：MEFV 曲線との関連からみた Closing volume (CV) 検査の問題点．第 8 回京阪神肺機能研究会，1988, 5.

三嶋理晃，田中瑩子，福永隆文，越久仁敬，川上賢三，久野健志，千原幸司，人見滋樹： ^{133}Xe を用いた気腫性肺嚢胞症例における肺内換気局所分布の検討．第33回気胸研究会，1988, 5.

水谷 哲，鍵岡 均，服部 登，藤田正憲：嚢胞切除縫縮術と自家血による気管支瘻閉鎖術で一時 weaning 可能となった呼吸不全の 1 例．第33回気胸研究会（第 8 回総会），1988, 5.

杉田隆彰，安田隆三郎，西川忠男，平井正志，木村哲郎，関野 一：右肺上葉内に発生した重複肺癌の 1 例．第31回滋賀呼吸器疾患談話会，1988, 5.

石部裕一：特別講演「麻酔と HPV」，近畿麻酔科医会総会，1988, 5.

平松義規，市谷勉雄，弘野慶次郎，坪井裕志，西川忠男：心膜憩室の 2 切除例．第143回近畿外科学会，1988, 5.

杉田隆彰，安田隆三郎：食道平滑筋腫を合併した縦隔腫瘍の 1 例．第143回近畿外科学会，1988, 5.

吉村昌佳，服部 登，福井基成，水谷 哲，鍵岡 均，藤田正憲：両側肺炎で発見されたアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の 1 症例．第125回日本内科学会近畿地方会，1988, 6.

福井基成，服部 登，水谷 哲，鍵岡 均，藤田正憲，村田 豊：ルポイド肝炎の経過中にレジオネラ肺炎を併発した 1 症例．第31回日本胸部疾患学会近畿地方会，1988, 6.

南方良章，新実彰男，堀川禎夫，鈴木雄二郎，西山秀樹，前川暢夫：肺胞内出血により急速に死に至った Wegener 肉芽腫症の 2 例．第31回日本胸部疾患学会近畿地方会．1988, 6.

鈴木雄二郎，南方良章，新実彰男，堀川禎夫，西山秀樹，前川暢夫：胸膜炎に対するウロキナーゼ固定化トロッカー・カテーテルの使用経験．第31回日本胸部疾患学会近畿地方会，1988, 6.

児島成之，栗山隆信，岩垣明隆，貴島源一，関 庚燁：急性増悪時に睡眠時酸素飽和度低下を認めた慢性呼吸

不全の1例. 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1988. 6.

柴田美弥, 栗山隆信, 竹中正純, 関 庚燁, 福田市蔵: オリーブ橋小脳萎縮症にみられた夜間酸素飽和度低下に対し酸素および TRH の投与を試みた1例. 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1988. 6.

大塚直紀, 陳 和夫, 中出雅治, 北 英夫, 三嶋理晃, 大井元晴, 佐藤公彦, 久野健志: 他の間質性肺炎と鑑別困難であった BOOP の1例. 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1988. 6.

川添隆司, 田中 茂, 梅宮正志, 松尾晃次, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 前田 環: HCG 産性肺癌の1例. 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1988. 6.

松尾晃次, 梅宮正志, 川添隆司, 田中 茂, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎: 塵肺結核に肺出血を合併し死亡した患者の1剖検例. 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1988. 6.

梅宮正志, 田中 恰, 川添隆司, 松尾晃次, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎: Bartter 症候群に気管支喘息を合併した1例. 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1988. 6.

杉田隆彰, 安田隆三郎, 西川忠男: 高令者修正大血管転位症に対する左側房室弁置換術の1例. 第25回滋賀県循環器疾患研究会, 1988. 6.

杉田隆彰, 安田隆三郎: 後縦隔に発症した両側性心膜嚢腫の1例. 第31回日本胸部外科学会関西地方会, 1988. 6.

杉田隆彰, 安田隆三郎: 医原性と思われる解離性大動脈瘤の1治療例. 同上, 1988. 6.

石部裕一, C. Marshall, BE. Marshall: 外科的侵襲と肺操作が低酸素性肺血管収縮反応に及ぼす影響. 第35回日本麻酔学会総会, 1988. 6.

弘野慶次郎, 市谷迪雄, 坪井裕志, 西川忠男: 肺葉切除例における肺シンチによる肺血流, 換気及び換気血流比の検討. 第5回日本呼吸器外科学会総会, 1988. 6.

福田正悟, 坪井知正, 前川豊行, 鎌苅邦彦, 土肥佳郎: 肺の再拡張を認めなかった悪性胸膜炎の3治療例. 第176回大津赤十字病院内集談会, 1988. 6.

陳 和夫: COPD 患者における運動時の P_{O_2} の変化. 第8回京阪神肺機能研究会, 1988. 6.

水谷 哲, 鍵岡 均, 福井基成, 服部 登, 藤田正憲: 気管支肺胞洗浄液 (BALF) 及び血中の FH6, CA 19-9 の検討. 第11回日本気管支学会総会, 1988. 6.

坪井裕志, 市谷迪雄, 弘野慶次郎, 渡辺裕介, 中出雅治: 肺癌手術後, 5年以上生存例21例の検討. 第49回日本肺癌学会関西支部会, 1988. 7.

谷岡 穂, 関 庚燁, 岩垣明隆, 浦野 透, 河合正行, 福田泰樹, 栗山隆信, 関 一郎, 山本隆一: 三者併用療法 (SM, INH, REP) 中に増悪し, 経皮肺生検にて確診し得た肺結核症の1例. 第126回日本内科学会近畿地方会, 1988. 9.

陳 和夫, 越久仁敬, 北 英夫, 大塚直紀, 中出雅治, 大井元晴, 久野健志: COPD 患者における運動時 P_{O_2} の変化. 第25回日本臨床生理学会総会, 1988. 10.

福永隆文, 三嶋理晃, 川上賢三, 山岡新八, 越久仁敬, 田中肇子, 久野健志, 西村浩一, 泉 孝英: ランダム波オシレーション法を用いた安静呼吸における airway impedance の呼吸相による変化. 第25回日本臨床生理学会総会, 1988. 10.

和田晋一, 岩本暢泰, 稲井真弥, 関 庚燁, 栗山隆信: MEFV 曲線との関連からみた closing volume (CV) 検査の問題点. 第25回日本臨床生理学会総会, 1988. 10.

市谷迪雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: 術前の肺機能検査値と肺切除の合併症との関係について (高齢者と若年者との比較において). 第41回日本胸部外科学会総会, 1988. 10.

田中肇子, 福永隆文, 越久仁敬, 三嶋理晃, 久野健志, 千原幸司: 巨大ブラ症例の術前, 術後における, 肺内換気, 血流および換気血流比分布の比較検討 ($Xe-133$ 静脈内持続注入法を用いて). 第41回日本胸部外科学会総会, 1988. 10.

酒井直樹, 越久仁敬, 山岡新八, 佐川弥之助, 他3名: 肝転移再発に対して Hepatic arterial infusion を行った肺小細胞癌の1例. 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1988. 11.

前川豊行, 坪井知正, 鎌苅邦彦, 福田正悟, 土肥佳郎: 急性呼吸不全, 肝機能障害を来したマイコプラズマ肺

炎の1例。第32回日本胸部疾患学会近畿地方会，1988. 11.

宮原 亮，大塚直紀，佐藤公彦，大井元晴，三嶋理晃，陳 和夫，平井豊博，田中恵美子，久野健志：迷入動脈を伴った肺・気管支形成異常の1例。第32回日本胸部疾患学会近畿地方会，1988. 11.

前川豊行，坪井知正，鎌苅邦彦，福田正悟，土肥佳郎：臨床的に診断が困難であった肺結核症の1例。第32回日本胸部疾患学会近畿地方会，1988. 11.

前川豊行，坪井知正，鎌苅邦彦，福田正悟，土肥佳郎：急性呼吸不全，肝機能障害を来したマイコプラズマ肺炎の1例。第32回日本胸部疾患学会近畿地方会1988. 11.

橋本重樹，栗山隆信，河合正行，関 庚輝，関 一郎，折野達彦，武内郭郎，大森理代，橋口範弘，小野克己：口腔底蜂巣織炎より縦隔洞炎，両膿胸，心外膜炎に進展した1例。第32回日本胸部疾患学会近畿地方会，1988. 11.

田中嘉人，佐藤公彦，大井元晴，三嶋理晃，陳 和夫，中村吉法，久野健志：甲状腺機能低下により慢性呼吸不全の急性増悪を来し，CPAP 無効で気管切開が有効であった閉塞性無呼吸症候群の1例。第32回日本胸部疾患学会近畿地方会，1988. 11.

平林正孝，川上賢三，吉田 仁，中川正晴：非切除小細胞肺癌症例における，無治療群・軽化学療法施行群・強化学療法施行群の比較。第29回日本肺癌学会。1988. 11.

平林正孝，川上賢三，吉田 仁，中川正清：予後からみたⅢB期症例の検討。第29回日本肺癌学会，1988. 11.

弘野慶次郎，市谷勉雄，坪井裕志，西川忠男：肺葉切除後の換気シンチの検討—血流分布を中心に—。第28回日本核医学会総会，1988. 11.

市谷勉雄，弘野慶次郎，坪井裕志，渡辺裕介，中出雅治：格子肺で術前肺機能の評価が困難であった症例の肺全摘術の経験。日本赤十字社医学会総会，1988. 11.

河合正行，関 庚輝，山田勝彦，岩垣明隆，浦野 透，榎野茂樹，福田泰樹，栗山隆信：肺のローパスフィルタ特性と肺メカニクスの関係。第12回肺音（呼吸音）研究会，1988. 11.

塩川泰啓，石部裕一，福喜多邦夫，国分田理，泉 貴文，末包慶太：低血圧麻酔時の血液酸素化能—血管拡張薬の比較—。第8回臨床麻酔学会，1988. 11.

堀川禎夫，南方良章，新実彰男，鈴木雄二郎，西山秀樹，前川暢夫：経気管支肺生検で有意な所見を得たパラインフルエンザ肺炎の1例。第31回日本感染症学会中日本地方会，1988. 11.

西山秀樹，南方良章，新実彰男，堀川禎夫，鈴木雄二郎，前川暢夫：和歌山日赤における MRSA 臨床分離株の検討。第31回日本感染症学会中日本地方会，1988. 11.

杉田隆彰，麻柄達夫，西川忠男，安田隆三郎，平井正志，木村哲郎，関野 一：滋賀成人病センターでの縦隔腫瘍手術例の検討。第32回滋賀県呼吸器疾患談話会，1988. 11.

前川豊行，坪井知正，鎌苅邦彦，福田正悟，土肥佳郎：両側肺門部リンパ節腫脹及び，びまん性肺野異常陰影を呈した1例。第32回滋賀呼吸器疾患談話会，1988. 11.

杉田隆彰，安田隆三郎，西川忠男，麻柄達夫：当院における縦隔腫瘍の検討，第144回近畿外科学会，1988. 12.

中出雅治，市谷勉雄，弘野慶次郎，坪井裕志，渡辺裕介，佐々木正道：胸腔内甲状腺腫の2例。第144回近畿外科学会，1988. 12.

麻柄達夫，杉田隆彰，西川忠男，安田隆三郎：膜様部心室中隔瘤を疑わせた Tricuspid pouch の手術経験。日本循環器学会第66回近畿地方会，1988. 12.

陳 和夫，大井元晴，久野健志，平井正志，栗山隆信：両側声帯不全麻痺例の睡眠時異常呼吸に関する検討。第14回西部肺機能同好会，1988. 12.

前川豊行，福田正悟，坪井知正，鎌苅邦彦，土肥佳郎：両側肺門部リンパ節腫脹及び，びまん性肺野異常陰影を呈した1例。第177回大阪赤十字病院院内集談会，1988. 12.

平井豊博，宮原 亮，越久仁敬，陳 和夫，三嶋理晃，大井元晴，佐藤公彦，久野健志：肺クリプトコッカス症と推定された1症例。第11回京都大学胸部疾患研究所臨床生理学教室（理学呼吸器科）研究会，1988. 12.

奥井克次，杉浦直治，鍵岡 朗，稲葉宣雄，中出雅治，坪井裕志，弘野慶次郎，市谷勉雄：大阪日赤における

非定型抗酸菌症. 同上, 1988. 12.

田中嘉人, 吉田 仁, 平林正孝, 中川正清, 川上賢三: 非小細胞肺癌切除例における術前 CEA の意義に関する検討. 同上, 1988. 12.

水谷 哲, 鍵岡 均, 福井 基成, 服部 登, 北 英夫, 藤田正憲: 空洞形成を来したマイコプラズマ肺炎の1例. 同上, 1988. 12.

坪井知正, 鎌苅邦彦, 前田豊行, 福田正悟, 土肥佳郎: 呼吸不全, DIC を合併した粟粒結核症の1例. 同上, 1988. 12.

酒井直樹, 川上賢三, 越久仁敬, 佐川弥之助, 遠藤和夫, 他3名: 肝転移再発に対して hepatic arterial infusion を行った肺小細胞癌の1例. 同上, 1988. 12.

吉田 仁, 田中嘉人, 平林正孝, 中川正清, 清水慶彦, 久野健志, 川上賢三: 左主気管支原発の腺様嚢胞癌の1治験例. 同上, 1988. 12.

大成功一: 市立堺病院における小細胞癌の治療成績. 同上, 1988. 12.

佐野 求: 稀な進展様式を示した肺扁平上皮癌の1例. 同上, 1988. 12.

関野 一, 木村哲郎, 平井正志, 西川忠男, 安田隆三郎, 他3名: 長期人工呼吸および在宅人工呼吸の検討. 同上, 1988. 12.

栗山隆信: 呼吸流量に依存する closing volume の評価. 同上, 1988. 12.

吉田 仁, 田中嘉人, 平林正孝, 中川正清, 三嶋理晃, 川上賢三: RI bolus 注入による First pass 肺循環動態の検討 (第2報). 同上, 1988. 12.

石部裕一: P-Q curve による pulmonary vascular tone の評価. 同上, 1988. 12.

加藤達治: ステロイド投与中に肺内アスペルギローマが発生し, 経気道薬物注入で軽快した SLE の1症例. 同上, 1988. 12.

鎌苅邦彦, 坪井知正, 前川豊行, 福田正悟, 土肥佳郎: 横川吸虫と関連したと思われる好酸球血症の1例. 同上, 1988. 12.

山岡新八: Noninvasive Assessment of Cor Pulmonale in Patients with COPD. 同上, 1988. 12.

陳 和夫: 移植後の呼吸調節および高炭酸ガス血症をともなった呼吸不全症例の管理. 昭和63年度京都大学胸部疾患研究所学術講演会, 1989. 1.

木村哲郎, 関野 一, 平井正志, 西川忠男, 杉田隆彰, 麻柄達夫, 安田隆三郎: 気管支喘息と肺気腫の鑑別が問題となった症例. 第33回滋賀呼吸器疾患談話会, 1989.

麻柄達夫, 杉田隆彰, 西川忠男, 安田隆三郎, 平井正志, 木村哲郎, 関野 一, 松本正明: 肺犬糸状虫症の1例. 第33回滋賀呼吸器疾患談話会, 1989.

鎌苅邦彦, 坪井知正, 前川豊行, 福田正悟, 土肥佳郎: 胸部浸潤陰影高好酸球血症を呈した横川吸虫症の1例. 第33回滋賀呼吸器疾患談話会, 1989. 1.

田中嘉人, 吉田 仁, 平林正孝, 中川正清, 川上賢三: 右中間気管支原発の粘表皮癌の1例. 第50回日本肺癌学会関西支部会, 1989. 2.

吉田 仁, 田中嘉人, 平林正孝, 中川正清, 清水慶彦, 久野健志, 川上賢三: 繰り返す肺炎にて発見された, 左主気管支の腺様嚢胞癌の1例. 同上, 1989. 2.

渡辺裕介, 坪井裕志, 弘野慶次郎, 中出雅治, 市谷勉雄: 胸腺 atypical carcinoid の1例. 同上, 1989. 2.

福田泰樹, 山田勝彦, 岩垣明隆, 浦野 透, 榎野茂樹, 河合正行, 栗山隆信, 関 庚燁: 縦隔リンパ節 #3 転移は同側 (n2) か, 対側 (n3) か? —66施設, 81名のアンケートから—, 同上, 1989. 2.

陳 和夫, 平井正志, 大井元晴, 久野健志: 軽度低酸素下睡眠呼吸に関する検討. 第13回呼吸調節研究会, 1989. 2.

栗山隆信, 竹中正純, 木村文治, 篠田恵一, 増井義一, 和田晋一, 福田市蔵: 低酸素心拍数応答に対する TRH の影響. 神経ペプチドによる精神神経障害治療薬の開発研究班総会, 1989. 3.

杉田隆彰, 安田隆三郎, 西川忠男, 麻柄達夫: 滋賀成人病センターにおける腹部大動脈瘤手術症例の検討. 第28回京滋奈良循環器懇話会, 1989. 3.

杉田隆彰, 安田隆三郎, 西川忠男, 麻柄達夫: Shuford 3型右側大動脈弓に発症した解離性大動脈瘤破裂の1治験例. 第9回滋賀救急医療研究会. 1989. 3.

〔国際学会発表〕

Y. Ishibe, C. Marchall, BE. Marshall: Hypoxic Pulmonary Vasoconstriction inhibited by Lung Manipulation in Rabbits, Annual Meeting American Society of Anesthesiologists, 1988. 10, San Francisco.

Y. Ishibe, C. Marchall, BE. Marshall: Inhibition of hypoxic Constriction: Synthesis of vasodilator or Consumption of substrate, Annual Meeting American Society of Anesthesiologists, 1987. 10, Ailanta.

K. Y. Min, T. Kuriyama and M. Kawai: A Unified Analysis of the Relationship between Inertance, Compliance and Resistance in the Lungs of Normal and Diseased State Based on the Energetics, The 1st Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, 1988. 10.

M. Mishima, K. Kawakami, T. Fukunaga, S. Yamaoka, Y. Oku, E. Tanaka and K. Kuno: Comparison of the frequency characteristics of airway tissue impedances in COLD, interstitial pneumonitis and normal subjects, 1988 Annual Meeting of American Thoracic Society. 1988. 5.

M. Mishima, E. Tanaka, T. Fukunaga, Y. Oku, S. Yamaoka, K. Kawakami and K. Kuno: Regional distribution of RV/TLC and Volume of air trapped during forced expiration in normal subjects and respiratory diseased patients using Xe-133, The 1st congress of the Asian Pacific Society of Respiriology. 1988. 10.

T. Fukunaga, K. Kawakami, E. Tanaka, Y. Oku, M. Mishima, N. Asai, K. Kuno: Comparison of Airway Impedances During a Respiratory Cycle in Cold, Interstitial Pneumonitis and Normal Subject, The 54th Annual Scientific Assembly of the American College of Chest Physicians. 1988. 1.

〔誌 上 発 表〕

大井元晴, 陳 和夫, 久野健志, 平井正志: 低換気症候群. 呼吸, Vol. 7: 1038-1043, 1988.

大井元晴, 平井正志, 陳 和夫, 久野健志: 呼吸不全の病態—睡眠時呼吸異常—. 結核, Vol. 63: 54-58, 1988.

陳 和夫, 大井元晴, 久野健志, 乾 健二, 新宮 興, 瀬尾憲正: 乳酸アシドーシスの診療と治療. 呼吸と循環, Vol. 36 (6): 625-630, 1988.

石部裕一, 末包慶太, 榎田高士, 中村正人, 泉 貴文, 美濃吉峰: 低酸素性肺血管収縮反応の経時変化, 麻酔 Vol. 36 (1): 53-58, 1987.

石部裕一, 末包慶太, 中村正人, 榎田高士, 泉 貴文: 低酸素性肺血管収縮に対するハロセン吸入の影響, 麻酔 Vol. 36 (3): 356-362, 1987.

石部裕一, 末包慶太, 榎田高士, 中村正人, 泉 貴文: ハロセン局所肺吸入が低酸素性肺血管収縮反応に及ぼす影響. 麻酔 Vol. 36 (6): 890-896, 1987.

山本五十年, 澤田祐介, 上山昌史, 永松 香, 佐藤光晴, 木村謙太郎, 石部裕一: パラコート中毒初期の肺水腫の定量. 医学のあゆみ, Vol. 146 (8): 611-612, 1988.

水本明良, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 西川忠男, 岡田慶夫: 自然気胸の胸腔内持続吸引中に発生した再膨張性肺水腫の2例. 日本胸部臨床 Vol. 47 (1): 65-69, 1988.

関 庚燁, 栗山隆信, 福田泰樹, 河合正行, 貴島源一, 村尾 仁, 浦野 透, 岩垣明隆: エリスロマイシン (EM) を含む各種抗生剤治療に抵抗した慢性気道感染症に対する TE-031 の臨床効果の検討. 薬理と治療 Vol. 16: 335-347, 1988.

栗山隆信, 柴田美弥, 杉野正一, 竹中正純, 福田市蔵, 黒田健治, 茂在敏司: OPCA にみられた夜間酸素飽和度低下に対する酸素療法および TRH の影響. 神経ペプチドの基礎と臨床, 昭和62年度: 298-303, 1988.

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 渡辺裕介, 中出雅治: 格子肺で術前肺機能の評価が困難であった症例の肺全摘の経験. 日赤医学 Vol. 40 (3), 1988.

陳 和夫, 大井元晴: 肺機能測定, 人工呼吸, 泉 孝英, 宮城征四郎編. 呼吸器病レジデント・マニュアル, 医学書院, 1988.

陳 和夫, 大井元晴, 久野健志: アシドーシスの作用と反応. 太田保世, 他編, Annual Review 呼吸器 1989. 中外医学社, 1989.

P. J. Antol, M. Fujita, and R. E. Hyatt: Characteristics of tachyphylaxis to inhaled histamine in anesthetized dogs. the American Physiological Society. 1988. 1938-1943.

M. Fujita, M. A. Schroeder, and R. E. Hyatt: Canine Model of Chronic Bronchial Injury: Lung Mechanics and Pathologic Changes. Am Rev Respir Dis 1988, 137: 429-434.

Y. Ishibe, K. Scekane, M. Nakamura, T. Izumi. T. Umeda, Y. Sagawa, K. Satoh, M. Ohi: Measurement of lung Water with double indicator dilution method using heat and sodium ions in dogs, Japanese Anesthesia Journals, Review 2: 5-7, 1987.

C. Marshall, Y. Ishibe and B. E. Marshall: A. Combined In Vivo/In Vitro Small Animal Model for Studying Pulmonary Responses, Meth and Finel Exptl clin Pharmacol, 10 (1): 5-11 1988.

胸部外科学部門

〔学 会 発 表〕

シンポジウム・特別講演

人見滋樹, 千原幸司, 河原崎茂孝, 小林 淳, 清水慶彦, 室原良治: 肺切除後の右心補助. 第41回日本胸部外科学会招請講演 (1988. 10).

Hiromi Wada: Surgical Treatment of Lung Cancer in Kyoto University, Japan, The First Conference on Lung Cancer, Shanghai (1988. 11. 19).

和田洋巳, 青木 稔, 神頭 徹, 千原幸司, 田村康一, 人見滋樹: シンポー気管, 食道領域のレーザー癌治療—肺癌の Nd-YAG レザー治療, 第40回気管食道学会総会 (1988. 11. 12).

和田洋巳, 池 修, 神頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 渡部 智, 人見滋樹: パネルディスカッション—浸潤型悪性縦隔腫瘍の外科治療—成績向上のための工夫. 浸潤性胸腺腫と悪性奇形腫の治療—術前, 術後の工夫の検討, 第40回日本胸部外科学会総会 (1988. 10. 5).

田村康一, 横見瀬裕保, 池 修, 千原幸司, 青木 稔, 和田洋巳, 人見滋樹, 五十部潤, 渡部 智, 清水慶彦: 転移性肺腫瘍切除長期生存例の検討, 第5回日本呼吸器外科学会総会, シンポジウムIV (1988. 6).

光岡明夫: 肺癌の診断と治療, 西宮市医師会教育講演 (1988. 1).

光岡明夫: 縦隔腫瘍の診断と治療, 中国天津医学院招請講演 (1988. 8).

松村理司: 中・高年の慢性呼吸不全の診断と治療, 国立舞鶴病院地域医療研修センター特別講演 (1988. 8).

松原義人, 畠中陸郎, 小鯖 覚, 八木一之, 塙 健, 塩田哲広, 李 永浩, 桂 敦史, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管分岐部切除後の気道再建例の検討 (シンポジウム), 第5回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

千原幸司, 河原崎茂孝, 小林 淳, 人見滋樹, 清水慶彦: パネルディスカッション, 機械的人工呼吸法の見直し・呼吸同調型 cuirass レスピレーターの開発と臨床, 第10回人工呼吸研究会 (1988. 7).

千原幸司, 河原崎茂孝, 横見瀬裕保, 岡田賢二, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹, 中村達雄, 渡部 智, 清水慶彦, 松延政一: シンポジウム 遠隔成績からみた呼吸器外科における機能温存を計る外科治療・換気運動からみた巨大気腫性肺嚢胞症の病型分類と肺機能遠隔成績, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

Y. Shimizu: Biocompatible Materials for Soft Tissue Reconstruction, 3rd World Biomaterials Congress (1988. 4) Panel.

1. 腫 瘍

桑原正喜, 奥村典仁, 福瀬達郎, 康 天志: 気管支断端瘻 8 例の臨床的検討, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

倉田昌彦, 竹田秋郎, 瀧 俊彦, 張 謙益: 高齢者肺癌切除の長期生存例と手術適応の検討, 第 5 回呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

松井輝夫, 黄 政龍, 山下直己, 辰巳明利, 山中 晃, 北野司久: 同時性肺・肺重複癌の 1 手術例, 第49回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 7).

Akitoshi Tatsumi, Morihisa Kitano, Akira Yamanaka, Teruo Matsui, Naoki Yamashita, Seiryu Ko: Limited operation for bronchogenic carcinoma, Fifth world Conference on Lung Cancer (1988. 8).

Morihisa Kitano, Seiryu Ko, Naoki Yamashita, Teruo Matsui, Akira Yamanaka: chemosensitivity test of human lung cancer xenograft, Fifth World Conference on Lung Cancer (1988. 8).

和田洋巳, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 清水慶彦, 人見滋樹: Neoadjuvant Chemotherapy を行った N2 肺小細胞癌の 2 手術例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 3. 25).

和田洋巳, 横見瀬裕保, 青木 稔, 神頭 徹, 千原幸司, 田村康一, 人見滋樹: UFT 投与後の肺癌組織中 Thymidylate Synthase 阻害に関する検討, 第26回日本癌治療学会総会 (1988. 9. 29).

和田洋巳, 高橋 豊, 小林 淳, 福頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 渡部 智, 清水慶彦, 人見 滋樹: 肺癌の Neoadjuvant療法, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10. 27).

桑原 修, 桑原正喜, 倉田昌彦, 他 6 名: 臨床的 N2 の正確さの検討—特に肺腺癌 N2 症例に対する手術治療の Randomized controlled study を目的とした予備研究—, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

桑原正喜, 庚 天志, 有安哲哉, 奥村典仁: 肺癌患者の外来検査としての肺血管造影法 IV-DSA と PA-DSA の比較検討, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

森 隆, 桑原正喜, 倉田昌彦, 他 6 名: Adjuvant therapy-randomized controlled study-, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

祖父江友孝, 桑原正喜, 倉田昌彦, 他14名: 女性非喫煙者における受動喫煙および室内空気汚染と肺癌罹患の関係, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

山中 晃, 黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 北野司久: 転移性肺腫瘍の術後生存率に関する検討, 第 5 回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

森 隆, 桑原正喜, 倉田昌彦, 他 6 名: 肺非小細胞癌に対する術後補助療法—a randomized controlled study—, 第 5 回呼吸器外科学会 (1988. 6).

倉田昌彦, 竹田秋郎, 張 謙益, 瀧 俊彦: 機能温存を計った肺癌外科治療例の成績, 第31回日本胸部疾患外科学会関西地方会 (1988. 6).

高井晶子, 倉田昌彦, 瀧 俊彦, 竹田秋郎, 他 1 名: 2, 3 の呼吸器疾患の喀痰気管支肺胞洗浄液中の微生物と Lysozyme 活性について, 日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 6).

瀧 俊彦, 張 謙益, 岡田賢二, 竹田秋郎, 倉田昌彦: 中葉原発肺癌の予後 (中葉切除の適応について), 第 41 回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

竹田秋郎, 張 謙益, 岡田賢二, 瀧 俊彦, 倉田昌彦, 妊娠期乳癌の 3 例, 第144回近畿外科学会 (1988. 10).

橋平 誠, 長谷川誠紀, 宮本好博: 第48回日本肺癌学会関西支部会, 気管・気管支カルチノイドの 2 切除例 (1988. 2).

長谷川誠紀, 橋平 誠, 宮本好博: 第 5 回呼吸器外科学会総会, 当院における胸壁合併切除例の検討 (1988. 6).

長谷川誠紀, 橋平 誠, 宮本好博: 第31回日本胸部外科学会関西地方会, 再発喉頭癌に対し Anterior Mediastinal Tracheostomy を行なった一例 (1988. 6).

神頭 徹, 乾 健二, 横見瀬裕保, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹: Neo-Adjuvant Chemotherapy を行なった N2 肺小細胞癌の 2 例, 第49回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 7).

高橋 豊, 佐坂徳浩, 花岡伸治, 小林 淳, 神頭 徹, 千原幸司, 中村達雄, 青木 稔, 田村康一, 渡部 智,

和田洋巳, 人見滋樹: 肺に結節病変を伴った Immunoblastic lymphadenopathy (IBL) と思われた T zone lymphoma の1例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 12).

高橋 豊, 小林 淳, 神頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹: Ⅲ期腺癌の手術例の検討, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

田村康一, 小林 淳, 高橋 豊, 神頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 和田 洋巳, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 転移性肺腫瘍に対する複数回手術例の検討, 第49回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 7).

福瀬達郎, 庚 天志, 奥村典仁, 桑原正喜, 他1名: 原発性肺癌内に骨組織を認めた1例, 第48回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 2).

田中文啓, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 高齢者神経鞘腫の1切除例, 第53回日本胸部疾患学会東海地方会 (1988. 5. 22).

山下直己, 黄 政龍, 松井輝夫, 山中 晃, 辰巳明利, 北野司久: 胸部レ線に無所見であった肺扁平上皮癌の1手術例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11).

松井輝夫, 黄 政龍, 山下直己, 辰巳明利, 山中 晃, 北野司久: 気管支カルチノイドの2切除例, 第144回近畿外科学会 (1988. 12).

竹田秋郎, 瀧 俊彦, 他1名: 肺原発と考えられた malignant fibrous histiocytoma の1例, 第48回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 2).

山下直己, 北野司久, 辰巳明利, 山中 晃, 松井輝夫, 黄 政龍: 非小細胞肺癌術後 adjuvant 化学療法の検討, 第5回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

寺町政美, 田中文啓, 江崎 寛, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 微小肺内転移を伴った腺癌の1例, 第52回中部肺癌学会 (1988. 7. 2).

白木 硬, 加藤達雄, 西尾 斉, 加藤正孝, 森 厚, 山口正人, 上村博幸, 田中文啓, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 当院における集検発見肺癌症例の検討, 第26回岐阜県肺癌研究会 (1988. 7. 30).

源河圭一郎, 川畑 勉, 前里和夫, 他8名: 肺門部早期扁平上皮癌の治療と問題点, 第29回日本肺癌学会, 福岡 (1988).

久場睦夫, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 宮国泰夫, 嘉数朝一, 大城盛夫, 川畑 勉, 前里和夫, 国吉真行, 石川清司, 源河圭一郎: 原発性肺癌における糖鎖抗原シアリル SSEA-1 抗原の臨床的検討, 第29回日本肺癌学会, 福岡 (1988).

伊志嶺恒彦, 山内和雄, 上原力也, 川畑 勉, 国吉真行, 石川清司, 前里和夫, 源河圭一郎: 転移性脊椎腫瘍の治療経験, 第43回国立病院療養所総合医学会 (1988. 11).

川畑 勉, 前里和夫, 国吉真行, 石川清司, 源河圭一郎: 分岐異常気管支の支配領域に発生した肺腫瘍3例, 第5回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

川畑 勉, 前里和夫, 国吉真行, 石川清司, 源河圭一郎: 良性限局性胸膜中皮腫の2手術例, 第21回日本胸部外科学会九州地方会 (1988. 8).

林 豊, 笠松紀雄, 河野俊彦, 大和田英美, 長尾啓一, 喜屋武邦雄, 君塚五郎, 源河圭一郎, 他2名: 肺癌例の肺組織の病理学的変化—沖縄の症例における所見—第29回日本肺癌学会, 福岡 (1988).

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 前里和夫, 川畑 勉, 嘉数朝一, 宮国泰夫, 宮城 茂, 久場睦夫, 仲宗根恵俊, 大城盛夫: 肺門部早期肺癌切除例の臨床的検討, 第28回肺癌学会九州地方会 (1988. 7).

源河圭一郎: Randomized trial の進行状況, 厚生省がん研究助成金指定研究 (62指-1)「固形がんの集学的治療の研究」肺がん外科グループ班会議 (1988. 3).

源河圭一郎, 川畑 勉, 前里和夫, 国吉真行, 石川清司: シンポジウム「高齢者肺癌治療の問題点」, 超高齢者 (80歳以上) 肺癌治療の問題点, 第21回日本胸部外科学会九州地方会 (1988. 8).

久場睦夫, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 宮国泰夫, 嘉数朝一, 大城盛夫, 川畑 勉, 前里和夫, 国吉真行, 石川清司, 源河圭一郎: 肺癌におけるシアリル SSEA-1 抗原 (SLX) の臨床的検討, 第28回日本肺癌学会九州地方会, 宮崎 (1988).

川畑 勉, 上原力也, 前里和夫, 国吉真行, 石川清司, 山内和雄, 源河圭一郎: 両側肺切除術を施行した肺多

発癌3例, 第25回九州外科学会 (1988. 6).

川畑 勉, 前里和夫, 国吉真行, 石川清司, 源河圭一郎: 発見動機からみた肺門部早期肺癌, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

川畑 勉, 前里和夫, 国吉真行, 石川清司, 源河圭一郎: 右上幹入口部に発生した mucoepidermoid carcinoma の1例, 第11回九州気管支研究会 (1988. 11).

前里和夫, 川畑 勉, 国吉真行, 石川清司, 山内和雄, 源河圭一郎, 嘉数朝一, 宮国泰夫, 宮城 茂, 久場睦夫, 仲宗根恵俊, 大城盛夫: 気管支形成を行った同時性肺多発癌の2手術例, 第23回日本胸部疾患学会九州地方会 (1988. 11).

久場睦夫, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 宮国泰夫, 嘉数朝一, 大城盛夫, 川畑 勉, 前里和夫, 国吉真行, 石川清司, 源河圭一郎: 肺癌におけるシアリル SSEA-1 抗原 (SLX) の臨床的検討, 第28回肺癌学会九州地方会 (1988. 7).

上田哲也, 光岡明夫, 他11名: 胸部転移ゼミノーマ (睾丸腫瘍) の1症例, 第48回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 2).

寺下一弥, 宮本 巍, 光岡明夫, 他8名: Clagett 変法により治癒しえた肺全摘術後有癭性膿胸の1例, 第143回近畿外科学会 (1988. 5).

青木 稔, 人見滋樹, 和田洋巳, 田村康一, 千原幸司, 神頭 徹, 高橋 豊, 小林 淳: 気管〜左主気管支に浸潤した食道癌転移縦隔リンパ節に対するリンパ節郭清, 第2回肺癌手術手技研究会 (1988. 12).

青木 稔, 神頭 徹, 千原幸司, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹: 肺小細胞癌の外科療法の役割, ワークショップ—肺小細胞癌の放射線療法と外科療法の役割—, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

青木 稔, 高橋 豊, 小林 淳, 横見瀬裕保, 神頭 徹, 千原幸司, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹: びまん性胸膜中皮腫の一切除例, 第49回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 7).

糸井和美, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 転移性肺腫瘍症例の検討, 肺癌学会総会 (1988. 10).

糸井和美, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 若年者肺癌の検討, 中部肺癌学会 (1988. 11).

青木 稔, 植田 充宏, 横見瀬裕保, 岡田賢二, 千原幸司, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹, 中村達雄, 渡部 智, 清水慶彦: 胸膜肺全摘除術を施行したびまん性胸膜中皮腫の2例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

青木 稔, 岡田賢二, 千原幸司, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: III期小細胞癌における Neoadjuvant Chemotherapy の意義, 第5回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

渡部 智, 横見瀬裕保, 中村達雄, 岡田賢二, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 清水慶彦, 人見滋樹: 高齢者肺癌手術適応と合併症, 第5回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

渡部 智, 小林 淳, 高橋 豊, 中村達雄, 神頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 清水慶彦, 人見滋樹: 高齢者 (70歳以上) 肺癌手術症例の検討, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10.).

寺松 孝: 肺癌に対する randomized controlled trial による補助化学療法の検討, 第28回日本肺癌学会総会 (1987. 11).

入江利明, 宮本 巍, 光岡明夫, 光岡明夫, 人見滋樹, 他10名: 術後遠隔期に対側鎖骨上窩に生じた単発性転移巣に対して摘出術を行なった肺巨細胞癌の一例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

李 永浩, 塩田哲広, 塙 健, 榎堀 徹, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌における IRMA 法による血清 TPA 値の検討, 第48回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 2).

塩田哲広, 李 永浩, 塙 健, 榎堀 徹, 八木一之, 小鯖 覚, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄, 他3名: 肺癌患者におけるシアリル SSEA-1 抗原の臨床的検討, 第48回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 2).

塙 健, 石田久雄, 桂 敦史, 塩田哲広, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 術後にホルネル症候群および上肢不全麻痺をきたした胸壁神経鞘腫の1切除例, 第144回近畿外科学会 (1988. 12).

倉田昌彦, 竹田秋郎, 岡田賢二, 張 謙益, 瀧 俊彦, 他2名: 肺癌患者における血清 FH-6 の臨床的意義, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

瀧 俊彦, 張 謙益, 岡田賢二, 竹田秋郎, 倉田昌彦: 肺癌患者における血清 CA 125 の意義, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

石田久雄, 桂 敦史, 塩田哲広, 塙 健, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 肋骨原発骨巨細胞腫の1切除例, 第144回近畿外科学会 (1988. 12).

石田久雄, 八木一之, 畠中陸郎, 桂 敦史, 塩田哲広, 塙 健, 小鯖 覚, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 気管内過誤腫の1例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11).

鐸田利恵子, 渡部 智, 人見滋樹, 他5名: 放射線療法後, 右上葉胸壁合併切除術にて良好な経過をとった Pancoast tumor の1例, 第48回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 2).

塩田哲広, 松原義人, 池田貞雄, 石田久雄, 桂 敦史, 塙 健, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 船津武志: 肺癌におけるシアリル SSEA-1 抗原の意義, 第2回近畿腫瘍糖鎖研究会 (1988. 11).

塙 健, 桂 敦史, 李 永浩, 塩田哲広, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 若年者肺癌29例の臨床的検討, 第50回日本臨床外科医学会総会 (1988. 11).

和澤 仁, 中村聡人, 清谷哲也, 小林淳, 玉田二郎: 当院における非小細胞肺癌 N2 症例の検討, 第5回日本呼吸器外科学会 (1988. 6).

清谷哲也, 中村 聡人, 和澤 仁, 小林 淳, 玉田二郎: 胸壁原発と考えられた悪性線維性組織球腫の1切除例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

中村聡人, 清谷哲也, 福瀬達郎, 和澤 仁, 玉田二郎: 当科における40才未満若年者肺癌症例の検討, 第27回日本肺癌学会中国四国支部会 (1988. 7).

玉田二郎, 中村聡人, 清谷哲也, 福瀬達郎, 和澤 仁: 左 S⁶ 区域切除に左下幹管状切除端々吻合術を併用した Severe dysplasia の1例, 第27回日本肺癌学会中国四国支部会 (1988. 7).

池田貞雄, 松原義人: 肺クリプトコックス症の血清学的診断—血清中の抗原と抗体の検索—, 第35回日本臨床病理学会総会 (1988. 10).

池田貞雄, 石田久雄, 桂 敦史, 李 永浩, 塩田哲広, 塙 健, 八木一之, 小鯖 覚, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志: 肺癌の再燃様式の分析—切除後再発例について—, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

松原義人, 塩田哲広, 塙 健, 桂 敦史, 小鯖 覚, 石田久雄, 八木一之, 畠中陸郎, 船津武志, 池田 貞雄: 肺癌における腫瘍マーカー CA130, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

塩田哲広, 池田貞雄, 桂 敦史, 李 永浩, 塙 健, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志: 肺癌組織におけるシアリル SSEA-1 抗原の局在性の検討, 第49回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 7).

船津武志, 石田久雄, 桂 敦史, 塩田哲広, 塙 健, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 松原義人, 池田貞雄: CT と縦隔鏡検査による肺癌の縦隔リンパ節転移の診断, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

塙 健, 石田久雄, 桂 敦史, 塩田哲広, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: T4 肺癌の手術成績, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

辰巳明利, 北野司久, 山中 晃, 松井輝夫, 山下直己, 黄 政龍: 原発性肺癌に対する Limited operation, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

山中 晃, 黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 北野司久: 肺癌における CEA, CA 19-9, Ferritin の臨床的意義, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

塩田哲広, 李 永浩, 池田貞雄, 松原義人: 肺癌における TPA の意義—免疫組織学的検討を中心に—, 第8回腫瘍マーカー研究会 (1988. 9).

塩田哲広, 池田貞雄, 松原義人: 肺癌におけるシアリル SSEA-1 抗原の意義, 第47回日本癌学会総会 (1988. 9).

池田貞雄, 塩田哲広, 李 永浩, 塙 健, 桂 敦史, 小鯖 覚, 八木一之, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志: 肺癌患者におけるシアリル SSEA-1 抗原, 第26回日本癌治療学会総会 (1988. 9).

松原義人, 塩田哲広, 李 永浩, 塙 健, 桂 敦史, 小鯖 覚, 八木一之, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志,

池田貞雄：肺癌患者における新しい腫瘍マーカー CA 130 の臨床的検討，第26回日本癌治療学会総会（1988. 9）。

李 永浩，桂 敦史，塩田哲広，塙 健，八木一之，小鯖 寛，畠中陸郎，松原義人，二宮和子，船津武志，池田貞雄：胸壁脂肪腫の1切除例，第143回近畿外科学会（1988. 5）。

八木一之，李 永浩，塩田哲広，塙 健，榎堀 徹，小鯖 寛，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：中葉原発肺癌開胸例の検討，第48回日本肺癌学会関西支部会（1988. 2）。

松原義人，船津武志，畠中陸郎，塙 健，榎堀 徹，塩田哲広，李 永浩，小鯖 寛，二宮和子，池田貞雄：肺癌外科治療における縦隔鏡検査の意義，第88回日本外科学会総会（1988. 4）。

桂 敦史，八木一之，松原義人，李 永浩，塩田哲広，塙 健，小鯖 寛，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：肺癌の手術中における胸管損傷の2例，第49回日本肺癌学会関西支部会（1988. 7）。

塙 健，桂 敦史，李 永浩，塩田哲広，八木一之，小鯖 寛，畠中陸郎，松原義人，二宮和子，船津武志，池田貞雄：肺癌における胸膜肺切除例の検討，第49回日本肺癌学会関西支部会（1988. 7）。

八木一之，桂 敦史，李 永浩，塩田哲広，塙 健，小鯖 寛，二宮和子，畠中陸郎，松原義人，船津武志，池田貞雄：CT と縦隔鏡検査による肺癌の縦隔リンパ節転移の術前評価，第5回日本呼吸器外科学会総会（1988. 6）。

池田貞雄，李 永浩，桂 敦史，塩田哲広，塙 健，八木一之，小鯖 寛，二宮和子，畠中陸郎，松原義人，船津武志，肺癌における拡大手術—Ⅳ期肺癌の手術成績，第5回日本呼吸器外科学会総会（1988. 6）。

二宮和子，松原義人，船津武志，李 永浩，塙 健，小鯖 寛，塩田哲広，榎堀 徹，八木一之，畠中陸郎，池田貞雄：間質性肺炎に合併した肺癌8例の検討，第28回日本胸部疾患学会総会（1988. 4）。

塙 健，桂 敦史，李 永浩，塩田哲広，八木一之，小鯖 寛，畠中陸郎，松原義人，二宮和子，船津武志，池田貞雄：高齢者肺癌の手術成績，第5回日本呼吸器外科学会総会（1988. 6）。

原 裕，宮本 巍，光岡明夫，他2名：悪性黒色腫の両側性肺転移の1手術例，49回日本肺癌学会関西支部会（1988. 7）。

カレッド・レシャード，山田 隆，平田敏樹，八木 健，室 恒太郎，糸井和美，秋山仁一郎：良性悪性疾患における胸水 CA-19-9 の臨床的意義，肺癌学会総会（1988. 10）。

伊藤元彦：肺腺癌の細胞亜型分類と細胞診，日本臨床細胞学会ワークショップ（1988. 12）。

伊藤元彦，三宅正幸，神奈木玲児：胸部腫瘍における GM₂ ganglioside の腫瘍マーカーとしての可能性，第29回日本肺癌学会総会（1988. 10）。

平井 隆，伊藤元彦，安倍隆二，小原幸信：アミラーゼ産生肺癌の1例，第49回日本肺癌学会関西支部会（1988. 7）。

安岡高志，宮本 巍，光岡明夫，他5名：転移性肺腫瘍の外科治療法に関する臨床的検討，第29回日本肺癌学会総会（1988. 10）。

乾 健二，横見瀬裕保，岡田賢二，千原幸司，青木 稔，田村康一，和田洋巳，人見滋樹：診断困難であった肺膿瘍合併肺癌の1切除例，第48回日本肺癌学会関西地方会（1988. 2. 27）。

山下直己，黄 政龍，松井輝夫，山中 晃，辰巳明利，北野司久：肺癌における制癌剤感受性試験，第48回日本肺癌学会関西支部会（1988. 2）。

山中 晃，黄 政龍，山下直己，松井輝夫，辰巳明利，北野司久：粘表皮癌の3症例，第48回日本肺癌学会関西支部会（1988. 2）。

大野暢宏，磯和理貴，橋本 徹，武藤 真，長谷光雄，高嶋義光：悪性胸膜中皮腫と鑑別を要した肺癌の1例，第22回日本肺癌学会北陸地方会（1988. 7）。

玉田二郎：気管の病変…腺様嚢胞癌を中心に，第31回岡山胸部疾患懇話会（1988. 3）。

志田原俊城，小阪真二，宮本信昭，他3名：癌性心嚢炎の治療経験，第41回高知県医師会医学会（1988. 8）。

林 道廣，小阪真二，宮本信昭，他3名：悪性限局型胸膜中皮腫の1例，第41回高知県医師会医学会（1988. 8）。

山中 晃，黄 政龍，山下直己，松井輝夫，辰巳明利，北野司久：転移性肺腫瘍の術後生存率に関する検討，第5回日本呼吸器外科学会総会（1988. 6）。

岡田英彦, 浜本康平, 河原崎茂孝, 橋本圭司, 谷口隆司, 中島道郎: 左肺上葉切除後, 特異なリンパ節転移を来した1肺癌症例, 第48回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 2).

小阪真二, 井上寛治, 宮本信昭, 他6名: Granular cell tumor の1例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

小林 淳, 千原幸司, 佐坂徳浩, 花岡伸治, 高橋 豊, 中村達夫, 神頭 徹, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 前方経路により切除した肺尖部胸壁浸潤肺癌の1例, 第144回近畿外科学会 (1988. 12).

山中 晃, 黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 北野司久: 粘表皮癌の3症例, 第48回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 2).

山中 晃, 黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 北野司久: 肺癌における CEA, CA19-9, Ferritin の臨床的意義, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

小阪真二, 井上寛治, 宮本信昭, 他6名: 良性肺腫瘍の検討, 第5回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

カレッド・レシャード: 肺癌と肺結核の病態について, 医師会講演 (1988. 10).

カレッド・レシャード: 肺癌と検診について, 旭町市民健康講座 (1988. 10).

カレッド・レシャード: 肺癌の発見における健康診断の必要性について, 市民健康講座 (1988. 11).

鈴木 清, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: Immunoradimetric Assay における TPA 測定について, 中部肺癌学会 (1988. 7).

鈴木 清, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 肺癌における腫瘍マーカーの臨床的評価, 静岡県癌治療研究会 (1988. 6).

鈴木 清, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 肺癌における血清, 胸水中の CA 19-9 値, 中部肺癌学会 (1988. 11).

平田敏樹, 山田 隆, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 肺内脂肪腫の1例, 中部肺癌学会 (1988. 11).

李 美於, 李 民実, 生島宏彦, 他3名: 診断が困難であった食道平滑筋腫の1例, 第144回近畿外科学会 (1988. 12).

室 恒太郎, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 胸壁合併切除肺癌11例の検討, 日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 5).

室 恒太郎, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 転移性肺腫瘍症例の検討, 中部肺癌学会 (1988. 7).

2. 胸腺・免疫

伊藤元彦: リンパ球サブセットからみた胸腺腫の分類, 厚生省がん研究助成金によるワークショップ“胸腺腫の分類” (1988. 2).

平井 隆, 伊藤元彦, 安倍隆二, 森 史よ, 太田光熙, 瀧 俊彦, 倉田昌彦: 胸腺腫における自己抗体の検討—抗筋抗体の胸腺腫診断における意義に関して—(第一報), 第5回日本呼吸器外科学会 (1988. 6).

平井 隆, 伊藤元彦, 安倍隆二: 2個の腫瘍が認められた重症筋無力症合併胸腺腫の1例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

和田洋巳, 池 修, 岡田賢二, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 人見滋樹: 悪性縦隔腫瘍の外科療法, 第5回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6. 11).

光岡明夫, 他9名: 縦隔成熟奇形腫摘出後に卵黄嚢腫が残存していることが判明した1症例, 第7回胸腺研究会 (1988. 6).

秋口一郎, 松井 真, 福山秀直, 和田洋巳: 重症筋無力症患者の胸腺摘除術後の長期予後と免疫学的パラメーター: 特に CD4⁺, CD8⁺, 昭和63年厚生省特定疾患免疫性神経疾患調査研究班 (1988. 12).

倉田昌彦, 瀧 俊彦, 竹田秋郎, 張 謙益, 岡田賢二, 他2名: 重症筋無力症に対するステロイド・胸腺摘除併用療法の成績, 第7回胸腺研究会 (1988. 6).

山中 晃, 黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 北野司久: 縦隔に発生した嚢腫の臨床的検討, 第28回

日本胸部疾患学会総会 (1988. 4).

山中 晃, 黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 北野司久: 無気肺が疑われた肥大胸腺の 1 例. 第 7 回胸腺研究会 (1988. 6).

桑原正喜, 福瀬達郎, 奥村典仁, 康 天志, 小林 淳, 岡田賢二: 前縦隔病変に対する新しい生検法の手技と成績, 第 5 回日本呼吸器外科学会 (1988. 6).

山中 晃, 黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 北野司久: 縦隔に発生した嚢腫の臨床的検討, 第 28 回日本胸部疾患学会総会 (1988. 4).

塙 健, 小鯖 覚, 李 永浩, 塩田哲広, 榎堀 徹, 八木一之, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 上大静脈再建を行った悪性胸腺腫の 1 手術例, 第 48 回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 2).

伊藤元彦, 安倍隆二, 平井 隆, 太田光熙, 藤村重文: いわゆる “post-thymectomy myasthenia gravis” の検討, 第 41 回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

原 裕, 宮本 巍, 光岡明夫, 他 10 名: 当科における胸腺関連腫瘍の外科治療, 第 5 回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

高橋 豊, 渡部 智, 佐坂徳浩, 花岡伸治, 小林淳, 神頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹: 後縦隔に発生した 6 椎体長の ganglioneuroma の 1 切除例, 第 144 回近畿外科学会 (1988. 12).

塙 健, 桂 敦史, 李 永浩, 塩田哲広, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 巨大な食道平滑筋腫の 1 切除例, 第 143 回近畿外科学会 (1988. 5).

平井 隆, 伊藤元彦, 安倍 隆二, 森 史よ, 太田光熙, 瀧 俊彦, 倉田昌彦: 胸腺腫における自己抗体の検討—抗筋抗体の胸腺腫診断における意義に関連して—, 第 43 回国立病院療養所総合医学会 (1988. 11).

国吉真行, 池間 稔, 宮国孝彦, 川畑 勉, 上原力也, 前里和夫, 石川清司, 山内和雄, 源河圭一郎, 他 2 名: 上大静脈再建術にて切除し得た胸腺の扁平上皮癌症例, 第 21 回日本胸部外科学会九州地方会 (1988. 8).

高橋 豊, 青木 稔, 石田久雄, 小林 淳, 神頭 徹, 千原幸司, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹: 特異な形状の内容物をもった嚢胞状奇形腫の 1 切除例, 第 49 回日本肺癌学会関西支部会 (1988. 7).

伊藤元彦: 縦隔腫瘍の画像診断, 西山医師会 (1988. 2).

伊藤元彦: 「縦隔腫瘍」, 肺癌診断会 (1988. 8).

桑原正喜, 奥村典仁, 有安哲哉, 康 天志他 1 名: 前縦隔より発生した巨大奇形腫の 1 手術例, 第 144 回近畿外科学会 (1988. 12).

塩田哲広, 桂 敦史, 李 永浩, 塙 健, 八木一之, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 食道平滑筋腫の 6 例, 第 31 回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 山中 晃, 辰巳明利, 北野司久: 胸腺嚢腫の一治験例, 第 32 回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11).

井上孝史, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 吉谷 信, 大久保憲一, 植田充宏, 秋山文弥: 気道圧迫症状を呈した胸腺嚢腫の一例, 静岡県, 外科医会第 146 回集談会 (1988. 6.).

塩田哲広, 池田貞雄, 石田久雄, 桂 敦史, 塙 健, 八木一之, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志: 縦隔ドレナージにより治癒した縦隔ガス壊疽の一例, 第 32 回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11).

3. 結 核

佐坂徳浩, 渡部 智, 花岡伸治, 高橋 豊, 小林 淳, 神頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹: 有茎性大網移植片充填による術後気管支瘻閉鎖術の 2 例, 第 144 回近畿外科学会 (1988. 12).

渡部 智, 石田久雄, 横見瀬裕保, 中村達雄, 神頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 清水慶彦, 人見滋樹, 他 2 名: 有茎性大網移植片充填による膿胸気管支瘻閉鎖術及び閉鎖後気管支粘膜の血流測定, 第 41 回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

山中 晃, 黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 北野司久: 気管支結核の 2 治験例, 第 11 回日本気管支学会総会 (1988. 5).

武藤 真, 磯和理貴, 橋本 徹, 大野暢宏, 長谷光雄, 高嶋義光: 初診時より気管狭窄を呈していた5例の治療経験, 第11回日本気管支学会総会 (1988. 5).

和田洋巳, 岡田賢二, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 人見滋樹: 有癭性膿胸の問題点, 第63回日本結核病学会総会 (1988. 6. 2).

山下直己, 黄 政龍, 松井輝夫, 山中 晃, 辰巳明利, 北野司久, 他2名: 有癭性慢性膿胸に対する有茎性大網充填術の臨床経験, 第143回近畿外科学会 (1988. 5).

カレッド・レシャード, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎: 結核性気管支病変の内視鏡所見と外科療法の相関について, 日本気管支学会総会 (1988. 5).

千原幸司, 植田充宏, 石田久雄, 横見瀬裕保, 中村達雄, 岡田賢二, 青木 稔, 田村康一, 渡部 智, 和田洋巳, 人見滋樹, 田中瑩子, 三嶋理見, 久野健志: 肋膜外合成樹脂球充填術後膿胸の一治験例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

江崎 寛, 田中文啓, 寺町政美, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美, 白木 硬, 上村博幸: 特異な経過を示した急性膿胸の1例, 第21回東海呼吸器感染症研究会 (1988. 1. 30).

辰巳明利, 北野司久: 肺結核に起因する有癭性慢性膿胸に対する有茎性大網充填術の適応について, 第63回日本結核病学会 (1988. 6).

鈴木 清, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 肺結核化学療法に伴う急性反応物質の経時的変化について, 日本結核病学会東海地方会 (1988. 11).

カレッド・レシャード: 当地域において肺結核が多いのはなぜか, その背景因子と対策, 静岡県保健婦会 (1988. 11).

平田敏樹, 山田 隆, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 肺結核に合併した肺癌の臨床的検討, 日本結核病学会総会 (1988. 6).

平田敏樹, 山田 隆, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 気管支結核に対する外科療法, 静岡県外科医会 (1988. 6).

平田敏樹, 山田 隆, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 肺癌に合併した肺結核の臨床的検討, 東海感染症研究会 (1988. 10).

室 恒太郎, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 当科における肺真菌症とその手術例の検討, 静岡県外科医会 (1988. 9).

室 恒太郎, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 当科における肺真菌症の検討, 日本胸部疾患学会東海地方会 (1988. 11).

李 美於, 李 民実, 生島宏彦, 千原幸司, 他1名: 結核性肺空洞の穿孔による高齢者膿胸の一手術例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11).

平井 隆, 安倍隆二, 伊藤元彦, 生島宏彦: 最近10年間の慢性膿胸手術例の検討, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

山中 晃, 黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 北野司久: 気管支結核の2治験例, 第11回日本気管支学会総会 (1988. 5).

土居裕幸, 小阪真二, 他3名: M. Kansaii の1治験例, 第41回高知県医師会医学会 (1988. 8).

桂 敦史, 石田久雄, 塩田哲広, 塙 健, 八木一之, 小鯖 寛, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 膿胸を併発した自然気胸の3例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11).

小鯖 寛, 石田久雄, 桂 敦史, 塩田哲広, 塙 健, 八木一之, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 横隔膜を穿孔した全摘後膿胸の一手術例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11).

4. 人工材料

田村康一, 清水慶彦, 河原崎茂孝, 人見滋樹, 他3名: Ethoxyethylcyanoacrylate の外科用接着剤としての応用—増粘効果と in vivo における接着強度—, 第26回日本人工臓器学会 (1988. 9).

田村康一, 河原崎茂孝, 池 修, 人見滋樹, 五十部潤, 水野 浩, 清水慶彦, 他3名: ヘパリン化 poly-

urethane の静脈用人工血管への応用に関する基礎的研究, 第26回日本人工臓器学会 (1988. 9).

田村康一, 高橋 豊, 小林 淳, 池 修, 神頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 和田洋巳, 人見滋樹, 五十部潤, 中村達雄, 渡部 智, 河原崎茂孝, 他 3 名: 新しい医療用接着剤の呼吸器外科領域への応用——基礎的・実験的検討——, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

渡部 智, 中村達雄, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 清水慶彦, 人見滋樹: ハイドロキシアパタイト含有ポリ乳酸ピンを用いて整復固定を行った小児胸骨骨折の 1 例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

清水慶彦, 平井圭一, 日野常稔: 合成高分子材料埋植による発癌と collagen 被覆による発癌抑制, 第26回日本人工臓器学会 (1988. 9).

平井圭一, 清水慶彦: 高分子化合物埋入による発癌誘導と collagen 被覆による発癌抑制, 第44回日本電子顕微鏡学会 (1988. 6).

清水慶彦: 医用高分子の現状と将来, 第25回次代の高分子研究者のための講演, 見学会 (高分子学会) (1988. 11).

Tamura K, Kawarasaki S, Hitomi S, Shimizu Y,: NEW TYPE OF POLYURETHANE TUBE FOR ARTIFICIAL VASCULAR GRAFT, 3rd World Biomaterials Congress. (1988, April.) Kyoto.

Tamura K, Kawarasaki S, Isobe J, Ike O, Hitomi S, Shimizu Y,: New Type of Polyurethane Tube Applied for Small Diameter Vascular Prostheses, XVth Congress of The European Society for Artificial Organs, (1988, July.) Prague.

S. Watanabe, O. Ike, T. Nakamura, Y. Shimizu et al.: Surface modification of synthetic polymer materials for medical application: Addition of biocompatible and bioactive surface, The Third World Biomaterials Congress (1988. 4.).

松井輝夫, 黄 政龍, 山下直巳, 辰巳明利, 山中 晃, 北野司久: ポリ乳酸ストラットを用いた漏斗胸に対する胸骨挙上術23例の検討, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

池 修, 渡部 智, 夏目 徹, 和田良一, 玄 丞然, 筏 義人, 人見滋樹, 清水慶彦: P815 腫瘍細胞に対するアドリアマイシン. ポリL乳酸マイクロスフェアの使用, 第4回日本 DDS 学会 (1988. 7).

池 修, 渡部 智, 夏目 徹, 和田良一, 玄 丞然, 筏 義人, 人見滋樹, 清水慶彦: P815 腫瘍細胞に対するアドリアマイシン. ポリL乳酸マイクロスフェアの使用, 第26回日本癌治療学会総会 (1988. 9).

池 修, 渡部 智, 夏目 徹, 和田良一, 玄 丞然, 筏 義人, 人見滋樹, 清水慶彦: 癌性胸膜炎患者に対するアドリアマイシン. ポリL乳酸マイクロスフェアの使用, 第29回日本肺癌学会総会 (1988. 10).

辰巳明利, 黄 政龍, 山下真巳, 松井輝夫, 山中 晃, 北野司久: 合成樹脂充填術後32年目に発症した有癭性膿胸に対する有茎性大網の使用経験, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

O. Ike, Y. Shimizu, T. Natsume, S. Hitomi, T. Okada, Y. Ikada: EXPERIMENTAL STUDIES ON AN ARTIFICIAL ESOPHAGUS USING A COLLAGEN COATING SILICONE TUBE, 3RD WORLD BIOMATERIALS CONGRESS (1988. 4).

池 修, 清水慶彦, 岡田敏行, 夏目 徹, 渡部 智, 人見滋樹, 筏 義人: 新生食道の再生を目指したコーラーゲン被覆シリコン人工食道の検討, 第26回日本人工臓器学会総会 (1988. 9).

池 修, 清水慶彦, 岡田敏行, 夏目 徹, 渡部 智, 人見滋樹, 筏 義人: コラーゲンをを用いた人工食道の検討, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

黄 政龍, 山下直巳, 松井輝夫, 辰巳明利, 山中 晃, 北野司久: 両側気胸の一期的手術に胸骨正中切開におけるポリ乳酸胸骨接合ピンを使用した一症例, 第143回近畿外科学会 (1988. 5).

乾 健二, 千原幸司, 河原崎茂孝, 人見滋樹, 清水慶彦, 他 3 名: 体外陰圧式人工呼吸器の使用経験, 第15回集中治療医学会総会 (1988. 2. 25).

松原義人, 塩田哲広, 塙 健, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 李 永浩, 桂 敦史, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: ポリエチレン・メッシュによる胸壁再建術, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

Ikeda S., Matsubara Y., Kosaba S., Yagi K., Hatakenaka R and Funatsu T.: Prosthetic reconstruction of trachea and bifurcation in patients with lung cancer, The Fifth World Conference on lung Cancer (1988.8).

5. 心・血管

江崎 寛, 田中文啓, 寺町政美, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美, 西尾 齊, 山口正人, 上村博幸: 胸成術後低肺機能の AC バイパスの 1 例, 第37回国立療養所循環器疾患研究会 (1988. 11. 10).

伊東政敏, 田中文啓, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 小林君美: 血液カルディオプレジアによる心筋保護の経験, 第43回国立病院療養所総合医学会 (1988. 11. 11).

小阪真二, 宮本信昭, 他 1 名: 試験開胸時偶然発見された小弓部大動脈瘤の 1 治験例: 日本循環器学会中国四国地方会第53回総会 (1988. 11).

西山誠一, 井上寛治, 他 8 名: 経皮的動脈弁形成術が有効であった高齢者の石灰化を伴う大動脈弁狭窄症の 1 例, 日本循環器学会中国四国地方会第53回総会 (1988. 11).

吉岡 廣, 宮本信昭, 他 4 名: MRI により経過観察された解離性大動脈瘤の 2 例, 日本循環器学会中国四国地方会第53回総会 (1988. 11).

井上寛治: バルーン治療はどこまで手術に代わり得るか?, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

生藤博行, 井上寛治, 宮本信昭, 他 7 名: カラードップラー法により診断されたバルサルバ洞動脈瘤破裂の 1 例, 日本循環器学会中国四国地方会第53回総会 (1988. 11).

山本克人, 井上寛治, 宮本信昭, 他 6 名: 心筋自由壁破裂 (Oozing type) を合併した広範囲前壁梗塞の 1 例, 日本循環器学会中国四国地方会第53回総会 (1988. 11).

小川 聡, 井上寛治, 宮本信昭, 他 6 名: 非観血的診断で開心術を決定した心室中隔穿孔の 2 例, 第3回四国循環器研究会 (1988. 2)

山本克人, 井上寛治, 宮本信昭, 他 7 名: 解離性大動脈瘤 (DeBakey II + III) を合併した Marfan 症候群の 1 例, 第52回日本循環器学会中国四国地方会 (1988. 6).

李 永浩, 宮本 巍, 光岡明夫, 他 8 名: 冠動脈攣縮型狭心症を伴った肺癌の 1 手術例, 第144回近畿外科学会 (1988. 12).

原 裕, 宮本 巍, 村田紘崇, 李 永浩, 他 6 名: 末梢動脈瘤 9 例の外科治療, 第144回近畿外科学会 (1988. 12).

向井資正, 宮本 巍, 村田紘崇, 光岡明夫, 他 9 名: 腹部大動脈瘤人工血管置換術後ストレス性胃潰瘍を併発, 胃全摘出術施行後, 経腸栄養を行い良好な結果が得られた 1 症例, 第8回兵庫県経腸栄養研究会 (1988. 11).

上田哲也, 宮本 巍, 村田紘崇, 李 永浩, 他 7 名: Sealed rupture of abdominal aortic aneurysm が疑われた腎動脈下解離性大動脈瘤の 1 例, 第66回日本循環器学会近畿地方会 (1988. 12).

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 吉谷 信, 大久保憲一, 井上孝史, 植田充宏, 秋山文弥: ビデオクリニク CUSA を用いた巨大右房粘液膜摘出術+三光弁弁輪形成術+CABG の一例, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10.)

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 吉谷 信, 大久保憲一, 井上孝史, 植田充宏, 秋山文弥: Björk-Shiley Monostrut 弁の臨床的検討, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10.)

井上孝史, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 有安哲哉, 吉谷 信, 大久保憲一, 秋山文弥: 外傷時 A 型大動脈解離の一例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 有安哲哉, 吉谷 信, 大久保憲一, 井上孝史, 秋山文弥: 成人型動脈管憩室動脈瘤の手術経験, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6.)

吉谷 信, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 有安哲哉, 大久保憲一, 井上孝史, 秋山文弥: 当院における LVAD 使用 3 例の検討—離脱成功の一例を中心に, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

賀来克彦, 宮本 巍, 村田紘崇, 光岡明夫, 他 6 名: DeBakey III 型解離性大動脈瘤の手術成績の検討, 第18回日本心臓血管学会総会, (1988. 2).

向井資正, 宮本 巍, 村田紘崇, 光岡明夫, 他 9 名: 解離性大動脈瘤 III 型破裂緊急手術後, 遠隔期に解離腔拡大を来した 1 例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

吉谷 信, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 有安哲哉, 大久保憲一, 井上孝史, 秋山文弥: SARNs 社製膜型人工肺の使用経験, サーンズ膜型人工肺研究会 (1988. 2).

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 有安哲哉, 吉谷 信, 大久保憲一, 井上孝史, 秋山文弥: 不安定狭心症と早期 AMI に対する CABG, 第18回日本心臓血管外科学会総会 (1988. 2).

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 有安哲哉, 吉谷 信, 大久保憲一, 井上孝史, 秋山文弥: 感染性心内膜炎に対する弁置換術の問題点, 第18回日本心臓血管外科学会総会 (1988. 2.).

吉谷 信, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 有安哲哉, 大久保憲一, 井上孝史: 人工弁置換術後の血栓弁に対する再弁置換術例の検討, 第3回静岡血栓症研究会 (1988. 3).

井上孝史, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 有安哲哉, 吉谷 信, 大久保憲一, 秋山文弥: 血胸を伴う外傷性急性A型大動脈解離の一例: 静岡県外科医会第145回集談会 (1988. 3.).

大久保憲一, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 有安哲哉, 吉谷 信, 井上孝史, 秋山文弥: 開心術時回収血液再利用に関する検討, 第3回静岡輸血懇話会学術集会 (1988. 4).

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 有安哲哉, 吉谷 信, 大久保憲一, 井上孝史, 秋山文弥: 前下行枝への LIMA の経験と問題点, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 有安哲哉, 吉谷 信, 大久保憲一, 井上孝史, 秋山文弥: シンポジウム “遠隔成績からみた呼吸器外科における機能温存を計る外科治療” 前胸壁変形に対する腹直筋有茎性胸骨翻転術の遠隔成績, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6.).

大久保憲一, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 有安哲哉, 吉谷 信, 井上孝史, 秋山文弥: 若年者 floppy valve の二症例第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

伊東政敏, 田中文啓, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 小林君美: 逆行性冠灌流法による心筋保護の有用性, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10. 5).

寺町政美, 田中文啓, 江崎 寛, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 末梢性肺動脈狭窄の家族歴を有した大動脈弁上狭窄の1手術治験, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6. 24).

伊東政敏, 田中文啓, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 小林君美: 逆行性冠灌流法の臨床経験, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6. 24).

寺町政美, 田中文啓, 江崎 寛, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 毛細管脆弱を示した AVR の1治験例, 三重大学胸部外研学教室第34回研究総会 (1988. 8. 6).

伊東政敏, 田中文啓, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 加川憲作, 山口正人, 上村博幸, 小林君美: 冠動脈塞栓により心筋梗塞を合併し, 二弁置換を行った連合弁膜症の1例, 第36回国立療養所循環器疾患研究会 (1988. 2. 13).

伊東政敏, 田中文啓, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 小林君美: 三尖弁輪形成術の臨床的検討, 第18回日本心臓血管外科学会総会 (1988. 2. 26).

田中文啓, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 西尾 斉, 山口正人, 上村博幸, 伊東政敏, 小林君美: 大動脈基部複合手術で治療した解離性大動脈瘤の1例, 第38回岐阜循環器疾患研究会 (1988. 11. 19).

田中文啓, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 西尾 斉, 山口正人, 上村博幸, 伊東政敏, 小林君美: 大動脈弁逆流を来し早期手術を行った1型 VSD の1例, 第5回岐阜小児循環器懇話会 (1988. 12. 3).

山下克彦, 宮本 巍, 村田紘崇, 光岡明夫, 他11名: 急性大動脈解離の治療成績の検討, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

向井資正, 宮本 巍, 村田紘崇, 光岡明夫, 他9名: 人工弁置換術後急性期における Pitfall: 大動脈弁僧帽弁2弁置換術後僧帽弁位に生じた stuck valve の1症例, 第17回近畿心臓外科研究会 (1988. 8).

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 吉谷 信, 大久保憲一, 井上孝史, 植田充宏, 秋山文弥: パネルディスカッション “急性大動脈解離の外科—急性A型解離の治療方針と手術術式—”, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

吉谷 信, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 大久保憲一, 井上孝史, 植田充宏, 秋山文弥: LVAD (補助心臓) 使用による重症心筋梗塞の一救命例, 静岡県外科医会第146回集談会 (1988. 6).

吉谷 信, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 大久保憲一, 井上孝史, 植田充宏, 秋山文弥: Bentall 術後10年目に生じた血栓弁に対し再手術(血栓摘出)を施行した症例, 第4回静岡県血栓症研究会(1988.10).

村田紘崇, 宮本 颯, 光岡明夫, 他11名: 低流量冠動脈バイパスグラフトの開存性に関する因子の検討, 第88回日本外科学会総会(1988.4).

6. 移 植

人見滋樹: 肺移植について, 京都府医師会胸医会学術講演会(1988.10).

人見滋樹: 肺移植研究の世界と日本の現況, 大阪呼吸器疾患懇話会(1988.11).

和田洋巳, 横見瀬裕保, 乾 健二, 李 民実, 神頭 徹, 山崎文郎, 青木 稔, 人見滋樹: LDV を用いた犬自家及び同種気管支吻合部の治療状態の検討, 第81回外科学会総会(1988.4.21).

青木 稔, 乾 健二, 平井 隆, 李 民実, 和田洋巳, 人見滋樹: 肺移植における免疫抑制剤 FK 506 の効果, 第5回肺および心肺移植研究会(1988.11).

青木 稔: 肺移植における気管支吻合部の病理学的検討, 第3回京都大学移植研究会(1988.3).

青木 稔, 横見瀬裕保, 李 民実, 乾 健二, 和田洋巳, 人見滋樹: 犬同種肺移植におけるドナー吻合部気管支の組織学的検討, 第11回日本気管支学会総会(1988.5).

青木 稔, 乾 健二, 横見瀬裕保, 李 民実, 平井 隆, 神頭 徹, 和田洋巳, 人見滋樹: 犬同種左肺移植における免疫抑制剤の効果…FK-506 を中心に, 第24回日本移植学会総会(1988.9).

乾 健二, 横見瀬裕保, 李 民実, 神頭 徹, 平井 隆, 青木 稔, 和田洋巳, 人見滋樹: 犬同種左肺移植におけるドナー気管支動脈温存による気管支粘膜血流改善効果, 第24回日本移植学会総会(1988.9.30).

乾 健二, 横見瀬裕保, 李 民実, 神頭 徹, 平井 隆, 青木 稔, 和田洋巳, 人見滋樹: ドナー気管支動脈温存による気管支粘膜血流改善効果の検討, 第41回日本胸部外科学会総会(1988.10.5).

乾 健二, 平井 隆, 李 民実, 青木 稔, 和田洋巳, 人見滋樹: 移植肺における気管支吻合部血流改善の工夫, 第5回肺および心肺移植研究会(1988.11.5).

乾 健二, 横見瀬裕保, 李 民実, 神頭 徹, 青木 稔, 和田洋巳, 人見滋樹: 免疫抑制剤(Ciclosporine 及び FK-506) 使用時の気管支吻合部治療状態の検討, 第11回日本気管支学会総会(1988.5.31).

7. 一般的胸部疾患

人見滋樹: ハーバード大学胸部外科卒後教育講座とトロント大学肺移植セミナーに参加して, 三重大学胸部外科研究会(1988.8).

人見滋樹: 呼吸機能改善をめざす呼吸器外科, 産業医科大学胸部外科研究会(1988.9).

渡部 智, 奥田訓裕, 和田洋巳, 人見滋樹, 他2名: 気管支肺炎症状を繰り返す, 乳癌肺転移も疑われた気管支結石症の1手術例, 第143回近畿外科学会(1988.5).

秋山文弥: ラウンドテーブルディスカッション “胸部外科医の教育は如何にあるべきか—問題とその解決—胸外科医の生涯教育—臨床外科医の立場から—”, 第41回日本胸部外科学会総会(1988.10.).

奥村典仁, 福瀬達郎, 康 天志, 桑原正喜: 肝硬変を合併した開胸手術3例—術前, 術中, 術後管理について—, 第31回日本胸部外科学会関西地方会(1988.6).

桑原正喜, 奥村典仁, 福瀬達郎, 康 天志: 緊急 Nd-YAG レーザー治療例の臨床的検討, 特に合併症発生例について, 第11回日本気管支学会総会(1988.5).

桑原正喜, 奥村典仁, 有安哲哉, 康 天志: 肺葉切除における気管支断端単純結紮法56例の試み, 第41回日本胸部外科学会総会(1988.10.).

桑原正喜, 奥村典仁, 康 天志, 有安哲哉, 福瀬達郎: 肺癌手術時にいわゆる『胸腔内結石』の前駆物質と考えられる『胸腔内遊離物』を認めた1症例, 第32回日本胸部疾患学会地畿地方会(1988.11).

桑原正喜: 実地医家のための胸部写真の読みかた 日常よくみられる症例を中心として, 第148回実地医家研究会(1988.12).

田村康一, 人見滋樹, 門 政男: 教育展示, 「直視下生検による大出血例の BF 所見「異常血管」, 第11回日本気管支学会総会(1988.5).

Chihara K, Kawarasaki S, Hitomi S, Shimizu Y: A new cuirass respirator synchronizing with spontaneous respiration and clinical application (Young Investigator Awards), 54th Annual Scientific Assembly of American College of Chest Physicians (ACCP) (1988.10).

人見滋樹, 千原幸司, 河原崎茂孝, 小林 淳, 清水慶彦, 室原良治: 胸部外科 '88肺切除後の右心補助, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988.10),

Chihara K. Hitomi S.: Effect of rib fracture on chest wall motion during breathing efforts, 1st Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (APSR) (1988.10).

清谷哲也, 中村聡人, 福瀬達郎, 和澤 仁, 玉田二郎: 多発性薄壁空洞陰影を呈した1症例, 第32回岡山胸部疾患懇話会 (1988.9).

松井輝夫, 黄 政龍, 山下直己, 辰巳明利, 山中 晃, 北野司久: 気道内異物15例の検討, 第11回日本気管支学会総会 (1988.5).

千原幸司, 河原崎茂孝, 岡田賢二, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦, 松延政一: 横隔膜と腹壁の運動の関係, 第28回日本胸部疾患学会総会 (1988.4).

千原幸司, 河原崎茂孝, 人見滋樹, 清水慶彦: 呼吸同調型 cuirass レスピレータの開発とその臨床応用, 第28回日本胸部疾患学会総会 (1988.4).

河原崎茂孝, 千原幸司, 人見滋樹, 清水慶彦: 焦電式呼吸センサーの開発と応用 (会長推薦講演), 第28回日本胸部疾患学会総会 (1988.4).

千原幸司, 岡田賢二, 青木 稔, 田村康一, 渡部 智, 和田洋巳, 人見滋樹, 三嶋理晃, 久野健志: 巨大ブラ症のブラ内の換気についての考察 (換気運動評価法から), 第33回気胸研究会全国集会 (1988.5).

清谷哲也, 中村聡人, 和澤 仁, 小林 淳, 玉田二郎: 長期ドレナージを要した気胸症例の検討, 第33回気胸研究会 (1988.5).

中村聡人, 清谷哲也, 和澤 仁, 小林 淳, 玉田二郎: 経過中自然縮小した巨大肺嚢胞症の検討, 第33回気胸研究会 (1988.5).

中村聡人, 清谷哲也, 和澤 仁, 小林 淳, 玉田二郎: 気管支鏡による気道出血の制御が有用であった胸部外傷症例の検討, 第11回気管支学会総会 (1988.5).

清谷哲也, 中村聡人, 和澤 仁, 小林 淳, 玉田二郎: 当科における気管支異物の検討, 第11回気管支学会総会 (1988.5).

黄 政龍, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 山中 晃, 北野司久: 本院の自然気胸246例の臨床的検討, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988.6).

Chihara K, Hitomi S, Kawarasaki S, Okada K, Aoki M, Tamura K, Wada H, Watanabe S, Shimizu Y, Matsunobe S: Indication of bullectomy for giant bulla—From the view point of new method for analysis of diaphragm-rib cage motion, 1988 Annual Meeting of American Thoracic Society (ATS) (1988.5).

小林 淳, 石田久雄, 高橋 豊, 横見瀬裕保, 神頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹, 気管出血に対し気管支動脈結さつ摘出術を行った1例, 第31回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988.6).

小林 淳, 佐坂徳浩, 花岡伸治, 高橋 豊, 中村達夫, 福頭 徹, 千原幸司, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 転移性肺腫瘍 (再発) として開胸した横隔膜ヘルニアの1例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988.11).

千原幸司, 寺田泰二, 小林 淳, 河原崎茂孝, 高橋 豊, 神頭 徹, 青木 稔, 田村康一, 渡部 智, 和田洋巳, 清水慶彦, 人見滋樹: 一側肺全摘術後の全摘胸腔内圧と肺機能の関係, 第14回西部肺機能同好会 (1988.12).

磯和理貴, 大野暢宏, 高嶋義光: 肺動静脈瘻の1手術例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988.6).

大野暢宏, 磯和理貴, 高嶋義光: 肺葉内肺分画症の1例, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988.6).

田村康一, 横見瀬裕保, 池 修, 五十部潤, 千原幸司, 青木 稔, 和田洋巳, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 気管・気管支形成術後の合併症, 第11回日本気管支学会総会 (1988.5).

田村康一, 人見滋樹, 他3名: 気管支皮膚瘻に対する広背筋皮弁移植術——乳癌切除後の放射線照射例——, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988.6).

岡田英彦, 浜本康平, 河原崎茂孝, 橋本圭司, 谷口隆司, 中島道郎: 高令者で難治性気胸に人工的水胸を試みた1例, 第33回気胸研究会 (1988. 5).

木村雅英, 鍵本伸二, 林 達也, 谷口浩一, 山口和之, 柳父睦政, 中尾保彦, 近藤晃司, 黄 正一, 金地研二, 西村敏弘, 松村理司, 他3名: 慢性関節リウマチに合併した再燃を繰り返す胸膜炎の一例, 第41回びまん性肺疾患研究会 (1988. 6).

松村理司: 喘息治療の落とし穴, 宇治徳洲会病院特別講演 (1988. 7).

千原幸司, 横見瀬裕保, 乾 健二, 寺田泰二, 岡田賢二, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹, 渡部智, 清水慶彦, 松延政一, 李 民実, 生島宏彦: 胸部外傷 (多発肋骨骨折) が CHEST WALL の運動に与える影響についての検討, 第5回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

松村理司, 他12名: 急激に進行し, 不幸な転帰をとった間質性肺炎の一例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11).

秋山仁一郎, 山田 隆, 八木 健, 平田敏樹, 室 恒太郎, 糸井和美, カレッド・レシャード: 咯血を主訴とした非定型的な胸部X線像を呈したサルコイドーシスの1例, 第8回サルコイドーシス学会総会 (1988. 11).

秋山仁一郎, 山田 隆, 八木 健, 平田敏樹, 室 恒太郎, 糸井和美, カレッド・レシャード: 高齢者における局麻下気管支鏡検査の生体にあぼす影響, 気管支学会総会 (1988. 6).

宮本信昭, 小阪真二, 井上寛治, 他6名: 右肺全切除後の左自然気胸に対する胸骨正中切開による肺縫縮術の経験, 第5回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

小阪真二, 井上寛治, 宮本信昭, 他7名: 気管支管状切除の2手術例, 第41回高知県医師会医学会 (1988. 8).

江崎 寛, 田中文啓, 寺町政美, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 術前確定診断が得られず開胸術を行った非肺癌症例の検討, 第43回国立病院療養所総合医学会 (1988. 11. 11).

山田 隆, 平田 敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 胸部X線上空洞形成を呈せた過敏性肺臓炎の1例, 日本胸部疾患学会東海地方会 (1988. 11).

八木 健, 山田 隆, 平田敏樹, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 当院におけるマイコプラズマ肺炎の臨床的検討, 日本胸部疾患学会東海地方会 (1988. 11).

秋山仁一郎, 山田 隆, 八木 健, 平田敏樹, 室 恒太郎, 糸井和美, カレッド・レシャード: 肺梗塞16例の臨床的検討, 日本胸部疾患学会東海地方会 (1988. 11).

糸井和美, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 子宮癌に肺胞蛋白症を合併した1例, 日本胸部疾患学会東海地方会 (1988.).

池田貞雄: クリプトコックス症の診断と治療, 第8回京都呼吸器疾患シンポジウム (1988. 8).

塩田哲広, 李 永浩, 塙 健, 榎堀 徹, 八木一之, 小鯖 覚, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 肺クリプトコックス症12例の診断と治療, 第28回日本胸部疾患学会総会 (1988. 4).

池田貞雄, 李 永浩, 塩田哲広, 塙 健, 榎堀 徹, 八木一之, 小鯖 覚, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志: 肺クリプトコックス症の血清学的診断, 第28回日本胸部疾患学会総会 (1988. 4).

松原義人, 船津武志, 畠中陸郎, 塙 健, 八木一之, 李 永浩, 小鯖 覚, 榎堀 徹, 塩田哲広, 二宮和子, 池田貞雄: 巨大気腫性肺嚢胞症に対する両側手術, 第28回日本胸部疾患学会総会 (1988. 4).

平田敏樹, 山田 隆, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード: 当院における医原性気胸の検討, 気胸研究会総会 (1988. 4).

塩田哲広, 桂 敦史, 李 永浩, 塙 健, 八木一之, 小鯖 覚, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 高齢者自然気胸の外科治療, 第5回日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

八木一之, 桂 敦史, 李 永浩, 塩田哲広, 塙 健, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 巨大肺嚢胞症における外科治療の意義 (シンポジウム), 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

船津武志, 塙 健, 桂 敦史, 李 永浩, 塩田哲広, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 池田貞雄: 自然気胸における気腫性肺嚢胞と成因, 第50回日本臨床外科医学会総会 (1988. 11).

塙 健, 桂 敦史, 李 永浩, 塩田哲広, 八木一之, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志,

池田貞雄：気管軟化症の実験的研究 (Young Investigator's Award), 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

船津武志, 松原義人, 小鯖 寛, 八木一之, 塙 健, 塩田哲広, 李 永浩, 桂 敦史, 二宮和子, 畠中陸郎,
池田貞雄：気腫性肺嚢胞の要因と胸膜下癒痕について, 第33回気胸研究会 (1988. 5).

塙 健, 李 永浩, 塩田哲広, 榎堀 徹, 小鯖 寛, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄
：気管軟化症の実験的研究—モデル作製と気管外固定法の検討, 第88回日本外科学会総会 (1988. 4).

李 永浩, 池田貞雄, 塩田哲広, 塙 健, 榎堀 徹, 八木一之, 小鯖 寛, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人,
船津武志, 肺クリプトコックス症における免疫組織学検討, 第28回日本胸部疾患学会総会 (1988. 4).

塙 健, 桂 敦史, 李 永浩, 塩田哲広, 八木一之, 小鯖 寛, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄
：開胸手術における肋間神経凍結麻酔の有用性, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

カレッド・レシャード, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎：胸部外傷自験
例の検討, 日本呼吸器外科学会総会 (1988. 6).

糸井和美, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 室 恒太郎, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード：術後硬膜外麻
酔の肺機能への影響, 日本呼吸器外科学会 (1988. 6).

池田貞雄, 塙 健, 桂 敦史, 李 永浩, 塩田哲広, 八木一之, 小鯖 寛, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人,
船津武志：気管気管支軟化症の臨床的検討, 第11回日本気管支学会総会 (1988. 5).

塙 健, 桂 敦史, 李 永浩, 塩田哲広, 八木一之, 小鯖 寛, 畠中陸郎, 二宮和子, 松原義人, 船津武志,
池田貞雄：気管支鏡画像処理による咳嗽時の気管動態—気管軟化症の検討, 第11回日本気管支学会総会 (1988. 5).

江崎 寛, 田中文啓, 寺町政美, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美：開胸にて診断を得た非肺癌切除例の検討,
第24回中部外科学会総会 (1988. 8. 26).

李 永浩, 桂 敦史, 塩田哲広, 塙 健, 八木一弘, 小鯖 寛, 畠中陸郎, 二宮和子, 松原義人, 船津武志,
池田貞雄：一側気胸手術後の対側気胸発症例の検討, 第31回日本胸部外科学会関西地方会 (1988. 6).

平田敏樹, 山田 隆, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード：当院における
新生児気胸例の検討, 日本胸部疾患学会東海地方会 (1988. 5).

カレッド・レシャード：胸膜疾患の診断と治療, 医師会講演 (1988. 7).

平田敏樹, 山田 隆, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード：新生児気胸,
気胸研究会 (1988. 2).

李 民実, 李 美於, 生島宏彦, 千原幸司：腎炎にびまん性肺泡出血を合併した一若年女性例, 第31回日本胸
部疾患学会近畿地方会 (1988. 6).

高井晶子, 倉田昌彦, 他 1 名：喀痰中の微生物と Lysozyme 活性, 第31回日本臨床病理学会近畿支部総会
(1988. 4).

張 謙益, 瀧 俊彦, 竹田秋郎, 倉田昌彦：胸壁動静脈瘤の 1 例, 第143回近畿外科学会 (1988. 5).

瀧 俊彦, 張 謙益, 竹田秋郎, 倉田昌彦：中枢気管支の変化を伴った肺良性疾患, 第143回近畿外科学会
(1988. 5).

乾 健二, 他 5 名：救急部, 集中治療部における気管支ファイバースコープの使用状況, 第11回日本気管支学
会総会 (1988. 5. 31).

光岡明夫, 他12名, 呼吸器外科手術における自動縫合器使用の問題点, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988.
10).

佐竹範夫, 渡部 智, 人見滋樹, 他 5 名：乳癌の術後 6 年目で繰り返す肺炎にて発見された気管支結石の 1 手
術例, 第32回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1988. 11).

平田敏樹, 山田 隆, 八木 健, 室 恒太郎, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード：Swyer-James
症候群の 1 例, 日本胸部疾患学会東海地方会 (1988. 11).

室 恒太郎, 山田 隆, 平田敏樹, 八木 健, 糸井和美, 秋山仁一郎, カレッド・レシャード：超高齢者にお
ける呼吸器外科手術の検討, 静岡県外科医会 (1988. 3).

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 前里和夫, 他 6 名：成人の先天性食道気道瘻の手術手技に関する検討, 第
11回日本気管支学会, 札幌 (1988).

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 前里和夫, 他1名: 背部弾性線維腫のCT所見の検討, 第5回日本呼吸器外科学会, 東京 (1988).

乾 健二, 瀬尾憲正, 曲淵達雄, 村山隆紀, 新宮 興, 千原幸司, 横見瀬裕保: セラミック肋骨ピンにより胸壁固定を行い良好に経過した Flail Chest の一例, 第16回日本救急医学会総会 (1988. 11. 24).

日向真一, 土屋 潔, 田中 暁, 小山 弘, 本田和徳, 大久保憲一, 上野陽一郎, 秋山文称, 伊藤忠弘, 岩田政敏, 北市正則: 気胸をくり返した“との粉”による珪肺症の一例, 第53回日本胸部疾患学会東海地方会 (1988. 5).

池田貞雄, 塙 健, 小鯖 覚, 八木一之, 塩田哲広, 李 永浩, 桂 敦史, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志: 気管気管支軟化症に対する新しい気道外固定術, 第41回日本胸部外科学会総会 (1988. 10).

田中文啓, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 開胸下に摘出した気道内異物の3例, 第54回日本胸部疾患学会東海地方会 (1988. 11. 27).

嘉陽宗史, 川畑 勉, 上原力也, 前里和夫, 国吉真行, 石川清司, 山内和雄, 源河圭一郎: 心嚢性嚢胞切除例の検討—特に上縦隔発生例を中心に—第21回日本胸部外科学会九州地方会 (1988. 8).

久場陸夫, 国吉真行, 仲宗根恵俊, 宮城 茂, 宮国泰夫, 嘉数朝一, 大城盛夫, 源河圭一郎: Steel coil による気管支動脈塞栓術にて軽快した大量咯血の1例, 第23回日本胸部疾患学会九州地方会 (福岡) (1988).

前里和夫, 川畑 勉, 国吉真行, 石川清司, 山内和雄, 源河圭一郎: 一期的両側肺切除を行った2症例, 第43回国立病院療養所総合医学会 (1988. 11).

石川清司, 川畑 勉, 前里和夫, 国吉真行, 源河圭一郎: Traumatic Pulmonary Pseudocyst の1例, 第21回日本胸部外科学会九州地方会 (1988. 8).

〔著 書〕

人見滋樹: 気管支瘻, 今日の診断指針, 医学書院 (1988).

田村康一, 人見滋樹: 肺動静脈瘻 (115~117), 外科 Q & A, 3, 内分泌・顔面・頸部・バ・血管・リンパ管・乳腺・横隔膜・胸壁, 縦隔・肺・小児外科・杉浦光雄編, 金原出版, (1988).

Satoshi Watanabe, Yasuhiko Shimizu, Takashi Teramatsu et al.: Application of immobilized enzymes for biomaterials used in surgery (p. 545-551), Immobilized Enzymes and Cells Part D, ed. by K. Mosbach, Methods in Enzymology, Vol. 137, Academic Press, San Diego, 1988.

S. Watanabe, O. Ike, T. Nakamura, Y. Shimizu, Y. Tamada and Y. Ikada: Surface modification of synthetic polymer materials for medical use: Addition of fibrinolytic and antibacterial activities. (p. 31-36), Implant Materials in Biofunction, ed. by C. de Putter et al. Advances in Biomaterials, Vol. 8, Elsevier Science Publishers B. V., Amsterdam, 1988.

〔誌 上 発 表〕

1. 腫 瘍

青木 稔, 人見滋樹: 非小細胞癌の臨床像, 臨床医, 14 (増刊号): 470-471, 1988.

和田洋巳, 青木 稔, 人見滋樹, 和多田すみ子, 平野照子: 肺癌手術とその看護, オペネーシング, 3(10): 14-20, 1988.

田村康一, 平田敏樹, 池 修, 五十部 潤, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 和田洋巳, 伊藤元彦, 人見滋樹, 清水慶彦: Anterior Mediastinal Tracheostomy を行った気管癌の1例, 胸部外科, 41, 45-49, 1988.

田村康一, 池 修, 五十部 潤, 和田洋巳, 人見滋樹, 清水慶彦: 肋骨に発生した Monostotic fibrous dysplasia, 日本胸部外科学会雑誌 36, 1161-1168, 1988.

M Ito, T Taki, A Mitsuoka, M. Miyake: Lactate Dehydrogenase Isoenzyme-1 in the Mediastinal Yolk Sac Tumor, The Japanese Journal of Surgery 18 (4): 419-422, 1988.

岡田賢二, 磯和理貴, 和田洋巳, 人見滋樹, 他2名: 眼窩転移を初発症状とした肺癌の1剖検例, 肺癌, 28 (6): 785-789, 1988.

- 鈴木 清, 中野 豊, 平田敏樹, 高橋 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 胸水中の扁平上皮癌関連抗原 (SCC 抗原) 測定 of 臨床的意義. 日本胸部疾患学会雑誌, 26: 923, 1988.
- 塩田哲広, 堀 健, 松原義人, 李 永浩, 榎堀 徹, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 巨大な良性限局性胸膜中皮腫の1切除例, 日本胸部臨床, 47(10): 895-898, 1988.
- 池田貞雄: 肺癌再発の診断と治療—follow up の方法と対策を中心に—. 第9回胸部疾患セミナー, 39-54, 1988.
- 福瀬達郎, 奥村典仁, 桑原正喜: 気腫性肺嚢胞症の嚢胞壁に発生した肺癌の7例, 日本胸部臨床, 47(2): 130-136, 1988.
- 朝倉庄志, 松井輝夫, 辰巳明利, 藤尾 彰, 北野司久, 小橋陽一郎: 肉腫型胸膜中皮腫と考えられた1例に対する制癌剤感受性試験の試み, 日本胸部疾患学会雑誌, 26(7): 695-699, 1988.
- 辰巳明利, 北野司久, 山中 晃, 松井輝夫, 山下直己: 原発性肺平滑筋肉腫の1手術例と本邦報告例の検討, 日本胸部外科学会雑誌, 35(9): 134-139, 1988.
- 澤村献児, 李 龍彦, 末舛恵一, 宮沢直人, 山口 豊, 仲田 祐, 大田満夫, 於保健吉, 伊藤元彦: R_{2.3}縦隔郭清を施行した N₂ 肺癌切除成績の検討, 肺癌, 28(1): 1-9, 1988.
- 山下直己, 北野司久, 辰巳明利, 山中 晃, 松井輝夫, 黄 政龍: 小腸転移でイレウス症状を呈した原発性肺癌の1例, 臨床胸部外科, 8(2): 186-189, 1988.
- 松原義人: 腫瘍マーカーの臨床応用, 毎日ライフ, 19(5): 88-91, 1988.
- 中川正法, 末原雅人, 中村昭範, 源河圭一郎, 前里和夫, 他1名: 原発性肺癌の脳転移についての臨床的検討, 国際沖縄病院医学雑誌, 9(1): 46-48, 1988.
- 川畑 勉, 石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 前里和夫, 他7名: 気管支分岐異常に合併した良性限局性胸膜中皮腫の1例, 国療沖縄病院医学雑誌, 9(1): 58-61, 1988.
- 小松彦太郎, 古瀬清行, 柳井 登, 源河圭一郎, 安倍隆二, 他16名: 小細胞癌に対する Carboplatin の Phase II Study, 癌と化学療法, 15(8): 2313-2318, 1988.
- 国吉真行, 石川清司, 源河圭一郎, 前里和夫, 他2名: 肺癌に対する Limited Operation の検討, 国療沖縄病院医学雑誌, 9(1): 43-45, 1988.
- 久場睦夫, 仲宗根恵俊, 大城盛夫, 前里和夫, 川畑 勉, 国吉真行, 石川清司, 源河圭一郎, 他3名: 非小細胞肺癌に対する Cioplatin を主剤とした各種 Regimen の検討, 国療沖縄病院医学雑誌, 9(1): 27-32, 1988.
- 前里和夫, 川畑 勉, 国吉真行, 石川清司, 山内和雄, 源河圭一郎, 他6名: 末梢肺癌切除例の検討 (特に TiNoMo 例を中心にして), 国療沖縄病院医学雑誌, 9(1): 36-42, 1988.
- K. Genka, K. Maezato, et al.: Surgical treatment of lung cancer in patients over the age of 80 years, J. Nat. Oki. Hos. 9(1): 20-26, 1988.
- 本成 充, 源河圭一郎, 他1名: 肺がん344例の臨床統計学的解析(I), (II), 沖縄県公害衛生研究所報, 22: 29-42, 1988.
- 前里和夫, 川畑 勉, 国吉真行, 石川清司, 山内和雄, 源河圭一郎, 他2名: 気管支顆粒細胞腫の1治療例, 呼吸器外科, 2(3): 191-196, 1988.
- 前里和夫, 川畑 勉, 国吉真行, 石川清司, 山内和雄, 源河圭一郎, 他6名: 国立療養所沖縄病院における非小細胞癌 pN2 例の検討, 国療沖縄病院医学雑誌, 9(1): 62-65, 1988.
- 石川清司, 源河圭一郎, 川畑 勉, 前里和夫, 他9名: 環状切除を施行した気管原発良性混合腫瘍の1例, 気管支学, 10(1): 57-61, 1988.
- Kannagi R., Miyake M., et al.: Cancer associated carbohydrate antigens; Modified blood group substances and onco-developmental antigens on tumor cells in cellular and molecular mechanisms of tumor Immunity, Gann Monograph on Cancer Research, 34: 15-28, 1988.
- Masayuki Miyake, et al.: Stage-specific Expression of SSEA-1-related Antigens in the Developing Lung of Human Embryos and Its Relation to the Distribution of These Antigens in Lung Cancers, Cancer Research 48, 7150-7158, 1988.

Masayuki Miyake, Motohiko Ito, Shigeki Hitomi, et al: GM₂ Ganglioside in Human Lung Cancer Studied with Monoclonal Antibodies which Discriminate N-Acetyl and N-Glycolyl Sialic Acid Residues. In; R. Schauer, T. Yamakawa (Eds.) SIALIC ACIDS, pp.210~221. Kiel; Bärbel Mende, 1988.

Zenita K., Kirihaara Y., Kitahara A., Shigeta K., Higuchi K., Hirashima K., Murachi T., Miyake M., et al.: Fucosylated type 2 chain polylactosamine antigens in human lung cancer. Int. J. Cancer 41; 344~349, 1988.

神奈木玲児, 三宅正幸, 他 2 名: 糖鎖抗原と悪性腫瘍, 化学と生物, 26; 220~234, 1988.

神奈木玲児, 三宅正幸, 他 4 名: 悪性腫瘍の糖鎖抗原とそれに対する免疫応答 Medical Immunology, 16; 737~748, 1988.

Masayuki Miyake, Motohiko Ito, Shigeki Hitomi, Sadao Ikeda, Toshihiko Taki, Masahiko Kurata, et al: Generation of Two Murine Monoclonal Antibodies That Can Discriminate N- Glycolyl and N- Acetyl Neuraminic Acid Residues of GM₂ Gangliosides. Cancer Research 48, 6154~6160, 1988

2. 胸腺・免疫

岡田賢二, 星野一正, 人見滋樹: 胸腺腫の核内 DNA ヒストグラム分析, 日外科学会雑誌, 89(3): 416-422, 1988.

岡田賢二, 人見滋樹: 縦隔腫瘍, 総合臨床, 37(4): 725-727, 1988.

和田洋巳, 人見滋樹: 重症筋無力症の胸腺摘除術, 外科Q & A 3, 杉浦光雄, 榊原 宣編, 204-206 (1988.8).

和田洋巳: 縦隔腫瘍—われわれの考え方の変遷—三重大学医学部胸部外科教室開講30周年記念講演集, 65-71 (1988.2).

高橋 豊, Khaled Reshad, 乾 健二, 岡野昌彦, 糸井和美, 中野 豊, 平田敏樹, 佐藤敦夫, 八木 健: 縦隔嚢状リンパ管腫の1切除例, 臨床胸部外科, 8(2): 195-199, 1988.

M. Matui, H. Fukuyama, I. Akiguchi, H. Wada, M. Kameyama: Circulating CD4⁺ CD8⁺ Dual-Labelled T Cell Population in Myasthenia Gravis: Relationship to Thymic Abnormality and Clinical State; Neuroimmunological Diseases-Recent Advances in Pathogenesis and Treatment (JAPAN INTRACTABLE DISEASES RESEARCH FOUNDATION PUBLICATION NO.26 Edited by Akihiro Igata), University of Tokyo Press, 1988

光岡明夫, 伊藤元彦, 三宅正幸, 人見滋樹: 縦隔悪性胚細胞腫の治療, 日本呼吸器外科学会雑誌, 1(2): 55-63, 1987.

A. Mitsuoka, K. Hanada: In vivo immunoreactivities in senescence accelerated mice (SAM), Proceeding of the First SAM Kyoto Symposium, The Council for SAM Research: 11-20, 1988.

桑原正喜: 縦隔腫瘍の診断に対する CT 検査の有用性, 関西電力医学雑誌, 19(2): 21-25, 1987.

伊藤元彦: 縦隔腫瘍の病態と治療—悪性杯細胞性腫瘍の生物学的性状—, 日本胸部外科学会雑誌, 36(5): 763~765, 1988.

M ITO, T TAKI, M MIYAKE, A MITSUOKA: Lymphocyte subsets in Human Thymoma Studied with Monoclonal Antibodies, Cancer 61 (2): 284~287, 1988.

奥村典仁, 康 天志, 福瀬達郎, 桑原正喜: 成人に発生した縦隔内神経芽細胞腫の1例, 日本臨床外科医学会雑誌, 49(10): 1934-1938, 1988.

藤村重文, 今井 督, 近藤 丘, 半田政志, 一ノ瀬高志, 白石裕治, 松村輔二, 佐々木 寛, 玉橋信彰, 仲田祐, <討論1>伊藤元彦, <討論2>宮沢直人: 縦隔悪性胚細胞性腫瘍の臨床的病理学的検討, 胸部外科, 41(5): 353~363, 1988.

平田敏樹, 中野 豊, 高橋 豊, 糸井和美, 乾 健二, カレッド・レシャード: 食道嚢腫の一例, 京都大学胸部疾患研究所紀要, 20: 20, 1987.

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 前里和夫, 他 2 名: 胸腺カルチノイドの1切除例, 国療沖縄病院医学雑誌, 9(1): 54~57, 1988.

塩田哲広, 松原義人, 李 永浩, 塙 健, 榎堀 徹, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄

：縦隔脂肪腫の1切除例，日本胸部臨床，47(8)：727-730，1988.

3. 結 核

高橋 豊，カレッド・レシャード，糸井和美，平田敏樹，室 恒太郎：Swan-Ganz catheter による肺梗塞・膿胸の1手術例，呼吸器外科学会雑誌，2(4)：291-299，1988.

辰巳明利，北野司久，藤尾 彰，松井輝夫，山下直己，黄 政龍，山中 晃：有癭性慢性膿胸に対する有茎性大網充填術—とくに肺結核に起因する症例について—，日本呼吸器外科学会雑誌，2(4)：222-229，1988.

辰巳明利，北野司久，山中 晃，松井輝夫，山下直己，黄 政龍：Salmonella typhi 感染後43年を経て発症した慢性膿胸の1手術例，日本胸部疾患学会雑誌，26(2)：169-173，1988.

北野司久，辰巳明利，松井輝夫，山下直己，山中 晃，藤尾 彰：有癭性慢性膿胸に対する有茎性大網充填術の臨床的意義，日本胸部外科学会雑誌，36(8)：1255-1263，1988.

4. 人工材料

北野司久，松井輝夫，辰巳明利，山下直己，山中 晃，清水慶彦，他2名：胸郭変形に対する外科的矯正術の検討—特に吸収性合成高分子を利用した術式について—，日本胸部外科学会雑誌，36(5)：799-801，1988.

千原幸司，河原崎茂孝，人見滋樹，清水慶彦：呼吸同調型陰圧式人工呼吸器の開発，人工呼吸，5：128-134，1988.

O. Ike, S. Watanabe, T. Nakamura, R. Wada, S. -H. Hyon, S. Hitomi, Y. Ikada and Y. Shimizu: RELEASE AND DEGRADATION CHARACTERISTICS AND ANTITUMOR EFFECTS OF ADRIAMYCIN-CONTAINING POLY-L-LACTIC ACID MICROSPHERES, IMPLANT MATERIALS IN BIOFUNCTION, ADVANCES IN BIOMATERIALS, VOLUME 8, 257-262, 1988.

田村康一，河原崎茂孝，人見滋樹，清水慶彦，他3名：外科用接着剤としての ethoxy-ethylcyanoacrylate の応用—組織反応について—人工臓器，17，739-742，1988.

Tamura, K, Kawarasaki S, Hitomi S, Shimizu Y: NEW TYPE OF POLYURETHANE TUBE FOR ARTIFICIAL VASCULAR GRAFT, Transactions of 3rd World Biomaterials Congress, XI: 57, 1988.

田村康一，河原崎茂孝，池 修，人見滋樹，五十部潤，清水慶彦：polyurethane を素材とする人工血管の開発，内腔表面の pore size の影響—，人工臓器，17，614-617，1988.

田村康一：静脈移植用人工血管の開発，昭和62年度科学研究費補助金研究成果報告書，1-20，1988.

清水慶彦：人工肺，化学，43(7)：426-427，1988.

清水慶彦：代用気管・化学的組織親和性の問題は解決されたか？医学のあゆみ，145(1)：48，1988.

清水慶彦：異物反応を起こさない埋植材料の開発，Mebio, 5 (4)：140-141，1988.

清水慶彦：人工皮膚—この1年の進歩，人工臓器. 17(6)：1664-1665，1988.

北野司久 松井輝夫，辰巳明利，黄 政龍，山下直己，山中 晃：胸郭変形に対する吸収性合成高分子 PLA ストラットを利用した矯正術，小児外科，20(1)：71-77，1988.

安田雄司，塙 健，榎堀 徹，住友伸一，小鯖 覚，二宮和子，畠中陸郎，松原義人，船津武志，池田貞雄：呼吸器外科におけるコラタンプの有効性，胸部外科，41(3)：252-255，1988.

松原義人，池田貞雄：人工気管による気管および気管分岐部の再建，日本気管食道科学会会報，39(2)：171，1988.

5. 心・血管

伊東政敏，江崎 寛，加川憲作，山口正人，白木 硬，上村博幸，小林君美，：心筋梗塞を合併した連合弁膜症の2弁置換の1例，岐阜県医師会医学雑誌，1：151-155，1988(9).

島本光臣，篠崎 拓，上野陽一郎，有安哲哉，吉谷 信，秋山文弥：不安定狭心症と早期 AMI に対する CABG，日本心臓血管外科学会雑誌，18(2)：298-300，1988.

山口正人，上村博幸，白木 硬，森 厚，伊東政敏，小林君美，江崎 寛：僧帽弁狭窄症に対する新しい治療法—経静脈的僧帽弁交連切開術について—，岐阜県医師会医学雑誌，1：145-150，1988(9).

井上寛治：経皮的経静脈的僧帽弁交連裂開術，別冊医学のあゆみ（メディカル・トピックス 3），95，1988.

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 有安哲哉, 吉谷 信, 秋山文弥: 感染性心内膜炎に対する弁置換術の問題点, 日本心臓血管外科学会雑誌, 18(3): 389~390, 1988.

井上寛治: 経皮的経静脈的僧帽弁交連裂開術——心臓病の治療・トピックス——. 治療, 70(2): 219-223, 1988.

平井 隆, 他 6 名: 心筋梗塞を併発し緊急 A—C バイパス術を行った単冠動脈症の 1 例, 胸部外科, 41(8): 671~675, 1988.

平井 隆, 他 8 名: 急性下大静脈血栓症を併発し急激な経過をとった Budd-Chiari 症候群の 1 例, 外科, 50(7): 719~722, 1988.

6. 移 植

和田洋巳, 人見滋樹: 肺移植の世界の現況と臨床応用, ブレンナーシング, 5(5): 51-55, 1988.

7. 一般的胸部疾患

人見滋樹: Bronchial Vessels, 気管支学, 9(4): 427-478, 1988.

和田洋巳, 青木 稔, 人見滋樹: 術後肝機能障害に対するアデラビン 9 号の効果, 外科診療, 30(7): 1012-1016, 1988.

桑原正喜, 人見滋樹, 蕭 金宝: 気胸, 臨床と研究, 65(9): 2783-2787, 1988.

伊藤元彦: 主訴・症状からみた救急プライマリー・ケア 咯血, 外科治療, 58(2): 233~236, 1988.

山中 晃, 北野司久, 辰巳明利, 松井輝夫, 山下直巳, 黄 政龍, 高橋憲太郎, 加藤弘文, 岡田慶夫, 他 1 名: 気道上皮および気管支腺の再生過程に関する実験的研究, 気管支学, 9(4): 349-353, 1988.

カレット・レシャード, 平田敏樹, 高橋 豊, 糸井和美, 乾 健二: 気管支動脈結切除術の経験, 日本呼吸器外科学会誌, 1: 99, 1988.

松井輝夫, 黄 政龍, 山下直巳, 辰巳明利, 山中 晃, 北野司久: 横隔膜ヘルニアを合併した横隔膜上気管支性嚢腫の 1 治療例, 胸部外科, 41(9): 749-752, 1988.

糸井和美, 平田敏樹, 高橋 豊, カレット・レシャード: 心筋梗塞の既往者に対する肺癌切除術の経験, 日本呼吸器外科学会誌, 2: 59, 1988.

カレット・レシャード, 高橋 豊, 糸井和美, 乾 健二: 咯血に対する治療成績の検討, 日本胸部外科学会雑誌, 36(8), 119~124, 1988.

船津武志, 池田貞雄: 呼吸不全における気管切開の適応と手技, 気管支学, 9(4): 440-442, 1988.

住友伸一: 開胸手術が胸郭運動に及ぼす影響についての臨床的研究. 日本胸部外科学会雑誌, 36(9): 39-48, 1988.

前里和夫, 川畑 勉, 国吉真行, 石川清司, 源河圭一郎: 経気管支的に瘻閉鎖を行った術後気管支瘻の 1 治療例, 気管支学, 10(4): 438-442, 1988.

石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 前里和夫, 他 2 名: 胸腔内遊離結石の 1 例, 国療沖縄病院医学雑誌, 9(1): 33-35, 1988.

〔胸部外科学部門主催招請学術講演会〕

1月18日

土井 修, (大阪府立成人病センター外科部長: 肺癌の縦隔郭清

4月11日

浜 弘道, (京都大学医療短大教授): 末梢神経の再建

5月14日

周 允中, (上海胸科医院院長): Pneumothorax in Shanghai

5月28日

正岡 昭, (名古屋市立大学第2外科教授): 呼吸器外科領域における術式の開発と改良

6月6日

P. E. Bernatz (Mayo Clinic 外科教授) : Adjuvant chemotherapy of lung cancer

6月27日

辛 育齡, (中華医学会副会長, 日中友好医院胸部外科教授) : 中国における肺癌外科治療

6月27日

黄 汀涛, (北京結核病肺部腫瘍研究所副所長) : 肺癌の通電治療

6月27日

伝 瑜, (北京結核病肺部腫瘍研究所附属病院院長) : 気管支形成術

7月7日

新田澄郎, (東京女子医科大学呼吸器外科教授) : 肺癌手術の術前評価 (一側肺動脈閉塞試験の成績を中心に)

9月10日

加藤治文, (東京医科大学外科助教授) : 肺癌の光線力学的診断治療

10月8日

J. Cooper, (St. Louis 大学教授) : Clinical results of lung transplantation

10月31日

P. T. Macklem, (McGill 大学教授) : How respiratory pump works and how it fails

分子病理学分野

〔学 会 発 表〕

藤田葉子・小岸久美子・鈴木康弘 : Effects of low MW hydrophobic surfactant apoprotein on the formation of tubular myelin (TM). 1988年5月25日, 第77回日本病理学会総会 (札幌).

金岡正樹, 北市正則, 内木宏延, 花田敬吾, 藤田葉子, 樋口佳代子, 細川昌則, 鈴木康弘, 竹田俊男, 古田睦広 : 原発性肺癌102剖検例の臓側胸膜病変に関する病理組織学的検討. 1988年5月25日, 第77回日本病理学会総会 (札幌).

Suzuki Y.: Isolation of low MW hydrophobic protein associated with pig pulmonary surfactant and its effects on the formation of tubular myelin. The 3rd International Symposium on Pulmonary Surfactant. 1988年9月14日, Marburg, West Germany.

藤田葉子, 小岸久美子, 鈴木康弘 : 合成脂質及び肺表面活性物質アポ蛋白による格子状ミエリンの再構成. 1988年9月17日, 第24回日本界面医学会 (東京).

〔誌 上 発 表〕

Robertson B, Curstedt T, Grossmann G, Kobayashi T, Kokubo M, Suzuki Y.: Prolonged ventilation of the premature newborn rabbit after treatment with natural or apoprotein-based artificial surfactant. Eur J Paediatr 147: 168-173, 1988.

Fujita Y, Kogishi K, Suzuki Y.: Pulmonary damage induced in mice by a monoclonal antibody to proteins associated with pig pulmonary surfactant. Exp Lung Res 14: 247-260, 1988.

Kogishi K, Kurozumi M, Fujita Y, Murayama T, Kuze F, Suzuki Y.: Isolation and partial characterization of human low molecular weight protein associated with pulmonary surfactant. Am Rev Res Dis 137: 1426-1431, 1988.

Suzuki Y, Robertson B, Fujita Y, Grossmann G.: Respiratory failure in mice caused by a hybridoma making antibody to the 15kDa surfactant apoprotein. Acta Anesthes Scand 32: 283-289, 1988.

網谷良一, 田中栄作, 鈴木康弘, 石田直, 高橋晴雄, 久世文幸 : びまん性汎細気管支炎における気管・気管支粘膜線毛の機能および超微形態. —primary ciliary dyskinesia との関連—, 日本胸部臨床, 47: 483-490,

1988.

網谷良一, 倉澤卓也, 久世文幸, 鈴木康弘, 西山秀樹, 高橋晴雄: びまん性汎細気管支炎様所見を呈した Primary Ciliary Dyskinesia の1例. 京大胸部研紀要 21: 1-7, 1988.

加藤元一, 網谷良一, 倉澤卓也, 久世文幸, 青木 稔, 山崎文郎, 鈴木康弘: MUCOEPIDERMOID CARCINOMA の2症例. 京大胸部研紀要 21: 8-16, 1988.

細胞生物学分野

〔学会発表〕

K. Nagata, K. Hirayoshi, M. Obara, S. Saga, and K. M. Yamada: Regulation by mRNA levels and in vitro synthesis of a functional precursor of a novel transformation-sensitive heat shock protein. The 4th International Congress of Cell Biology. 1988年8月, Montreal, Canada.

K. Hirayoshi, S. Saga, and K. Nagata: Differentiation of teratocarcinoma F9 cells and the induction of heat shock protein (HSP47). The 4th International Congress of Cell Biology. 1988年8月, Montreal, Canada.

永田和宏, 都留秋雄, 中井 彰, 平芳一法, 鈴木康弘: マウス骨髓性白血病の分化と細胞骨格蛋白質. I. 分化に伴うビメンチンの変動: 第46回日本癌学会総会, 1988年9月, 東京.

都留秋雄, 平芳一法, 永田和宏: マウス骨髓性白血病細胞の分化と細胞骨格蛋白質. II. 分化に伴うアクチン結合蛋白質の変動, 同上学会.

平芳一法, 佐賀信介, 永田和宏: テラトカルチノーマ細胞F9の分化における transformation-sensitive heat shock protein (hsp47) の発現. 同上学会.

道下真弘, 吉田弥太郎, 内野治人, 永田和宏: 骨髓性白血病細胞の分化に伴う TNF レセプターの発現調節. 同上学会.

G. Li and K. Nagata: Heat shock proteins. The 5th international Symposium on Hyperthermic oncology. 1988年8月~9月, Kyoto. Japan.

K. Nagata, K. Hirayoshi, A. Nakai, S. Saga, M. Obara, and K. M. Yamada: A novel transformation-sensitive heat-shock protein (HSP47). 同上学会 (シンポジウム).

宇谷厚志, 田中俊宏, 錦織千佳子, 宮地良樹, 今村貞夫, 細川昌則, 竹田俊男, 平芳一法, 永田和宏: Ehlers-Danlos 症候群4型の1例. 第77回日本病理学会, 1988年5月, 札幌 (昭63. 5).

藤野まどか, 琴浦良彦, 岡 正典, 永田和宏: 培養軟骨細胞はフィブロネクチンの RGDS 配列に結合するか?. 日本整形外科学会, 1988年9月, 東京.

中井 彰, 夏目 徹, 平芳一法, 平山千里, 永田和宏: SV40 トランスフォーメーションによる HSP47 の発現調節, 第61回日本生化学会大会, 1988年10月, 東京.

H. Higashida, D. A. Brown, A. Ogura, J. Sagara, and K. Nagata: Modulation of two K⁺ currents by inositol triphosphate and protein kinase C. Takeda Science Foundation Symposium on Bioscience 1988. "Brain Signal Transduction and Memory". 1988年11月. Kyoto, Japan.

道下真弘, 吉田弥太郎, 内野治人, 永田和宏: TNF レセプターの発現調節——細胞分化及びインターフェロンによる調節. 第41回日本細胞生物学会大会, 1988年11月, 名古屋.

中井 彰, 平芳一法, K. M. Yamada, 永田和宏: Transformation sensitive heat shock protein (hsp47) はフェニチンに結合能を持つ. 同上学会.

平芳一法, 中井 彰, 夏目 徹, 平山千里, 永田和宏: 3T3 細胞の悪性転換に伴う hsp 47の発現調節. 同上学会.

都留秋雄, 中村暢宏, 鈴木康弘, 高山英次, 平芳一法, 永田和宏: 白血病細胞の分化に伴うビメンチン量の増加, 同上学会.

中村暢宏, 都留秋雄, 平芳一法, 河合明彦, 永田和宏: 白血病細胞の分化に伴うビメンチン動態の変化——細胞内プロテアーゼによる調節を受けるか? 同上学会.

藤野まどか, 岡 正典, 琴浦良彦, 永田和宏: 培養軟骨細胞のフィブロネクチンレセプター. 同上学会.
 宇谷厚志, 田中俊彦, 錦織千佳子, 宮地良樹, 今村貞夫, 平芳一法, 永田和宏, 細川昌則, 竹田俊男: エーラー・ダンロス症候群4型患者のⅢ型コラーゲン: 細胞内分解の亢進. 同上学会.

〔誌 上 発 表〕

K. Nagata, K. Hirayoshi, M. Obara, S. Saga and K. M. Yamada: Biosynthesis of a novel transformation-sensitive heat-shock protein that binds to collagen. Regulation by mRNA levels and in vitro synthesis of a functional precursor. *J. Biol. Chem.* 263 8344-8349 (1988).

K. Nagata, S. Saga and K. M. Yamada: Characterization of a novel transformation-sensitive heat-shock protein (HSP47) that binds to collagen. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 153 428-434 (1988).

永田和宏, 佐賀信介: コラーゲン結合能を持った新しい熱ショックタンパク質 (hsp47). *細胞工学* 第7巻 55-64 (1988)

永田和宏: 熱ショック蛋白質と温熱耐性発現 代謝 第28巻 臨時増刊号「癌 '88」 235-240 (1988).

永田和宏: 熱ショック蛋白質の新展開. *実験医学*. 第6巻, 831-833 (1988).

佐賀信介, 平芳一法, 永田和宏: コラーゲン結合性熱ショック蛋白質 hsp47——コラーゲンとの関係を中心に. *生体の科学*, 第39巻 270-274 (1988).

永田和宏: 温熱と gene control——熱ショック蛋白質の発現機構. *BIO THERAPY* 第2巻, 1029-1035 (1988).

平芳一法: 新しい熱ショック蛋白質 (hsp47) は分化・トランスフォーメーションに関連する, *医学のあゆみ*, 第146巻. 627 (1988).

ガンミニシンポジウム

「熱ショック蛋白質の発現と機能」

昭和63年9月5日

京都大学医学部総合解剖センター

プ ロ グ ラ ム

挨拶.....伊 藤 嘉 明 (京大・ウイルス研)
 序 論.....永 田 和 宏 (京大・胸部研)

座長.....矢 原 一 郎

1. 大腸菌の熱ショック蛋白質.....由 良 隆 (京大・ウイルス研)
2. Intracellular Localization of hsp 70 and Heat Resistancy.

.....A. Laszlo (Washington Univ. St. Louis)

座長.....由 良 隆

3. Hsp70 and ThermotoleranceG. C. Li (UCSF, San Francisco)
4. Hsp 90 ファミリーの構造と機能矢 原 一 郎 (東京都臨床研)
5. A Transformation and Differentiation-sensitive Heat Shock Protein (hsp 47)

.....平 芳 一 法 (京大・胸部研)

結 語.....翠 川 修 (京大・医)

世話人 永 田 和 宏 (京大・胸部研)

伊 藤 嘉 明 (京大・ウイルス研)

武 部 啓 (京大・医)

翠 川 修 (京大・医)

腫瘍学分野

〔著書一分担執筆〕

高橋正治, 阿部光幸: 腫瘍の治療—放射線療法. 新外科学体系, 第10巻B「腫瘍の外科II」, 出月康夫, 川島康生, 杉町圭蔵, 高木 弘, 戸部隆吉, 堀 原一, 武藤輝一, 森岡恭彦編, 中山書店, 東京, 1988, p. 92-104.

高橋正治, 芝本雄太, 阿部光幸: 脳腫瘍—神経膠腫に属するもの. 放射線医学大系, 第32巻, 重松 康, 星野文彦, 久田欣一, 佐久間貞行, 小塚隆弘, 人江五朗, 市川平三郎, 阿部光幸, 鈴木宗治, 飯尾正宏, 松浦啓一編, 中山書店, 東京, 1988, p. 14-30.

H. Hiraoka, S. Jo, K. Akuta, Y. Nishimura, Y. Nagata, S. Masunaga, M. Takahashi, M. Abe: Clinical Assessment of Radiofrequency Capacitive Hyperthermia in Deep Heating. "Current Research in Hyperthermic Oncology", E. Kano ed., Academic Press, Tokyo, Orland, New York, Austin, Boston, London, Sydney, Tronto, 1988, p. 215-223.

高橋正治, 芝本雄太, 阿部光幸: 術中照射. がん放射線治療マニュアル, 柄川 順編, 中外医学社, 東京, 1989, p. 386-399.

M. Takahashi: Intraoperative Radiation Therapy for Prostatic Cancer. "Intraoperative Radiation Therapy", R. R. Dowbelbower, M. Abe eds, CRC Press Inc., Florida, 1989, to be published

〔総説, 原著〕

芝本雄太, 笹井啓資, 高橋正治, 阿部光幸, 廖 福順, 西本清一, 鍵谷 勤: 新しい2-ニトロイミダゾール・スクレオシド類縁体 (RK-28, RK-29) の放射線増感効果. 日癌学会誌, 23: 13-18, 1988.

高橋正治, 西村恭昌, 阿部光幸: 食道癌放射線治療後2年生存例の検討—多施設による共同調査の報告. 日本医放会誌, 48: 56-64, 1988.

芥田敬三, 徐 志堅, 平岡真寛, 西村恭昌, 永田 靖, 高橋正治, 阿部光幸: 正常肝組織の局所加温による変化に関する研究. 第2報: 家兔正常肝の局所加温による病理組織学的変化について. 日本ハイパーサーミア誌, 4: 1-8, 1988.

高橋正治, 芝本雄太, 阿部光幸: 新しい癌の補助療法: 術中照射療法. 外科治療, 58: 504-514, 1988.

高橋正治, 平岡真寛, 徐 志堅, 芥田敬三, 西村恭昌, 永田 靖, 増永慎一郎, 阿部光幸: 深在性腫瘍の放射線併用温熱療法の成績と治療評価に関する問題点. 癌と化学療法, 15: 1408-1413, 1988.

永田 靖, 中野善久, 高橋正治, 阿部光幸, 佐賀恒夫, 岡島 肇, 細野 真, 光野重根: 肝癌の骨転移に対する動脈塞栓療法. 日本医放会誌, 48: 417-422, 1988.

西村恭昌, 高橋正治, 平岡真寛, 徐 志堅, 芥田敬三, 永田 靖, 阿部光幸: 腹部骨盤部深部腫瘍に対する温熱併用放射線治療の予後因子に関する検討. 日本医放会誌, 48: 433-443, 1988.

高橋正治: 腹部消化器癌に対する放射線療法の適応, 外科, 50: 755-760, 1988.

西台武弘, 永田 靖, 湯川 豊, 野原弘基, 高橋正治, 阿部光幸, 山岡俊行, 石原 浩, 久保康文, 太田 宏, 上総中寛: CT シミュレータ: マルチ画像を用いた新しい3次元治療計画システム. 日放技学会誌, 44: 739-744, 1988.

小野公二, 笹井啓資, 筒井一成, 高橋正治, 阿部光幸, 灘井智代子, 浜川純一: 肺癌の放射線治療成績—長期生存に関する治療側因子. 日本医放会誌, 48: 988-994, 1988.

真辺忠夫, 馬場信雄, 鈴木 敏, 戸部隆吉, 高橋正治, 内田耕太郎: 膀胱癌に対する放射線併用療法. 膀胱, 3: 60-62, 1988.

芝本雄太, 高橋正治, 阿部光幸: 局所進行大腸癌に対する術中照射の経験. 臨床放射線, 33: 1087-1092, 1988.

芝本雄太, 笹井啓資, 高橋正治, 阿部光幸: Hypoxic cell sensitizer の実験的効果判定. 癌の臨床, 34: 1859-1963, 1988.

高橋正治, 平岡真寛, 芥田敬三, 西村恭昌, 永田 靖, 増永慎一郎, 徐 志堅, 阿部光幸: 放射線と温熱との併用療法, 日本ハイパーサーミア誌, 4: 352-355, 1988.

高橋正治, 永田 靖, 西台武弘, 阿部光幸: 放射線治療計画及び治療効果判定のための画像診断. 画像診断, 8: 1472-1481, 1988.

M. Abe, M. Takahashi, Y. Shibamoto, K. Ono, E. Yabumoto, K. Mori: Derzeitige Stellung der intraoperativen Strahlentherapie. Chirurg, 59: 211-217, 1988.

T. Manabe, T. Miyashita, G. Ohshiro, A. Nonaka, T. Suzuki, K. Endo, M. Takahashi, T. Tobe: Small cell carcinoma of the pancreas. Clinical and pathological evaluation of 17 patients. Cancer, 62: 135-141, 1988.

Y. Shibamoto, M. Abe, J. Yamashita, M. Takahashi, M. Hiraoka, K. Ono, K. Tutui: Treatment results of intracranial germinoma as a function of irradiated volume. Int J Radiat Oncol Biol Phys, 15: 285-290, 1988.

Y. Nishimura, M. Hiraoka, S. Jo, K. Akuta, Y. Yukawa, Y. Shibamoto, M. Takahashi, M. Abe: Microangiographic and histologic analysis of the effects of hyperthermia on murine tumor vasculature. Int J Radiat Oncol Biol Phys, 15: 411-420, 1988.

Y. Nishimura, Y. Shibamoto, S. Jo, K. Akuta, M. Hiraoka, M. Takahashi, M. Abe: Relationship between heat-induced vascular damage and thermosensitivity in four mouse tumors. Cancer Res, 48: 7226-7230, 1988.

M. Abe, M. Takahashi, K. Ono, T. Tobe, T. Inamoto: Japan gastric trials in intraoperative radiation therapy. Int J Radiat Oncol Biol Phys, 15: 1431-1433, 1988.

古瀬清行, 原 信行, 西脇 裕, 成毛韶夫, 池上晴通, 高橋正治, 飯岡状吾, 仁井谷久暢: 非切除非小細胞肺癌(臨床病期ⅢA N2, Performance Status 0, 1)の予後—第28回日本肺癌学会総会(1987年・大阪)シンポジウム「Ⅲ期(N2)非小細胞肺癌の治療」における集計報告. 肺癌, 29: 1-7, 1989.

増永慎一郎, 平岡真寛, 高橋正治, 徐 志堅, 芥田敬三, 西村恭昌, 永田 靖, 阿部光幸: 局所進行, 再発乳癌に対する温熱併用放射線治療成績, 日本医放会誌, 49: 304-313, 1989.

芝本雄太, 高橋正治, 岡田謙一郎, 大石賢二, 吉田 修, 阿部光幸: 前立腺癌に対する術中照射の長期成績. 日本放射線腫瘍学会誌, 1: 13-18, 1989.

〔国際学会, 国内学会総会発表および抄録〕

〔日本医学放射線学会総会発表 昭和63年3月29日～4月1日 東京〕

高橋正治, 筒井一成, 小野公二, 西台武弘, 阿部光幸: 放射線治療における TDF 値の検討. 日本医放会誌, 48 (臨時増刊号), 1988, p. 89.

小野公二, 笹井啓資, 筒井一成, 高橋正治, 阿部光幸: 肺癌の化学療法併用放射線治療成績. 同上, 107.

笹井啓資, 小野公二, 平岡真寛, 筒井一成, 阿部光幸, 灘井智代子, 浜川純一: 肺扁平上皮癌放射線治療効果に対する動脈血酸素含有量の影響. 同上, p. 108.

芝本雄太, 筒井一成, 小野公二, 平岡真寛, 高橋正治, 阿部光幸: 髄芽腫の放射線治療. 同上, p. 133.

増永慎一郎, 高橋正治, 徐 志堅, 平岡真寛, 芥田敬三, 西村恭昌, 永田 靖, 阿部光幸: 乳癌に対する温熱併用放射線治療の臨床的検討. 同上, p. 173.

芥田敬三, 平岡真寛, 徐 志堅, 西村恭昌, 増永慎一郎, 高橋正治, 阿部光幸: 悪性軟部腫瘍に対する温熱併用放射線療法. 同上, p. 174.

西村恭昌, 平岡真寛, 徐 志堅, 芥田敬三, 永田 靖, 増永慎一郎, 高橋正治, 阿部光幸: 大腸癌に対する放射線治療の検討, 温熱療法の意義. 同上, p. 174.

西台武弘, 永田 靖, 増永慎一郎, 高橋正治, 阿部光幸: CT シミュレータの性能. 同上, p. 176.

永田 靖, 西台武弘, 増永慎一郎, 高橋正治, 阿部光幸: CT シミュレータの臨床応用 (その意義と問題点). 同上, p. 213.

〔日本癌学会・第47回総会, 昭和63年9月20日~22日 東京〕

筒井一成, 小野公二, 笹井啓資, 西台武弘, 高橋正治, 阿部光幸: ブドウ糖負荷による Cyclophosphamide の細胞毒性増強に関する研究. 日本癌学会総会記事, 1988, p. 568.

笹井啓資, 芝本雄太, 公野公二, 筒井一成, 伏木雅人, 高橋正治, 阿部光幸: 新しい低酸素細胞放射線増感剤 KIH802 の放射線増感効果について. 同上, p. 624.

小野公二, 伏木雅人, 筒井一成, 笹井啓資, 高橋正治, 阿部光幸: 実験肝腫瘍に対する IdUrd の放射線増感効果. 同上, p. 651.

鍵谷 勤, 西本 清一, 芝本 雄太, 汪 俊, 周 令, 笹井啓資, 下川和弘, 久永順郷, 高橋正治, 阿部光幸: フッ素化ニトロアゾール誘導体の低酸素性細胞増感性能. 同上, p. 652.

増永慎一郎, 平岡真寛, 高橋正治, 徐 志堅, 芥田敬三, 西村恭昌, 永田 靖, 阿部光幸: 局所進行・再発乳癌に対する温熱併用放射線治療成績—放射線単独治療との比較. 同上, p. 654.

伏木雅人, 小野公二, 笹井啓資, 芝本雄太, 筒井一成, 西台武弘, 高橋正治, 阿部光幸: 放射線照射時における顆粒球減少症に対する G-CSF の効果. 同上, p. 660.

〔第24回 日本医学放射線学会秋期臨床大会 昭和63年10月14-15日 久留米〕

高橋正治: シンポジウムⅡ・癌の温熱療法 放射線と温熱との併用療法. 予稿集: 36, 1988.

〔VI Int. Meeting on Chemical Modifiers of Cancer Treatment, March 22-25, 1988, Paris〕

K. Ono, E. Wandl, K. Sasai, K. Tsutsui, Y. Shibamoto, M. Takahashi, M. Abe: Combined effect of radiation and SMANCS on murine tumor and bone marrow.

K. Ono, M. Fushiki, K. Tsutsui, M. Takahashi, M. Abe: Radiosensitization of experimental liver tumor by IdUrd.

K. Ono, K. Akuta, M. Takahashi, M. Abe, Y. Nishio, K. Okada, O. Yoshida: Preoperative irradiation to bladder cancer in combination with misonidazole.

〔World Conference on Medical Physics and Biomedical Engineering, Aug. 6-12, 1988, San Antonio, Texas〕

T. Nishidai, Y. Nagata, M. Takahashi, M. Abe: A real time CT-linked 3-D treatment planning system. Physics in Medicine and Biology 33 (Suppl. 1): 137, 1988.

〔5th International Symposium on Hyperthermic Oncology, Aug. 29- Sept. 3, 1988, Kyoto〕

K. Akuta, M. Hiraoka, Y. Nishimura, Y. Nagata, S. Masunaga, S. Jo, M. Takahashi, M. Abe: Clinical evaluation of the tumor response to hyperthermia.

S. Masunaga, M. Hiraoka, M. Takahashi, S. Jo, K. Akuta, Y. Nishimura, Y. Nagata, M. Abe: Clinical results of thermotherapy for locally advanced and recurrent breast cancer—in comparison of results with radiotherapy alone.

M. Takahashi, H. Nohara, K. Akuta, S. Jo, M. Hiraoka, M. Abe, T. Oshima, K. Hiraoka: In vitro and in vivo study on wireless thermometry system using an implantable quartz sensor for hyperthermia.

Y. Nagata, M. Hiraoka, K. Akuta, S. Jo, Y. Nishimura, S. Masunaga, M. Takahashi, M. Abe: Hyperthermia for malignant liver tumors.

K. Akuta, M. Hiraoka, S. Jo, Y. Nishimura, Y. Nagata, S. Masunaga, H. Nohara, M. Takahashi, M. Abe: A newly developed interstitial applicator for RF current heating.

M. Hiraoka, S. Jo, K. Akuta, Y. Nishimura, Y. Nagata, S. Masunaga, M. Takahashi, M. Abe: The relevance of tumor volume and histology in the response of human tumors to combined heat and radiation.

Y. Nishimura, Y. Shibamoto, Y. Yukawa, S. Jo, K. Akuta, M. Hiraoka, M. Takahashi, M. Abe: Relationship between vascular damage and heat sensitivity.

S. Jo, Y. Nishimura, K. Akuta, M. Hiraoka, Y. Nagata, S. Masunaga, M. Takahashi, M. Abe: The response of normal tissue to local hyperthermia in rabbits.

Y. Nishimura, M. Hiraoka, K. Akuta, S. Jo, Y. Nagata, S. Masunaga, M. Takahashi, M. Abe: RF capacitive hyperthermia in the heating of human deep-seated tumors.

[2nd Int. Symposium on Intraoperative Radiation Therapy, Sept. 11-14, 1988, Innsbruck, Austria]

M. Abe, M. Takahashi, Y. Shibamoto, K. Ono, E. Yabumoto: Today's position of intraoperative radiation therapy.

Y. Shibamoto, M. Takahashi, K. Okada, O. Yoshida, M. Abe: Intraoperative radiotherapy for prostatic cancer: Results of long term follow-up.

J. Yamashita, H. Kikuchi, M. Abe, M. Takahashi, Y. Shibamoto: Indication of intraoperative radiation therapy for the treatment of recurrent malignant brain tumors,

〔そ の 他〕

母里知之：文部省がん特別研究Ⅰ「放射線の制がん効果を増強する薬剤の開発とスクリーニングシステムの確立に関する研究」。昭和62年度 文部省科学研究費補助金による「がん」特別研究報告集録，1988（3月），p. 421-423.

高橋正治：文部省がん特別研究Ⅱ「深在性腫瘍の温熱療法における亜侵襲的測温方法に関する研究」。同上：641-644.

松田忠義：厚生省がん研究助成金，総合研究「がんの全身的並びに深部局所的温熱治療体系の確立に関する研究」。昭和62年度厚生省がん研究助成金による研究報告集，1988（8月），p. 87-97.

感染免疫動物実験施設

〔誌 上 発 表〕

Maeda, M., Noma, T., Hama, K. and Honjo, T.: Application of a T cell line derived from a Sézary syndrome for human interleukin-4 assay. *Immunol. Lett.*, 1988, 18 : 247-254.

Nishimura, M., Akiguchi, I., Takigawa, I., Fujita, M., Kameyama, M. and Maeda, M.: Human T cell lines established from the cerebrospinal fluid of patients with human T lymphotropic virus type-I associated myelopathy (HAM). *J. Neuroimmunol.*, 17 : 229-236, 1988.

Nishimura, M., Adachi, A., Maeda, M., Akiguchi, I., Fujita, M., Kameyama, M. and Ishimoto, A.: Analysis of the provirus genome integrated in T cell lines established from the cerebrospinal fluid of patients with human T lymphotropic virus type I-associated myelopathy (HAM). *J. Neuroimmunol.*, 1988, 20 : 33-37.

Umehara, H., Kumagai, S., Ishida, H., Suginoshita, T., Maeda, M. and Imura, H.: Enhanced production of interleukin-2 in patients with progressive systemic sclerosis: Hyperactivity of CD4⁺ positive T Cells? *Arthritis Rheum.*, 31: 401-407, 1988.

Yoshida, K., Seki, M., Maeda, M., Fujita, J., and Tadokoro, K.: Production of interleukin-3 from a T-cell neoplasm. *Leuk. Res.*, 12 : 731-736, 1988.

Sawada, H., Itoh, K., Kirikae, T., Sakoda, H., Tezuka, H., Kuribayashi, K., Maeda, M., Yoshida, Y., Uchino, H., Hanaoka, M. and Mori, J. K.: Establishment of a hemopoietic stimulating factor producing murine leukemia cell lines: pathogenesis of granulocytosis in L8313 bearing mice. *Leuk. Res.*, 12 : 763-771, 1988.

Yodoi, J., Yagaya, Y. and Maeda, M.: Interleukin 2 receptor inducers: pathological roles in adult T cell leukemia. *Interleukin 2*. pp.197-222. ed. Kendall A. Smith. Academic Press. 1988.

淀井淳司，多賀谷温，杉江勝治，前田道之：IL-2 と T 細胞の増殖制御，現代免疫学，156-164，1988，医学書院。

神頭 徹，前田道之，人見滋樹，淀井淳司：IL-2，新基礎生化学実験法(6)，生物活性を用いる測定法，241-244，1988。丸善。

Ohno, Y., Aoki, N. and Maeda, M.: Effects of natural human interferon- α , - β and - γ on interleukin 2 production in human peripheral lymphocytes. Immunol. Lett. 17: 339-344, 1988.

〔学 会 発 表〕

前田道之: ATL 発症と IL-2, 第5回京都大学ウイルス研究所コロキウム「レトロウイルスの病原性とその発現機構」1988年1月, 京都.

前田道之: T細胞レセプター・IL-2 レセプター遺伝子とリンパ腫, 第7回皮膚リンフォーマ研究会・特別講演, 1988年7月, 浜松.

前田道之, 宇佐美一政, 沢見万里, 清水 章, 内山 卓, 淀井淳司, 本庶 佑: Stability of the leukemic cell clone in vivo in a chronic ATL, 第47回日本癌学会総会, 1988年9月, 東京

多森繁喜, 小高泰一, 神尾昌則, 内山 卓, 内野治人, 前田道之: IL-2 依存性, 非依存性 ATL 細胞株におけるCキナーゼ活性化による細胞増殖の相違. 第47回日本癌学会総会, 1988年9月, 東京.

小高泰一, 多森繁喜, 神尾昌則, 内山 卓, 内野治人, 前田道之: IL-2 依存性, 非依存性 ATL 細胞株における IL-2, TPA 刺激後の c-myc, c-myb 発現の相違, 第47回日本癌学会総会, 1988年9月, 東京.

多賀谷温, 前田裕弘, 三井 彰, 近藤信雄, 松井 裕, 前田道之, 内山 卓, 淀井淳司: ADF (ATL-derived Factor) の遺伝子クローニングとその生物学的活性, 第47回日本癌学会総会, 1988年9月, 東京.

中久保史, 野間隆文, 杉田昌彦, 熊谷俊一, 前田道之, 清水 章, 本庶佑: ヒトT細胞白血病細胞株を各種インタロイキンの発現状態によってサブセット分類することは可能か, 第18回日本免疫学会総会, 1988年12月, 京都.

多賀谷温, 増谷 弘, 三井 彰, 近藤信雄, 松井 裕, 新井賢一, 横田 崇, 前田道之, 淀井淳司: ATL-derived factor (ADF); Molecular cloning & homology analysis, 第18回日本免疫学会総会, 1988年12月, 京都.

薬 剤 部

〔学会・研究会・講演発表〕

佐野雅俊, 川勝一雄, 山本育由, 後藤光良, 武山正治, 山科 肇: ヒトにおけるピリドンカルボン酸系抗菌剤のテオフィリン腎排泄過程に及ぼす影響. 日本薬学会第108年会 (1988. 4. 6. 広島).

川勝一雄, 武山正治, 川合 満, 岸本育子, 谷川原祐介, 堀 了平: 外来喘息患者におけるアミノフィリン点滴静注の臨床薬理学的検討. 日本薬学会第108年会 (1988. 4. 6. 広島).

Mitsuru Kawai, Takuya Kurasawa, Fumiyuki Kuze, Kazuo Kawakatsu, Masaharu Takeyama: Theophylline in the treatment of bronchial asthma. The 4th Japan Korean Allergy Symposium (1988. 5. 6. Tokyo),

川勝一雄: 気管支喘息の薬物治療一症例の提示と臨床薬理学的考察一. 第3回臨床薬理セミナー (1988. 8. 21. 熊本).

岸本育子, 谷川原祐介, 堀 了平, 川勝一雄, 武山正治, 川合 満: 外来喘息患者におけるアミノフィリン点滴静注の臨床薬理学的検討. 第3回薬物モニタリング全国交流会 (1988. 9. 15. 東京).

川合 満, 加藤元一, 倉澤卓也, 久世文幸, 川勝一雄: 徐放性テオフィリン製剤の生物学的同等性に関する検討. 第38回日本アレルギー学会 (1988. 9. 28. 京都).

川勝一雄, 木野稔也, 安場広高, 川口英人, 鏑田利恵子, 大島駿作: テオフィリンの体内動態に及ぼす OKY-046 の影響. 第38回日本アレルギー学会 (1988. 9. 28. 京都).

川勝一雄, 中島英一, 澤岡平和, 井狩 節, 川合 満: 徐放性テオフィリン製剤の生物学的同等性に関する検討. 第10回日本病院薬剤師会近畿学術大会 (1989. 1. 29. 大津).

〔著 書（分担執筆）〕

川勝一雄，谷川原祐介：テオフィリン．堀 了平監修「薬物血中濃度モニタリングのための Population Pharmacokinetics 入門」p. 265-275, 薬業時報社, 1988.

川田昌子（共同執筆）：「呼吸器病レジデントマニュアル」. 泉 孝英，宮城征四郎編，医学書院，1988.

〔誌 上 発 表〕

川勝一雄，武山正治，川合 満：徐放性テオフィリン製剤の吸収特性に関する比較検討．アレルギー37(5), 256-264, 1988.

Sano, M., Kawakatsu, K., Ohkita, C., Yamamoto, I., Takeyama, M., Yamashita, H., and Goto, M.: Effects of Enoxacin, Ofloxacin and Norfloxacin on Theophylline Disposition in Humans. Eur. J. Clin. Pharmacol., 35, 161-165, 1988.